

平成26年度 滋賀県学校支援地域本部一覧（従来型） 8市町45本部

No	市町名	本部名	学校名	幼稚園等	小学校	中学校
1	彦根市	東中学校区支援地域本部	城東小学校 佐和山小学校 旭森小学校 東中学校	0	12	5
		西中学校区支援地域本部	城西小学校 城北小学校 西中学校			
		南中学校区支援地域本部	城南小学校 城陽小学校 若葉小学校 亀山小学校 南中学校			
		彦根中学校区支援地域本部	河瀬小学校 高宮小学校 彦根中学校			
		鳥居本中学校区支援地域本部	鳥居本小学校 鳥居本中学校			
2	近江八幡市	八幡小学校支援地域本部	八幡小学校	6	10	3
		島小学校支援地域本部	島小学校			
		沖島小学校支援地域本部	沖島小学校			
		岡山小学校支援地域本部	岡山小学校			
		金田小学校支援地域本部	金田小学校			
		桐原東小学校支援地域本部	桐原東小学校			
		馬淵小学校支援地域本部	馬淵小学校			
		北里小学校支援地域本部	北里小学校			
		武佐小学校支援地域本部	武佐小学校			
		老蘇小学校支援地域本部	老蘇小学校			
		八幡西中学校支援地域本部	八幡西中学校			
		八幡東中学校「人生伝承塾」推進委員会	八幡東中学校			
		安土中学校支援地域本部	安土中学校			
		岡山幼稚園支援地域本部	岡山幼稚園			
		桐原幼稚園支援地域本部	桐原幼稚園			
		金田幼稚園支援地域本部	金田幼稚園			
		北里幼稚園支援地域本部	北里幼稚園			
		安土幼稚園支援地域本部	安土幼稚園			
		老蘇幼稚園支援地域本部	老蘇幼稚園			
3	栗東市	栗東中学校支援地域本部	栗東中学校	0	0	1
4	湖南市	みくもっ子支援委員会	三雲小学校	0	3	3
		東っ子応援団	三雲東小学校			
		スクールサポートなすびいず	下田小学校			
		日枝中学校支援地域本部	日枝中学校			
		石部中学校支援地域本部	石部中学校			
		甲西北中学校支援地域本部	甲西北中学校			
5	東近江市	蒲生地区学校支援地域本部	蒲生東小学校 蒲生西小学校 蒲生北小学校 朝桜中学校	0	13	2
		湖東第一小学校支援地域本部	湖東第一小学校			
		湖東第二小学校支援地域本部	湖東第二小学校			
		湖東第三小学校支援地域本部	湖東第三小学校			
		箕作小学校支援地域本部	箕作小学校			
		市原小学校支援地域本部	市原小学校			
		五個荘小学校支援地域本部	五個荘小学校			
		玉緒小学校支援地域本部	玉緒小学校			
		八日市南小学校支援地域本部	八日市南小学校			
		船岡中学校区学校支援地域本部	八日市西小学校 船岡中学校			
		愛東地区学校支援地域本部	愛東北小学校			
6	米原市	米原市学校支援地域本部	柏原小学校 山東小学校 大原小学校 伊吹小学校 春照小学校 米原小学校 河南小学校 坂田小学校 息長小学校	0	9	0
7	竜王町	竜王町学校支援地域本部	竜王幼稚園 竜王西幼稚園 竜王小学校 竜王西小学校 竜王中学校	2	2	1
8	多賀町	多賀町学校支援地域本部	多賀幼稚園 大滝幼稚園 多賀ささゆり保育園 たきのみや保育園 多賀小学校 大滝小学校 多賀中学校	4	2	1
合 計				12	51	16
				79		

■ 彦根市における学校支援地域本部の取組（従来型）

持続発展教育（E S D）持続可能な社会・次代を担う彦根の子どもを地域の人々で守り育てます。

■めざす姿

○教員が子どもと向き合う時間の確保など、多様な形態の教員支援を可能とするため、地域全体での学校教育の支援、および学校と地域との連携体制の構築を推進する。さらに、地域住民が自らの経験や知識を活かす場として自己実現や生きがいがいづくり、地域の人材活用・活性化と地域づくりにつなぐ。市内7中学校区地域教育協議会（従来型/東・西・南・彦根・鳥居本 いじめ対応型/中央・稲枝）で実施する。

■本年度の活動

○平成26年度の取組重点（継続） 地域協議会の活性化 学習支援活動を全ての小中学校で実施

○実行委員会の開催（年3回）

構成委員：15名（各中学校長、地域コーディネーター、彦根PTA連絡協議会会長）

事務局（生涯学習課長・主幹、学校教育課長・主査）

第1回：8月4日（月）事業説明・実践交流

第2回：11月26日（水）研修会・実践交流

第3回：3月 実践報告・振り返り

○学校訪問 11月 7中学校訪問 学校支援地域本部事業の進捗状況の把握、今後の取組の確認

○平成26年度優れた「地域による学校支援活動」推進にかかる文部科学大臣表彰

12月8日（月）文部科学省東館3階講堂（東京都千代田区霞が関3-2-2）

被表彰団体：彦根市学校支援地域本部

○特徴的な活動内容【従来型】

- ・小学校での登下校見守り、安全指導
- ・小中学校での読み聞かせと図書室環境の整備
- ・夏季休業中の希望する児童生徒への学習補助支援
- ・放課後の学習支援
- ・課題のある児童生徒や別室（登校）児童生徒に対する授業の補助
- ・中学校の部活動支援
- ・地域へ広報紙を発行、学校支援の啓発
- ・その他学校のニーズによる支援活動

■本年度の成果

○全小中学校で取組むことで、地域住民が学校内外で子どもと接する機会、会話が多くなり、豊かなかかわりができた。

○地域コーディネーターが中心になり、子どもの様子、学校支援の取組内容が、地域へ発信できた。周知を図ることで、「地域の子は地域で守り育てる」機運が高まった。

○地域協議会、実行委員会での交流により、取組体制や支援内容、方法について情報共有できた。



【3年総合・わたしの町じまん】

■今後の課題

○地域コーディネーターと学校関係者が連携を図り、地域支援者をさらに巻き込む取組の開発

○事業を支える支援ボランティアの確保

○人材バンクの整備

■その他

○彦根市では、E S D（持続発展教育）教育、持続可能な社会を担う人づくりを進めている。さらに「学び合い・つながり・活かす生涯学習のまちづくり」を進め、豊かな地域コミュニティの創造にも力を入れている。平成25年度末の本市社会教育委員の会議の提言の中でも、この学校支援地域本部事業の大切さを強調していただいているところである。今後、コミュニティスクールとの一体化を視野に入れた取組・地域で学校を支える仕組みづくりについても検討していきたい。

子どもたちの笑顔のために～できる人が できる時に できることを～（東中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
東中学校区支援地域本部・東中学校（従来型）
■ 関係する学校
東中学校・城東小学校・佐和山小学校・旭森小学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	48 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

平成20年9月より彦根市で初めての学校支援地域本部事業が、元教員のコーディネーターの指導のもと、本校でスタートした。今年度も2名のコーディネーターにより、6年間の取り組みの成果をさらに生かして活動が進められている。本校では「生徒に寄り添う学習支援」に力を入れるとともに、中学校における特徴的な活動として「学習相談活動」「部活動の指導」「読み聞かせ・図書整備活動」「地域と学校の安心安全推進活動」にも支援の幅を広げている。

■ 特徴的な活動内容

・「放課後学習における学習サポート」

3年生を対象に基礎学力の定着をめざして、11月より3月まで、火曜日と木曜日に個に応じた学習指導の補助を行っている。開設教科を国語、数学、英語とし、今年度は10数名の生徒が自分の希望の進路実現に向けて励んでいる。学習支援として毎年地域のみなさんに募集をし、毎年来ていただいている地域の方、新たにきていただいた学生の方を含め、7名の方にそれぞれの経験や専門性を生かした支援をお願いしている。

・「読み聞かせ・図書室整備活動」

「朝読書」の時間に「読み聞かせ」の予定を組み入れ、7～8名のボランティアのみなさんに各クラスで「読み聞かせ」をしていただいている。1学年7、8クラスのため、学年をA団、B団と2つに分けて実施している。図書室の整備活動には地域のボランティアの方々に毎週月曜日にきていただき、図書室の開館時のサポートをお願いしている。

・「ゲストティーチャーによる授業」

1年生では家庭科の授業で「ゆかた体験」を実施し、10名の着付けの先生にきていただき、一人ひとりに浴衣を着る機会を設け、日本の伝統衣服としての着物のもつ意義を学習した。7クラスのため、数日に渡って先生方にきていただいたが、1年生全員が体験できたことは意義深いことであった。2年生では「職業講座」として、今年度は「元プロ野球選手」による講演を職場体験前の事前学習として実施した。当日は学年だけでなく、参加を希望する他の学年の保護者にも広げることができた。職業を選択する上で希望をかなえるための努力の大切さを学んだ。3年生では「性教育講座」の講師として「産婦人科医師」を招き、「自分の命の大切さ」とともに「他の人の命の大切さ」を学習するとともに、家族に感謝する機会となった。

・「部活動の指導補助」

サッカー部、水泳部、卓球部、書道部、吹奏楽部の活動補助として、放課後や休日の活動時に専門的な指導をしていただいている。運動部においては、技術指導をお願いし、部活動の成績に大きく貢献している。書道部においては地域で書道教室を開いておられる先生にきていただき、有意義な活動となっている。

■ 実施に当たっての工夫

4月当初の職員会議で、地域ボランティア活動を本校教職員が理解し、積極的に取り組めるように、コーディネーターの方から事業内容を説明していただいた。このことにより各教師の要望等をコーディネーターの方と協議、相談しながら取り入れ、教育活動が滑らかに進められるようになった。3年生を対象にした「放課後の学習相談」の教室を少人数教室から理科室に変更した。理科室には大机が数脚設置されており、グループ毎に学習することができるからである。その他、ボランティアの方との連絡については当日の急な開始時刻の変更や実施の有無等について、「メール」を利用することにより混乱を避けることができた。

「放課後学習相談」活動の終了後、ボランティアの方に集まっておき、学習内容や進捗等の情報交換の場を設けることによって、課題や成果を確認する場となった。

■ 事業の成果

「放課後学習相談」では生徒とボランティアのみなさんとが打ち解け、希望の進路実現に向けて応援をしてくださることに生徒はこたえようと日々がんばる姿が見えた。生徒たちにとっては人の温かい思いを感じ、期待にこたえようとすることで自分を伸ばすことができたと思われる。

また、「ゲストティーチャー」を招いての学習では、教師の指導に限界がある専門的内容を教えていただき、生徒のもっている力をさらに伸ばす機会となった。

「部活動支援」についてもボランティアの方の専門性を生かして指導していただきそれぞれのスキルアップを図ることができた。

■ 事業実施上の課題

ボランティアの登録数が減少傾向にあるのは、中学生対象の活動は敬遠されることが多いからかと思われる。しかし、実際に活動に参加していただくと「思っていたより素直だ。」という声を聞くので、実態を地域に発信していく必要がある。



■ 伝統を引き継ごう ～マーチングバンド活動の充実に向けて～（城東小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
東中学校区支援地域本部・城東小学校（従来型）
■ 関係する学校
城東小学校・佐和山小学校・旭森小学校・東中学校

コーディネーター数	3 人
ボランティア登録数	2 人
開 始 年 度	平成20年度

■ 活動の概要

○活動のねらい

- ・マーチングバンドの演奏を通して豊かな情操を養うとともに、5・6年生が交流することを通して学校の伝統を大切にしていこうとする気持ちを育む。
- ・マーチングバンドの演奏を通して、演奏技能の上達を図りながら、みんなでよい音楽発表を創り出そうという課題をもち、音の出し方や演奏の仕方などを工夫して活動することができる。
- ・日々の練習や学校行事、地域行事への参加などの活動を通して、学校の伝統を誇りにする気持ちを育み、学校への愛着を深める。

○編成と指導体制

- ・マーチングバンドは、6年生（後期は5年生）児童で編成し、管楽器・打楽器・カラーガードに分かれて毎週金曜日の6校時に練習を行っている。
- ・教職員が分担して指導（前期9名、後期9名）にあたり、年間30時間程度活動している。
- ・外部から、非常勤講師（社会人活用）1名、ボランティア2名の方に演奏指導に来ていただいている。



■ 特徴的な活動内容

- ・各パートの練習（毎週金曜日6校時）
- ・運動会、卒業式歓送などの校内行事への参加
- ・市民運動会、城祭りパレードなどの地域行事への参加
- ・東中学校吹奏楽部との連携

■ 実施に当たっての工夫

- ・指導者確保のため、以前からボランティアとしてトランペットの指導をしていただいていた方に社会人講師をお願いし、毎年来ていただけるようにした。また、学校支援地域本部が発行する「学校支援ボランティアだより」に、指導ボランティアの募集を掲載してもらったところ、2名の方がトロンボーンや打楽器の指導に来ていただけることになり、指導体制が充実した。
- ・12月上旬から1月下旬にかけて、6年生から5年生への引き継ぎ期間を設定している。子ども同士の交流を通して、楽器等の演奏技能を引き継ぐとともに、本校の伝統を大切にしていこうとする心も引き継いでいる。
- ・毎年5月下旬（中体連の期間中）に東中学校吹奏楽部の生徒に本校に来てもらい、全校児童が生演奏を聴く機会をもっている。音楽鑑賞会の後には、東中学校吹奏楽部員に、マーチングバンドの演奏指導をしてもらっている。

■ 事業の成果

- ・本校を卒業した先輩の演奏を聴いたり、直接指導してもらったりすることで、音楽活動への意欲や中学校の部活動への期待感につなげることができた。
- ・学校支援地域本部との連携と小中連携をうまく重ね合わせることで、指導体制を充実させることができた。



■ 事業実施上の課題

- ・学校支援ボランティアの活動をさらに充実させていくためには、学校支援地域本部を通じて学校が支援してほしいことを地域に発信し続けていくとともに、地域コーディネーターとの連携を深め、人材の発掘と情報交換に努めることが大切である。

■ その他

マーチング活動を終えた子どもの感想

私は指揮者です。最初は、笛を吹くところや指揮者3人で合わすところなど、あまりうまくできなかったけれど、前の6年生に教えてもらったとおり練習を重ねるうちに完璧になってきました。指揮者はみんなをまとめる役で大変だけど、がんばって練習してきてよかったなあと思います。

「心を一つにする」ということを学びました。みんなで一生懸命、楽器に心を込めて演奏すると、終わった後とてもすがすがしい気持ちになりました。だから、これからも何かを大勢でするときには、このマーチングの演奏のように一生懸命みんなと心を合わせてやっていきたいです。

■ 地域に開き、地域に応える学校の創造（佐和山小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
東中学校区支援地域本部・佐和山小学校（従来型）
■ 関係する学校
佐和山小学校・城東小学校・旭森小学校・東中学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	121人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

○保護者・地域ボランティアの協力

本校では、様々な教育活動を実施するにあたって、多くのボランティアの方の協力を得ている。ボランティアの内容としては、「生活科や総合的な学習の時間等の地域学習の安全見守り」「夏季休業中における算数学力補充教室」「読み聞かせと図書室整備」「さつまいもの苗植え指導」「家庭科のミシン補助、理科の実験準備・後始末」「校外学習の引率」「登下校の見守り活動」等である。支援のお陰で有意義な活動を展開することができている。また、教師の一人ひとりの子どもと向き合う時間の確保ができた。

○オープンスクールの実施

毎年、11月に「オープンスクール」を実施している。本年度も11月4日（火）、5日（水）、6日（木）の3日間をオープンスクールとし、2校時から5校時までを保護者、地域の方に授業を公開した。多くの方に来校いただき、授業や休み時間における子どもたちの様子をじっくりと参観していただいた。

■ 特徴的な活動内容

- ・5月下旬に「さつまいもの苗植え指導」のため、地域のお年寄りに来校していただき、さつまいもの苗植えの方法を丁寧に、子どもたちに教えてもらった。本校区においては、核家族化が進んでおり、お年寄りと触れ合う機会があまりない子どもも少なくない。子どもたちは、さつまいもの苗植えを通して、笑顔でお年寄りと触れ合うことができ、心が潤うひとときとなった。12月上旬には、収穫したさつまいもの調理にお年寄りを招いた。出来上がったスイートポテトをお年寄りもおいしそうに試食していただき、心温まる交流ができた。
- ・本年度、9月下旬に4年生は、JR線を使っての「琵琶湖一周体験学習」を実施した。保護者ボランティアにも参加してもらい電車の乗り降り・歩行における安全見守りや「藤樹の里あどがわ」における扇子作り体験補助等をしていただいた。より一層の子どもたちの安全確保とスムーズな体験活動が可能となった。
- ・オープンスクールにおいても不審者の侵入等に備えて、PTAの役員の方に協力いただき、受付および校内巡視のボランティアを依頼した。来校者受付名簿に名前を記入してもらったり、「来校者」という名札を付けてもらったりしながら、不測の事態に備えている。学校におけるリスクマネジメントの面からもボランティアの協力は欠かせないものであると考える。



■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティアを募る際に彦根東中学校区・学校支援本部発行の「学校支援ボランティアだより」が役立っている。各学校の必要なボランティア内容を掲載していただいており、それを見た地域の方がボランティアとして学校に協力していただくケースもある。また、本校では、多くの保護者、地域の方にメール登録をしていただいている。学習支援等のボランティアを募るためのメール発信も行っている。さらには、学年だより等でボランティア募集を呼びかけることもある。
- ・オープンスクールの際に、来校者にアンケートをしていただいている。右に示したものが、本年度のアンケート集計結果である。アンケートには、自由記述欄も設け、来校して気付かれたことを記入してもらっている。アンケートをもとに、改善点やさらに伸ばしていく点を教職員が共通理解し、保護者、地域の声に応える学校運営に取り組んでいるところである。

	質問項目	肯定的回答
学習面	1・学校は、落ち着いた雰囲気の中で授業が進められている。	93.3%
	2・先生は、分かりやすい授業を行っている。	98.6%
	3・子どもたちは、意欲的に学習をしている。	96.0%
校生活	4・学校は、施設・設備の面で環境整備を十分行っている。	95.1%
	5・子どもたちの休み時間、給食、掃除等の学習時間以外での様子で、楽しく過ごしている。	98.5%
活動	6・子どもたちは、言葉遣い、礼儀、マナーなどの面できちんとしている。	91.0%
	7・オープンスクールを今後も続けていく方がよい。	100%
	8・オープンスクールの実施時期は、この時期でよい。	98.6%

■ 事業の成果

ボランティアに来ていただいている多くの方々から、「子どもたちの学校での活動の様子を知ることができて嬉しい。」「もっともっと学校に出向いて協力したい。」等の感想をいただいている。『子どもは、学校と家庭・地域が連携して育てていくこと』を今後も大切にしていきたい。

■ 事業実施上の課題

「地域に開き、地域に応える学校の創造」を学校運営方針の一つにしている。今後も、さらに地域に開かれた学校を目指し、多くの情報を発信し、共有していきたいと考えている。

【 ～学校教育目標：豊かな心を持ち 求めて学ぶ たくましい佐和山っ子の育成～ 】

■ 外部団体による生の体験に学ぶ（旭森小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
東中学校区支援地域本部・旭森小学校（従来型）
■ 関係する学校
旭森小学校・城東小学校・佐和山小学校・東中学校

コーディネーター数	4 人
ボランティア登録数	109 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

- ・日々の学習と関わった事業を年間計画に位置づけ継続すること
- ・インストラクターによる着衣泳支援
- ・福祉体験

■ 特徴的な活動内容

- ①毎週火曜日の朝の読書タイムにスマイルボランティアさんの支援をいただいて読み聞かせ活動をしている。また、家庭科の「ミシン」を使う学習の時、地域ボランティアの方にお知らせしてミシンの使い方を支援していただいた。他にも、生活科の「うごく わたしのおもちゃ」でも、地域のボランティアの方におもちゃづくりの先生として支援をいただいた。
- ②体育科の水泳指導の内容である着衣水泳の支援に、スイミングスクールのインストラクターの方に来校していただいた。服を着たままで、水難事故に遭った場合、水の中でどのようなことに注意したらよいか体験を交えて説明をもらった。また、水難事故を見かけたとき、どうしたらよいかの説明を受けた。
- ③総合的な学習のテーマ「旭森の町をやさしく！」の体験学習では、県立盲学校・視覚障害者センター・視覚障害者福祉協会・障害者福祉センター・盲導犬ユーザー・手話サークル「指音」・福祉教育サポーター・彦根市身体障害者更生会などたくさんの方の支援をいただいた。体の不自由な人から日々の生活について話を聞いたり、手話や点字、車椅子等の体験をしたりして、「障害」について考えをもった。自分に関心をもったテーマ（手話、車椅子、点字、盲導犬等）について調べ活動を行った。



■ 実施に当たっての工夫

- ①ペットボトルや輪ゴムなどの身近な材料を生かして、子どもが簡単に作れるおもちゃづくりを、地域ボランティアの方から教えてもらうことができた。
- ②身近にある物（ペットボトルとタフロープなど）を使った人の命を救う手立てを学べるように工夫した。
- ③福祉体験では、身をもって体験したことから感じたことを大切にしたい。

■ 事業の成果

- ・どの事業も外部から来ていただくことで、子どもたちが真剣に話を聞くことができ、その後の体験学習や調べ学習に生かすことができた。
- ・学校に多くの方に来ていただくことで、子どもたちの様子を直接見ていただき、学校の現状を知っていただく機会にできた。

■ 事業実施上の課題

- ・昨年度までの情報を収集してデータベース化し、年度初めに活用できるようにしていきたい。

■ 地域人材を生かした学校支援と地域の生徒理解をめざした活動（西中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
西中学校区支援地域本部・西中学校（従来型）
■ 関係する学校
西中学校・城西小学校・城北小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	約50 人
開 始 年 度	平成21年度

■活動の概要（それぞれの活動を以下のA～Dで示し、その掲載順に内容を記載した）

A「校地の環境整備」

校地の樹木の多さや運動場の広さにより、地域の参加や技術を生かした環境整備の支援。

B「地域の文化祭に生徒の作品を展示」

地域の文化祭に生徒の作品を展示し、学校にも地域の作品を提供いただく相互交流の実現。

C「地域貢献活動の支援」

生徒の自主性を尊重した地域貢献活動を通して、生徒が地域で存在感を実感できるよう、地域の理解を要請。

D「地域人材の活用と交流」

地域人材の活用および教職員の地域活動の推進。



【地域の文化祭に生徒の作品を展示】

■特徴的な活動内容

- A 地域の人手や樹木剪定技術などの人材の結集による環境整備。
- B 地域との作品交流を通して、地域が生徒の作品に興味・関心を寄せ、地域の作品も学校で展示してもらえた。
- C 地域の生徒理解や受け入れ体制ができ、活動が円滑に進められた。
- D 生徒による竹林整備活動と地域人材による門松づくりの交流。

■実施に当たっての工夫、

- A 地域ボランティア協議会への協力依頼により人手の確保ができた。以前から「中学校の敷居の高さ」が言われている中で、環境整備は比較的支援していただきやすい活動でもあり、その広がりが期待されている。
- B 作品制作グループと学校や地域コーディネーターとの交流により、学校での展示が実現できた。
- C 地域の生徒受け入れに対する事前打ち合わせなどができ、中学生が自然に地域の方たちと活動できる体制ができつつある。
- D 地域人材が生徒の竹林整備や竹細工を指導することができ、中学生もそのお礼として竹林整備などに意欲的になった。

■事業の成果

- A 毎年地域の参加が定着しつつあり、学校環境整備に地域の力の必要性を自ら感じていただいた。また学校サイドも地域の力のありがたさを強く認識し、地域と学校の距離が縮まった。
- B 学校展示が実現でき、生徒たちが自主的に作品の感想を書いてくれ作品提供者に大変喜ばれた。こうした試みは、ただ単に地域と学校・生徒の交流に留まらず、生徒たちの優しさが提供者に感じてもらえたことは大きな成果だった。
- C 地域貢献を通して、生徒と地域の方々との会話もその場その場で生まれつつあり、中学生にとって地域との壁が取り払われたり、安心できる居場所として、地域も動いてきた感じがしている。
- D 生徒たちが地域の竹林整備や小学生の竹林体験のボランティアに参加して、大人の技術力や地域での学びを実感してくれた。

■事業実施上の課題

- A 地域・保護者・学校（生徒）の三者が、ともに環境整備に汗を流すことを通して、地域や学校の環境整備を継承したい。地域と生徒や保護者がともに同じ作業をしながら交流し、作業の仕方や技術を伝承することで、有意義な活動になると思っている。
- B 生徒たちに、地域には様々な技術や特技をもっておられる方々がおられることを作品などを通して知ってもらい、そうした交流を重ね、地域での存在感を認識してもらいたい。今後は学校と連携しながら、地域人材が授業などにも関わってもらえる機会をつくっていき、生徒たちの授業への意欲付けをしたい。
- C 中学生になると急に、自分の生まれた町の行事に顔を出すことが少なくなる傾向がある。中学生の若い力や柔軟な発想を生かした地域貢献がさらに進んでほしい。そのために学校支援地域本部から地域へのきめ細かい働きかけが必要であろう。
- D 教職員の高い専門性などを地域が活用することや、それらと並行して地域の学校への支援や技術の提供など、地域と学校の協働が進んでほしい。



【市民運動会にうどんバザーで貢献】

■ 地域に学習の場を求め、地域の人たちとのかかわりの中でめざす開かれた学校づくり（城西小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
西中学校区支援地域本部・城西小学校（従来型）
■ 関係する学校
城西小学校・城北小学校・西中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	60 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

城西小学校では、開かれた学校をめざして、以前から地域を学習の場としたり、地域の方々にボランティアとして指導に来ていただいたりして、子どもたちと地域の人・ものとの関わりをもてるようにしてきている。

地域のお年寄りで作られている「子どもらと楽しもう会」の会員の方々は、特に低学年を中心に交流がある。新入児童の交通安全を意識させるための「キュービット人形渡し」や「七夕集会」「昔の遊び体験（生活科）」などに、快くかかわってくださっていて、子どもたちへの伝承遊びの指導や昔からの行事にかかわる話などをしてくださり、世代間の交流が図れている。

また、校区の歴史的な建物や店舗等の施設を見学に行き説明を聞いたり、地域の方の指導のもとに伝統的な焼き物に取り組んだりすることも、本校ならではの活動であるといえる。

さらに、地域の方には、スクールガードとして子どもたちの登下校の見守り等もしていただいている。

加えて、保護者のボランティアの方に、子どもたちに向けた本の読み聞かせをしていただいたり、校外での活動の支援をしていただいたりしている。

夏休みには、学習支援として地域の方に来ていただき、子どもの補充学習をしていただいた。

これらの取組を始めとして、協力していただける地域の方や保護者の方の支援のもと、以前から様々な活動を展開してきている。

■ 特徴的な活動内容

総合的な学習の時間で3年生が取り組んだ「わたしの町じまん」の学習では、校区にある足軽組屋敷などの見学に出かけた。その際、地域住民の方がつくっておられる、「彦根辻番所の会」の代表の方に、案内をしていただき説明を聞くことができた。子どもたちは、解体修理が完了し4月から一般公開している足軽組屋敷と辻番所の中を見学することができた。

辻番所の窓から外をのぞいたり、屋敷の中を探索したりして見学した子どもたちは、怪しい人や知らない人が入り込んでいないかを辻番所の窓から確認していた。」という説に熱心に聞き入った。

この見学から、昔の建物が残っている校区のすばらしさを感じることができ、見学したことを、一人ひとりが自分なりにまとめた。



■ 実施に当たっての工夫

総合的な学習の時間などの学習に関わる活動支援については、毎年行う活動が多く、以前から各学年と支援いただく方とのつながりができている。このため、活動を行う時期には、直接学年から連絡を取り支援依頼をしている。

スクールガードの方へは、毎月子どもたちの下校予定時刻を連絡し、見守りをしていただいている。

保護者ボランティアについては、活動する該当学年で通信等を使って支援依頼したり、全校的な活動にかかわっては、学校から依頼文書やメールを用いて募集を行ったりしている。

学習支援ボランティアは、地域コーディネーターの方に人選をしていただき、支援をお願いした。

■ 事業の成果

いろいろな活動に、地域の方を始めとして保護者の方にも支援をしていただいている。

このことにより、専門的な知識をおもちの方からのお話を聞いたり、制作活動の技術指導をしていただいたりすることができた。また、世代間交流による地域のお年寄りとのつながりもできた。さらに、保護者の方、地域の方の支援により、子どもたちの学習活動に広がりや深まりが得られたといえる。

■ 事業実施上の課題

地域の方に依頼する方法として、支援を必要とする学年から直接連絡をとり、打ち合わせをするなどしている。従って、各学年の担任と支援していただく方との連携がとれている。一方、年間を見通して支援していただきたい活動についての計画の整理が十分ではない。そのため、それぞれの学年で依頼した活動日が重なってしまうことがあった。

■ その他

年間を見通した学習計画のもと、地域の方や保護者の方へ支援依頼する活動を整理した上で、支援計画表を作成する必要がある。その計画表に、学年、教科名、単元名（題材名）、支援依頼先等を明示することによって、人材バンクとしての位置づけをもたせるとともに、支援依頼がより円滑に行え、より充実した学習活動が展開できるようにしたい。

■ 地域の方々と児童を結びつけるための取組（城北小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
西中学校区支援地域本部・城北小学校（従来型）
■ 関係する学校
城北小学校・城西小学校・西中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	94 人
開 始 年 度	平成21年度

■ 活動の概要

2名のコーディネーターを中心に「学習支援」「環境整備」「登下校支援」「読書支援」などの支援をしている。主に地域の方々と保護者を中心に構成されており、活動の内容等により参加する方が変わっていく。また、読書支援や登下校支援などのように、年間を通じて定期的にされているものや、学習支援や環境整備のように年間の決まった日時に集中して取り組むものがある。



■ 特徴的な活動内容

「学習支援」としては、生活科や総合学習で地域学習を進める場合に、地域についての様々な情報を教えてもらったり、東山の整備された竹林で、竹の伐採作業を地域の方と一緒にするなどの活動をしている。さらに、竹細工づくりを教えてもらうなど、地域の年配者でないと教えてもらえない事柄について、経験を深められるようにしている。また、全校行事として行っている「ふるさと探訪オリエンテーリング」は、学校の特色ある教育活動として定着している。学区を大きく3方面に分割して、「彦根城コース」「佐和山城跡コース」「松原お浜御殿コース」を設定し、3年間かけて全てのコースを巡り歩いている。児童は小学校6年間で2回コースを回ることになる。同じコースであっても、下学年で体験したことと上学年で経験したことでは意味合いが変わってくると考える。

特に、6年生になるとその年に回るコースについて、地域に出かけていき様々な方から詳しく学ぶようにしている。その時に、地域の方を講師として招いたり、直接地域に出かけていったりして、ふるさとについての学習を進めている。その中で、学んだことを自分たちなりに咀嚼し、当日は全ての6年生が小グループのリーダーとなって下学年の児童を案内しながら、クイズ形式で学んだことの説明をして、地域についての学びを活かしている。当日は、保護者や地域の方々に安全ボランティアとしても多く参加してもらっている。

「読書支援」として、地域の方や保護者を中心に「読み聞かせボランティア」を募り、毎週木曜日の朝の活動の時間（約10分間）を使って、全てのクラスで読み聞かせをしていただいている。また、毎月図書室の展示スペースに季節感を漂わせる飾り付けもされている。



「環境整備」は、校舎外の除草作業や剪定作業を中心に、学期に1回程度の割合で前庭やグラウンドの整備をしていただいている。本校は、グラウンドが広く雑草が繁茂しやすい。教職員や児童の作業だけでは除草作業が草の生長に追いつかない。そのため、コーディネーターを中心に除草機具を使って、効率よく除草されている。また、うさぎ小屋の防寒対策や瓢箪ハウスを設置するなどアイデアを出して、学校の栽培活動や飼育活動が円滑に実施できるようにサポートしていただいている。さらに、今年度は絵画制作を趣味にしておられる方が、夢のある大型の油絵作品を寄贈してくださり、児童の学校生活に潤いを与えている。

■ 実施に当たっての工夫

2名のコーディネーターの方が、大変熱心に支援活動を考えられ、地域や保護者の力を学校の教育活動に活かそうと働きかけてくださるので、学校の教育活動が充実したものになっている。そのため、前年度までに実施した行事や活動についても、新たにコーディネーターの方と相談し、今年度の内容をしっかりと説明しながらどのような支援や協力が必要なのかを明らかにして協力を依頼している。また、コーディネーターの方は毎日のように学校に足を運んでいただいているので、常に密接な連携をとることができている。さらに、学校行事等を子どもの手作り招待状を添えて登録ボランティアに案内している。

■ 事業の成果

年度ごとに支援の活動が定着しているため、ボランティアの方も支援の仕方を心得てくださっている方が多く、子どもたちとも顔なじみになっていることから、適切な支援をしていただき、子どもたちも安心して活動に専念できることが多い。また、ボランティアとして参加された地域の方々も、子どもたちの明るく屈託のない笑顔や感謝の言葉を聞き、満足して帰っていただける場合が多い。そのことが好循環となっている。このような活動を新聞などのマスコミに取り上げられることも多く、地域の方にとっても子どもたちにとっても地域を誇れ、学校への愛着に繋がっている。

■ 事業実施上の課題

ボランティアの方々が固定化されつつある傾向にあるため、新たなボランティアの開発が必要である。特に、「登下校支援」では、ボランティアの高齢化が目立ち、病気や高齢を理由にボランティアをやめられる方がおられ、支援活動の維持継続が次第に困難になりつつある。保護者などに呼びかけたりしているが、先細りの傾向を止めるまでには至っていない。

■ 彦根南サポートオフィス4年目の取り組み ～継続は力～（南中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
南中学校区支援地域本部・南中学校（従来型）
■ 関係する学校
南中学校・城南小学校・城陽小学校・若葉小学校・亀山小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	11 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

南中学校では、①図書ボランティア ②放課後学習支援 ③環境整備の3点を中心に活動を行っている。また各小学校との連携をとるため、地域支援コーディネーターとご担当の先生方と学期毎に会議を持ち、情報交換を行っている。

■ 特徴的な活動内容

①図書ボランティア

毎週月曜日、図書支援員さんとも協力しあって図書の整理・新刊のブックカバーかけ・生徒たちが本を手に取りたくなる並べ方の工夫など、事業が立ち上がった当初よりずっと活動を続けていただいている。

②放課後学習支援

「水曜ゼミ」と名付け、毎週水曜日の放課後一時間、数学・英語・漢字の基礎プリントの学習をしている。昨年より県立大学の教師を目指す学生の方にお手伝いいただき、熱心に指導して下さっている。

③環境整備

中学生の地域貢献活動と合わせて、グラウンド周りの側溝の土・泥上げを行う。今年は生徒の参加が45名と大変多く、保護者ボランティア4名の方をリーダーに3班に分かれて、側溝だけではなく中庭まで整備することができた。



【 水曜ゼミ 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティアさんが活動されていることを周知しやすいよう、昨年度末にベストを作成し各学校へ配布した。環境整備の時にボランティアさんに着用していただくことで生徒たちにもわかりやすく、活動のPRにもなった。
- ・学習支援の大学生の方々とはメールで連絡をとれるようにし、学校行事による時間変更や中止のお知らせをスムーズに回すことができた。



【 環境整備 】

■ 事業の成果

学習支援ボランティアの学生の方に、ゼミの後に活動記録を記入いただき、ご担当の先生からアドバイスや助言を書いていただいている。教師を目指す学生の方には、学習指導や生徒と関わる良い経験を提供できている。またこの事により、講義時間の変更によりボランティアの確保が難しいと思われた時もあったが、学習支援を続けたいと思ってくださる方が多く、友人紹介もあり、活動の継続につながった。

■ 事業実施上の課題

事業が始まって4年となるが、先生方のニーズを把握することができていない。先生方への事業の周知徹底と効果的な支援をするためにも、次年度に向けてアンケートの実施が必要である。

■ その他

- ・今年、校区内の事務職員研修会にて学校支援地域本部事業の説明をさせていただく機会があった。事務の職員にもこの事業を理解いただいて、今後の活動へのご協力をいただけることは大変心強いものになる。
- ・〈彦根南サポートオフィス〉ブログにてボランティアさんの活動を紹介している。

■ 地域ぐるみで学校を支援する体制づくり（城南小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
南中学校区支援地域本部・城南小学校（従来型）
■ 関係する学校
城南小学校・若葉小学校・城陽小学校・亀山小学校・南中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	85 人
開 始 年 度	平成23年度

■ 活動の概要

本校では、主に読書ボランティア、スクールガード（子ども見守り）、学習支援を中心に地域から支援を受けて学習活動の充実を図っている。

■ 特徴的な活動内容

○読書ボランティア

- ・朝のさわやかタイムの読み語り
- ・図書室の本の整理・環境づくり

○スクールガード活動

- ・登下校時の通学路の見回り（安全指導）
- ・下校時の公園等の見回り（不審者対応）

○学習支援

- ・特別支援学級「花を育てよう」「地域に方とふれ合おう」
- ・1年 生活科「おじいちゃん、おばあちゃんとなかよく」
- ・2年 生活科「生き物とふれ合おう、育てよう」「町の人と仲よしになろう」
- ・3年 社会科「もっと知りたい！大好きな私の町」「地域の伝統文化を未来に伝えよう」
- ・4年 社会科、総合的な学習の時間「地域の住みよい町かんきょう」「いつまでも住み続けたいやさしい町づくり」
- ・5年 社会科、理科、総合的な学習の時間「米作りから見える食環境」「大切なびわ湖を守り続けよう」「つながりを大切にしよう できること」
- ・6年 社会科・総合的な学習の時間「平和な世界をめざして」「今の私、未来のわたし」
- ・全校 学校行事「ふるさとのよさ再発見 城南学区の今と昔」



【地域の方に教わってさつまいもを育てる】



【地域の公民館長さんからお話を聴く】

■ 実施に当たっての工夫

どの活動においても支援して下さる地域の方や団体との事前の打ち合わせを行い、学校の要望や地域の方の思いを双方で出し合い意思疎通を図ることで、活動を値打ちのあるものにしていけるよう心がけた。

■ 事業の成果

○読書ボランティア

朝のさわやかタイムでは、週2回割当ての学級へ読み語りに来ていただいた。紙芝居や絵本など、発達段階に合わせた内容のものを選んでいただいているので、子どもたちは毎回楽しみにしている。また、環境づくりとして、本の整理や掲示物の工夫などを心がけ、子どもたちが少しでも本に親しめるように心がけてもらっている。生活アンケートからも、進んで読書をする子の数が年々増えてきていることがわかった。

○スクールガード活動

毎日登下校時に見守り活動をしていただいております、子どもたちは安心して学校生活を送ることができている。

○学習支援

学校と学校支援コーディネーターが連絡をとりあい、学習内容に合わせて支援者を探していただいたり進め方を相談したりして活動を進めている。地域の方にさつまいもや花の育て方を教わり、一緒に苗植えをしてもらったり、地域の施設や伝統行事について丁寧に教わったり、戦争時の地域や学校の様子を説明してもらったりと、地域の方とふれあい、地域への愛着の心を育む大切な活動になっている。

■ 事業実施上の課題

学校支援地域本部の活動は、学校にも地域にも定着しつつあり、学習の時期が近づくと地域の方から声をかけていただくこともある。ただ、ボランティアの方はお仕事をされておられる方も多く、事前の話し合い等の時間を確保していただくことに負担をかけてしまうことがある。今後は、学習のねらいや内容を詳細に計画したり、メールでのやりとりを取り入れたりして、打ち合わせの時間を短縮するなどの工夫を加えるなかで、連携を進めていきたい。

■ つなげよう 子どもを育む 地域の力 ～ゲストティーチャーから実感を伴った学習を～（城陽小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
南中学校区支援地域本部・城陽小学校（従来型）
■ 関係する学校
城陽小学校・城南小学校・若葉小学校・亀山小学校・南中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	75 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

地域のよさや歴史、文化に精通されている地域の方々や、専門的な技術をもった方々から、ご指導していただく機会を積極的に設け、地域の方とのふれあいを深めるとともに、本事業による活動を本校の教育活動の特色の一つとして位置づけている。ゲストティーチャーとして子どもの学習に携わっていただき、図書ボランティア、水泳の指導、夏休みの算数教室、スキー教室、校外学習の引率補助などにもご協力いただいている。

■ 特徴的な活動内容

○第2学年 生活科

「あそびがいっぱい みんなであそぼう」

地域の方をゲストティーチャーとして招き、外国の遊びを教えていただいた。フィリピンの方からは、手遊び歌を教えていただき、みんなで楽しむことができた。台湾の方からは、中国ごまの回し方を教わった。活動を通して自分の地域や外国・異文化に関心をもったり、つながりを考えたりすることができた。



○第4学年 総合的な学習の時間

「未来へ一歩～見つめよう社会 見つめよう自分～」

地域で、車いすで生活をされている方から、日頃の生活の様子や困ったことなどをお聞きしたり疑似体験をしたりした。また、同じく地域に暮らしておられる視覚障害者からもお話を伺った。活動を通して自分たちが住む町を見直し、「みんなにやさしい暮らし」について考えることができた。



○第6学年 総合的な学習の時間

「みんなと共に生きる町～さぐろう城陽未来遺産～」

地域の歴史や自然を調べる学習の中で、子どもたちが抱いた疑問について地域の方からお話を伺った。また、貴重な写真や資料等を効果的に使って、自分たちの住むふるさとの各町や寺院・神社、犬上川、荒神山などの歴史について説明していただいた。活動を通して、先人の思いや自分たちの住む地域を大切にしようとする人々の思いを考えることができた。

○第4～6学年 クラブ活動 茶道体験

地域の茶道の先生から、畳の歩き方や、お茶やお菓子をいただく仕草等の作法を教えていただいた。

■ 実施に当たっての工夫

効果的な学習が行えるように、事前に綿密な打ち合わせを行った。また、事後の学習の様子を知らせたりして、全体を通しての学習のまとめを発表する場として「城陽子どもまつり」を行い、地域の方を招待して成果を見ていただく機会を設けている。

また、「学校だより」を通じて、保護者や地域の方へ発信をしている。

■ 事業の成果

本やインターネット等で調べるよりも、身近な方から直接お話いただくことで、子どもたちは実感を伴った学習をすることができた。また、地域の方々が子どもの指導のために何度か学校を訪問していただくことで、学校とのつながりをより深めることができた。

■ 事業実施上の課題

できるだけ毎年継続して活動が進められるように、ボランティアの確保に努めたい。また、新たな活動を計画するために、様々な教科や領域の地域ボランティアを発掘していくことも求められる。

■ 共に手を取り 共に高まり合う学校支援をめざして（若葉小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
南中学校学校区支援地域本部・若葉小学校（従来型）
■ 関係する学校
若葉小学校・城陽小学校・亀山小学校・城南小学校・南中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	26 人
開 始 年 度	平成23年度

■ 活動の概要

本校では、主に以下のような学校支援の活動をしていただいている。

- ①子ども達の登下校を見守るための、スクールガードの皆さんによる安全指導。
- ②子ども達が読書に対して興味関心をもてるようにと進めていただいている、読書ボランティアさんによる読み聞かせ活動。
- ③図書ボランティアによる、オープンスペースの図書室の環境整理。
- ④校地内の除草作業、枝打ち等の環境整備。

■ 特徴的な活動内容

- ・本校では読書活動を推進している。朝自習の時間を使つての継続的な読書活動はもちろん、家庭での読書を推進するため、親子で本を読む「家読（うちどく）」に取り組み、その成果を「家読通信」を発行し広めている。読書を推進する本校にとって、読書ボランティアおよび図書館ボランティアの方々の支援は、欠かせないものになっている。
- ・読書ボランティアは、毎週金曜日朝自習の時間を中心に活動いただいている。学期始めに、各月の実施日や担当学年についての話し合いを行い、計画的に実施している。1年生から6年生まで、それぞれの発達段階にあった本を、毎回読み聞かせしていただき、どの学年の子どもたちも食い入るように話を聞いている。
- ・図書ボランティアは、図書室の整理整頓を週2回していただいている。図書室がオープンスペースの本校は、利用がしやすく子どもたちの憩いの場になっているが、後始末が不十分になることがある。本を指定の場所に返却したり、傷んだ図書を修復したりする等、環境整備に尽力いただいている。



■ 実施に当たっての工夫

- ・子ども達や保護者をはじめとして、本事業をできるだけ多くの人に理解してもらえるよう工夫している。
- ・スクールガードの皆さんに対しては、年度当初に顔合わせの会を実施している。全校児童が体育館に集まり、スクールリーダーさんの話を聞いた後、スクールガードさん一人ひとりの紹介を行い、お言葉をいただいている。安全に関する子ども達への思いを聞くことで、感謝を抱く絶好の機会になっている。
- ・その他の活動についても、子どもたちだけでなく、保護者や地域の方にその活動のねらいや内容を理解してもらえるよう、学校通信や学年通信等により、積極的に紹介している。



■ 事業の成果

- ・学校支援地域本部事業も数年が経過し、学校側が主体的に進めなくても、それぞれの活動を計画的、積極的に進めていただけるようになり、自然な取組として根付いてきたことは何よりの成果である。また、地域と学校が共に手を取り、子どもの教育環境を育て、豊かな心と健やかな心身を育てていこうとする気運が高まりつつあることも感じている。
- ・また、子ども達にとっても、地域の方々が自分たちのために活動していただいているという実感が高まっており、地域を愛し、今後は、地域のために貢献していきたいという気持ちが芽生え始めている。

■ 事業実施上の課題

- ・各団体による各取組は順調に進められているものの、学校全体として総括的にまとめ上げる母体がまだできあがっていない。そのため、学校支援を進める上で共通理解して取り組むことがあいまいになったり、互いの活動を理解し合ったり連携して活動を進めたりすることができていない。
- ・また、本校は開校以来19年目の新しい学校であり、新興住宅が多い等の事情もあって、地域や保護者の教育力がやや弱い。そのため、本事業のねらいを理解してもらい、ボランティアの人数を増やしていくことが大きな課題となっている。スクールガードにおいても高齢化の傾向があり、新しい人材確保に努力していく必要性を感じている。

■ その他

- ・同じ中学校内でも、学区ごとに学校支援に対する意識や取組に差が見られる。互いの実践を日頃から交流し、中学校ブロック全体が盛り上がっていけるよう、さらに連携を深めていければと思う。

■ 地域が支える教育活動の充実（亀山小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
南中学校区支援地域本部・亀山小学校（従来型）
■ 関係する学校
亀山小学校・城南小学校・城陽小学校・若葉小学校・南中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	30人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

地域コーディネーターに、様々な地域学習や教育活動の支援に必要なボランティアを見つけ依頼していただいている。教員のニーズに応じた人材を見つけていただき、教育活動の充実につながっている。

■ 特徴的な活動内容

①校外学習の支援

・小規模校であるため、引率教員が少なく安全面で心配なところがある。そこで、コーディネーターにボランティアを探していただき、児童の引率支援をお願いしている。今年度の全校遠足の際には、各学年部に2名ずつ合計6名のボランティアに来ていただき安全に実施することができた。また、生活科や社会科、総合的な学習の時間等の地域学習では、史跡など子どもたちが調査する場所の説明を地域の人にしてもらっている。

◇今年度支援を受けた校外学習

全校遠足、2・3年町探検（生活科、社会科、総合）、4・5年校外学習等

②畑作りへの支援

・サツマイモの苗植えの際に地域ボランティアに、畑づくりをしていただいた。また、苗植えの際には畑の先生として子どもたちに植え方を教えていただいた。

③学校環境整備

・「トイレの女神様」として、地域のボランティアからトイレ掃除の支援を受けている。週に2～3回程度来校していただき、子どもたちに掃除の仕方を教えていただいている。

④学力向上への支援

・夏休みに、4年生以上の希望者を対象に学力補充教室（算数教室）を開催している。今年度は、地域の教員OB10名に入ってもらい、個別指導に当たっていただいた。また、夏休みに低学年対象の英語教室も開催し、その際も英語が堪能なボランティアの支援を受けた。



■ 実施に当たっての工夫

- ・本校では、地域コーディネーターを退職教員をお願いしている。学校の事情に精通し、ニーズもよく理解していただいている。
- ・担当教職員とコーディネーターとの打合せを綿密に行っている。どんな人が必要か、どんな内容で支援してもらうかなどについてコーディネーターと十分話し合い、交渉に当たってもらえるようにしている。
- ・毎週金曜日の放課後に定期的にコーディネーターに来校していただき、学校との連絡がスムーズに行えるようにしていただいている。
- ・校内掲示や学校だよりにより、ボランティアの支援を受けている様子を子どもや保護者、地域に発信している。

■ 事業の成果

- ・コーディネーターに教職員のニーズにあった人材を発掘していただき、教育活動の充実につながった。
- ・小規模校であるため、教職員の数も限られているが、ボランティアのおかげで安全に行事を実施することができている。
- ・ボランティアから様々な支援を受ける中で、子どもたちは、教職員だけでなく地域の様々な方から支えられていることを実感することができた。
- ・地域とのつながりが希薄になりがちだが、支援を受けることで子どもたちは地域でもボランティアに挨拶をするなどかわりを深めることができている。

■ 事業実施上の課題

- ・地域コーディネーターには、大変よく動いていただいている。しかしながら、次年度は辞退される予定であり、今後同じように動いてくださるコーディネーターが見つかるか心配である。
- ・地域がかかえる問題点として、ボランティアに来ていただいている方々の高齢化があげられる。ボランティアの輪の広がり期待したいところであるが、難しい面もある。

■ 地域と学校をつなぐ活動～学校支援の輪のひろがり～（彦根中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
彦根中学校区支援地域本部・彦根中学校（従来型）
■ 関係する学校
彦根中学校・高宮小学校・河瀬小学校

コーディネーター数	4 人
ボランティア登録数	32 人
開始年度	平成23年度

■活動の概要

本事業も4年目を迎え、地域支援協議会の中で従来の取り組みとともに、地域の特性を生かした新たな事業を計画し取り組んだ。

- ①地域コーディネーターを中心として地域ボランティアと生徒が交流する事業として緑のカーテンづくりを行った。
- ②近隣の大学を中心に学習ボランティアを呼びかけ、週1回ではあるが、3年生を対象に放課後の補充学習会を開催した。
- ③「地域に貢献する彦中生」をスローガンとして、自治会を始め各種団体に呼びかけ、中学生が参加できる地域行事を把握し、地域の一員としての積極的な行事への参加を進めた。
 - ・自治会、青少年関係団体、市主催行事への参加等
- ④地域のボランティアの方々への学校行事への積極的参加を図る。
 - ・本校の伝統行事である長距離遠足の安全支援活動
 - ・各種行事における交通指導
 - ・支援学級の生徒を対象としたラン栽培講座の開催
 - ・校地内整備作業への参加協力
 - ・体験学習活動に伴う支援 等
- ⑤地域の方によるラン栽培講習会の開催
 - ・特別支援学級を対象としたランの栽培講習会を開催し、移植作業を行う。



【縦3m×幅25mの緑のカーテン枠作り】

■特徴的な活動内容

本年度、地域の方々と生徒がともに活動できる場の提供とともにコミュニケーションづくり、さらに自慢できる学校づくりねらいとして、地域コーディネーターの方々を中心として緑のカーテンプロジェクトを立ち上げた。地域のネットワークを生かした地域ボランティアや、栽培アドバイザーに支援・協力いただき、「彦根一」の緑のカーテンづくりに取り組んだ。4月のプロジェクト会議における企画・立案から生徒を対象とした栽培のための講座の開催、近隣の施設での育苗体験、移植体験活動などを実施し、11月までの約半年間の継続的な取り組みを行った。また緑のカーテンコンクールにも応募し、賞を獲得した。

■実施に当たっての工夫

- ・事業展開するうえで地域コーディネーターの方々との連携協力を図るため、随時会合を行い日程および作業行程の調整を行った。
- ・地域コーディネーターの方々のもつネットワークを最大限に生かすため、学校の動きとの協調を図った。
- ・地域コーディネーターの方々のもつ特性能力を十分に発揮していただくような場を設定し、活動しやすい状況づくりに努めた。

■事業の成果

- ・日常の体験不足の生徒にとって、緑のカーテンの事業は新鮮にとらえられ、水やり等においても生徒の自主的参加で進めることができた。さらに地域の方から多くの支援を受け、支援体制も整い事業展開をスムーズに行うことができた
- ・本校の伝統行事である長距離遠足については、地域の理解も深まり、支援して下さる地域の方も多く、当日中学生に声をかけて下さるなど学校支援の輪も広がってきている。
- ・地域行事への積極的な参加により、徐々に中学生に対する地域の方々の見方も変わり、中学生のスタッフ依頼が多く寄せられてきている。一部の地域行事においては、中学生の協力が不可欠となっているものもあり、地域の一員として活動の場が広がってきている。また、これまで地域行事に消極的であったが活動を通して地域とのつながりもでき、年間を通じて積極的に参加する生徒も増えてきている。
- ・学生ボランティアによる学習支援については、自主的に放課後の学習会に参加する生徒が見られ、学習意欲の高揚につながっている。さらに日常の生徒支援にも可能な限り参加してもらった。

■事業実施上の課題

- ・地域ボランティアの方々の仕事との関係から日程調整が難しい面がある。
- ・地域ネットワークがまだ十分に活用できていない面が見られる。今回の取り組みを通じてさまざまな技術や職種の支援者がおられることが認識できた。今後、さらに充実を図るよう取り組みを進めていきたい。

■その他

- ・地域には、協力する思いをもっておられる方も多く、地域の教育力をさまざまな活動に生かして、地域と学校が一体となった取り組みを今後も継続していきたい。



【8月のグリーンカーテン】

■ 町の先生とふれあって遊ぼう ～楽しいわくわく交流会～（高宮小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
彦根中学校区支援地域本部・高宮小学校（従来型）
■ 関係する学校
高宮小学校・河瀬小学校・彦根中学校

コーディネーター数	2人
ボランティア登録数	80人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

○地域の高齢者の会「和楽会」の会員約50人に学校へ来ていただき、昔の遊びなど、様々な遊びを教えていただいたり、一緒に体験したりしている。

○今年度も6月19日と11月20日の2日、13:30～14:15の時間帯に来ていただいた。遊びの内容は、彦根・高宮カルタ、カロム、将棋、すごろく、トランプ、お手玉・めんこ、けん玉・おはじき、こま、あやとり、石けり、ゴムとび、カンぼっくり、まりつき、おどって遊ぼうの14の遊びである。



■ 特徴的な活動内容

○「おどって遊ぼう」では、「地域のおどり『高宮音頭』を子どもたちに伝えたい、これからも残していきたい」という和楽会の方の強い思いから、高宮音頭を取り上げていただいた。振り付けをていねいに教えてもらい、みんなで心をつなげておどることができた。

○3年生の総合的な学習「たんけん！発見！わたしたちの高宮」では、約20年前に作成された高宮カルタを利用して、高宮の歴史を学ぶきっかけをつくっている。そのカルタをわくわく交流会でも取り上げ、遊びを通して地域に親しむ活動としている。

■ 実施に当たっての工夫

○各遊びごとの子どもの人数・遊びの内容・準備物などの詳しいことについては、日時を調整した上で「和楽会」の役員に來校していただき、打合せをした。どんな遊びを取り上げるかについては、わくわく委員会の児童の思いを尊重しながら、和楽会との話し合いの上で決定した。

○交流会終了後、各教室で一人ひとりが活動を振り返り、和楽会への礼状を書いている。各クラス数点の手紙をまとめて、和楽会にお渡しし、手紙を通しての交流も図っている。

○交流会の進行や準備、後片付けはわくわく委員会の児童が行った。和楽会会員の集合場所の会議室からそれぞれの活動場所への案内、交流会終了後に再び会議室に案内して、お茶を出しお礼の気持ちを伝えるところまでを児童が行った。

■ 事業の成果

○カロム以外は人数の制限がないため、子どもたちは自分がやりたい遊びを自由に選んで、異学年の友だち・和楽会会員と一緒に楽しい時間を過ごすことができた。その遊びが上手にできるコツを教えていただいたり、和楽会会員と直接対戦したりして、交流会終了後は、とても満足そうに各教室に戻って来る子どもたちの姿が見られた。

○和楽会とは年2回のわくわく交流会の他に、3年生が町の先生として來校いただき「昔の遊びやおやつ作り」を教えていただく機会をもったり、6年生が「三世代交流～餅つき大会～」で交流させていただいている。ふれあいが日常化することにより、子どもたちと和楽会会員との間には、親和な関係が築かれてきている。

■ 事業実施上の課題

○町の先生による月2回の読み聞かせ、安全ボランティアによる毎日の登下校時の見守りをはじめとして、本校の子どもたちは地域の方々の大きな支えをいただいて、日々生活をしている。わくわく交流会に来てくださった人をはじめ地域の方に対する「ありがとうございます」の気持ちが、学校以外の場でも自然と表れ、伝えられるように、活動を継続していく。

○学校から和楽会の役員へ「こんな内容でお話をしたい。こんなことで協力してほしい。」と伝えると、喜んで手伝いをさせていただいている状況である。今後、6年生の「平和学習」で戦争体験の話を聞かせていただく等、新しい分野でも協力をお願いしていく。

○地域の方々に、学校支援の必要性を伝えるとともに、ボランティアとして活動していただく場を提供し、保護者や地域の方には「地域が支える学校」という認識を新たにさせていただき、「地域に開かれた学校」をめざしていく。

○教師一人ひとりがこの事業の意義を理解し、自らがコーディネートできる力をもつことが必要である。そのためには、教師が進んで地域に出かけ、まずは地域を知り情報を収集・教材化していかなければならない。そして、地域に愛着をもち地域と共に子どもを育てていくというさらに高い意識をもつことが大切である。



■ 地域の力を学校に～地域に根ざす豊かな体験～（河瀬小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
彦根中学校区支援地域本部・河瀬小学校（従来型）
■ 関係する学校
河瀬小学校・高宮小学校・彦根中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	57 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

子どもたちが、地域の先生から体験を通して学んだ学びを地域へ還元することで、よりよい地域・学校作りを目指して、地域の力を学校に～地域に根ざす豊かな体験～を合言葉に、学校支援地域本部事業を展開している。

5月の「田植え体験」「緑のカーテン作り体験」からはじまり、「稲刈り体験」「味噌づくり体験」「音楽活動支援」「ミシン学習支援」など、年間を通じて様々な学校の体験教育活動に支援をさせていただいている。

本校で実施しているどの活動も子どもたちの学習活動を充実させることに役立っている。ご協力いただく方々の専門性を活かした活動や、学校職員が時間的な制約があってもなかなか取り組めないような活動への支援が多く、学校教育の助けになっている。

■ 特徴的な活動内容

○「米作り体験」

近年、本校では5年生の総合学習として、『米作り』に取り組んでいる。学習田を利用して、地域の農業委員などの協力を得て、田植えや稲刈りなどの体験活動を実施している。

田植えでは、昔からの田植えの方法を教えていただいて実際に苗を植えている。

また、稲刈りでも、各自が鎌で刈り取った稲を千歯こきや足踏み脱穀機で脱穀するといった昔の方法を体験させてもらっている。児童にとって、いずれも貴重な体験となっている。収穫した米は、精米をして給食の主食として全校児童が食べるだけでなく、「味噌作り体験」や5・6年生の家庭科の調理実習にも活用している。

○「味噌作り体験」

「味噌作り名人」に来ていただき、味噌作りに挑戦している。米麹は5年生が収穫した米を使っており、自分たちが関わった材料が使われているだけに、熱の入った作業ぶりである。特に、味噌団子を味噌樽に詰め込む作業は、子ども達にとって大変楽しい活動である。

「手作り味噌」は、来年度まで給食室に保管し、秋以降給食に活用する。給食の味噌汁のみならず、5・6年生の家庭科の調理実習にも昨年の5年生が作った手作り味噌を使用しており、全校から「おいしい。」と好評である。

■ 実施に当たっての工夫

「米作り → 味噌作り → 給食・調理実習」の一連の流れを組み立て、子ども達の意欲や関心の持続を図っている。また、自分達が食べることを通して、社会科や理科の教科学習のみならず、食育や環境学習との関連も図っている。

■ 事業の成果

地域の、豊かな経験や技術をもっておられる人材を学校教育に活用することで、子ども達に経験や技術の伝承ができると考え、この事業に取り組んでいる。実際、昨年田植えを経験した6年生が、5年生に田植えの仕方や脱穀の仕方を教える場面や味噌を作った5年生が、その苦労等を全校に伝えている場面が見られた、親から子へ、子から孫へと伝えられてきた経験や技術が、上級生から下級生へと伝えられている。さらに、ボランティアさんに自ら挨拶をする子が増えるなど、子どもとボランティアさんとの繋がりが深まるのはもちろん、ボランティアさんどうしの繋がりがもできることで、地域間の繋がりが深まっていく。

■ 事業実施上の課題

昨年に引き続き、河瀬学区全戸に「各種学校支援ボランティア」の募集をかけ、人材バンクの充実を図っている。しかしながら、人材は活用しなければ、せっかく人材バンクに登録してくださった方も、拍子抜けの状態になる。

今後は、学校の教育活動における人材の活用を年間指導計画に記載することを通して、有意義な活用実践ができるようにさらなる取組を進めていかなければならない。



■「鳥居本中学校学校支援本部事業（鳥居本学校サポートオフィス）の取り組み」（鳥居本中学校）

■ 彦根市
■ 活動名
鳥居本中学校区支援地域本部・鳥居本中学校（従来型）
■ 関係する学校
鳥居本小学校・鳥居本中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	200 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

○学習支援

実施においては、各教科の学習内容でさらに専門的な知識や作業をゲストティーチャーとして来校していただき授業支援を行った。今年度は、技術・家庭科(家庭)、保健体育科、美術科、技術・家庭科(技術)、理科、総合的な学習の時間、道徳、朝読書、夏・冬休みの補充学習の支援で実施した。

- ・ 2年家庭科（郷土料理について）
- ・ 3年理科（天体）
- ・ 総合的な学習の時間（3年卒業研究）
- ・ 2年技術科（電気の授業）
- ・ 3年人権学習（部落問題学習）
- ・ 各学年本の読み聞かせ
- ・ 1～3年体育（剣道）
- ・ 3年美術（茶道体験）
- ・ 夏・冬休みの補充学習

○環境支援

- ・ グランドの芝生の草刈り作業や水やり
- ・ 「鳥居本をゆりの花でいっぱいにする会」

■ 特徴的な活動内容

○地域との連携

地域の行事に生徒が参加し、地域活性化の一翼を担っている。

- ・ 宿場祭り・・・鳥中ソーランの披露
- ・ 学区の運動会・・・吹奏楽部の入場行進、開会式での演奏、中学生が役員として活動
- ・ 学区の文化祭・・・鳥中ソーラン発表、吹奏楽の演奏、合唱の発表、卒業研究の発表



■ 実施に当たっての工夫

鳥居本地区域教育協議会を年3回持つことにし、1学期に地域支援の趣旨・目的を小中で共有し、今年度の活動・役割について確認をした。2学期には中間総括を行い、後半の活動に生かすようにしている。また、3学期には年度末総括を行い、次年度につないでいく。

■ 事業の成果

○地域の行事に中学生が参加していく活動があることは、地域と中学生(中学校)がお互いに支え、支えられるという関係づくりにおいて効果があると考えられる。特に、中学生の活動を実際に発信して、地域の方に見てもらおうということが、彼らの励みになっている。また、地域の方も中学生の活動を見て、頼もしく思ったり、身近に感じたり、これからの地域の担い手としての期待感を持たれている。

○学校支援地域本部事業に、鳥居本学区自治連合会や老社会等が積極的に関わってくださり、地域と中学生を結ぶ活動が多く実践できている。特に、地域の高齢者の方に手紙を書き、体育祭への招待もかねた取り組みや、3学期には、1年生のお年寄り交流活動を行う予定である。

○今年度も、校外へ出て、茶道体験をすることが大きな収穫であった。地域の教育力を活用できた点が評価できる。

○一昨年度より、補充学習に学習支援として地域の方が教えに来てくださっている。一昨年度は、冬休みだけであったが、昨年度と今年度は、夏休みと冬休みに来ていただくことができた。このことは大きな収穫と考えている。地域の人材を活用できたということ、地域の方と生徒とのつながりができたということなどの観点からもよかったと考えている。

○地域行事への中学生の参加が、地域の活性化につながっている。

■ 事業実施上の課題

○補充学習への支援ということで、3名の方に指導していただくことができた。もっと多くの方に来ていただけると、学習という切り口で地域と生徒がつながることができる。そこを、どのように切り拓いていくかを考えていく必要がある。

○地域の人材を発掘する中で、まだまだ潜在的に支援者となっていたりの方々が地域の中には多数おられる。そのような方々にもっと気軽に学校へ来ていただき、自身の経験や専門性を生かしながら子どもたちと一緒に活動することで「生涯学習」の実現につながり、学習成果を活用できる有意義な場としていきたい。

○学校・家庭・地域の交流が深まることにより、相互の信頼関係が強化され地域ぐるみで子育てをし、地域の活性化を目指し、今後の活動にもつながるよう、改善に努めていきたい。



「ふるさとに生きる喜びを」地域とつながる体験活動の支援（鳥居本小学校）

■ 彦根市
■ 活動名
鳥居本中学校区支援地域本部・鳥居本小学校（従来型）
■ 関係する学校
鳥居本小学校・鳥居本中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	100 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

本校では、教育活動を4つの「喜び」を軸に進めている。その中の一つに「ふるさとに生きる喜び」があり、地域の人・もの・自然を教材にした学習活動を行っている。

1・2年生の生活科のまち探検、自然や生き物との触れ合い、3年生社会科の地域探検、地場産業、3年生以上の総合的な学習の時間の活動、5年生のたんぼのこ体験事業、全校縦割り活動で行うウォークラリー、読書ボランティアによる読み聞かせ（通年）など様々な場面で地域とつながる活動を展開した。

■ 特徴的な活動内容

○1・2年 生活科 「川遊び」

例年5月に1・2年児童が仏生寺町の矢倉川に入ってマスやカニなどをつかむ体験を行っており、本年度も実施した。青少年育成協議会や仏生寺町老壮クラブの方々が、周辺の除草、川へ降りる階段整備など安全な学習の場づくりや、当日の児童の活動支援の他、網や児童がつかんだ魚の運搬まで配慮してくださる。多年度に渡り地域の協力を得て実施している学習であり、児童が鳥居本の豊かな自然や人々の温かな思いに触れる機会として定着している。



○3年 社会科 「イチゴ農家の1年」

5月、地域のイチゴ農家の方から申し出ていただき新たな教材として取り上げることとした。児童に時期が終わって出荷できないイチゴを試食させていただいたり、秋や冬の世話について話していただいたりした。都会へ出ていたがふるさとにUターンして始められた事業について学ぶ中で、鳥居本のよさを認識できる学習にもなった。

○4年 総合 「矢倉川調査隊」

6月、鳥居本在住の彦根市環境保全員さん2名の協力を得て、学校近くの矢倉川で水生生物による水質調査を行った。きれいな川に棲む水生生物が多く見つかり、身近な川に対する見方を新たにしている児童もいた。学校の理科室では彦根港湾の水と矢倉川の水、水道水の水質をパックテストで確かめ、矢倉川の水質は、水道水に近く、きれいであることが分かり、児童はよりその思いを強くした。



○5年 総合 「米づくり」

小野町の方の支援を得て、5年生は米づくりを行った。支援者の計らいで環境こだわり米「みずかがみ」を育てることとなり、児童は地域の産業である稲作を体験するとともに、環境への配慮についても考える機会となった。また、自然の恵みや地域の方々の尽力に感謝する気持ちをもつことができた。

○6年 総合 「ふるさと鳥居本」

5月、6年生は地域の方から鳥居本の歴史について話を聞いた。中山道を中心に歴史的建造物がたくさんあることを改めて知る児童も多く、地域に対する新たな見方ができるようになった。

■ 実施に当たっての工夫

活動の事前に担任が協力してくださる地域の方を訪ね、綿密に打合せを行っている。地域の方の思いを大切にしながら、学習のねらいを担任から明確に伝えることが大切である。

■ 事業の成果と課題

地域の人々の協力や支援を受け、全学年で地域の人・もの・自然に触れる体験活動を実施することができた。活動の中で、児童は地域の人々の温かさ、自然の豊かさに触れ、自分のすむ町への親しみや誇りを深めることができた。地域の豊かな教育力を学校教育に生かせるよう、今後も地域の教材開発を行っていきたい。また、児童から地域への発信を充実し、より児童の主体的な学びを推進したい。

■ 近江八幡市における学校支援地域本部の取組（従来型）

■ めざす姿

地域住民がボランティアとして学校の教育活動を支援する「学校支援地域本部」を設置し、地域全体で学校教育を支援する体制づくりの確立をめざす。そのために次の3点を柱に事業を展開する。

- ①地域の教育力の活性化
- ②地域の人々が社会教育で学んだ成果を活かす場づくり
- ③教員が子どもと向き合う時間の拡充

■ 本年度の活動

- 5月 2日（金）事務局会議／コーディネーター委嘱式／コーディネーター意見交流会
- 5月 30日（金）コーディネーター、ボランティア研修講座（読み聞かせ模擬体験）
- 8月 4日（月）学校支援メニューフェア in 近江八幡
- 9月 1日（月）コーディネーターヒアリング
（現状および課題についての情報収集）
- 9月 25日（木）コーディネーター会議
- 11月 7日（金）コーディネーター、ボランティア研修講座
（読み聞かせ実践交流会）
- 12月 11日（木）コーディネーター研修会（コミュニケーション力について）／情報交換会



【情報交換会の様子】

■ 本年度の成果

本事業を有効に機能させるためにはコーディネーターの役割によるところが大きく、特に教員との連携が重要である。そこで、各校のコーディネーター間での意見交流会や情報交換会を行うことにより、工夫を凝らした有意義な取組に結びつけることができた。

また、学校支援メニューフェアにおいては、多くの企業・団体等から認知され申し込みが増えた。その結果、模擬授業や展示ブースの充実が見られた。



【学校支援メニューフェア
模擬授業の様子】

■ 今後の課題

他校園のコーディネーターの取組や他市の活動などの情報を収集しながら、情報を提供・吸収し合い、それぞれの校園の状況に合わせながらの一層の活動の広がりや深まりを求めていきたい。

特に、学校支援メニューフェアについては、限られた時間の中で、出展者も参加者も共に満足でき、生き生きとした子ども達の姿に結びつくように、内容のさらなる工夫を加えていきたい。

■ その他

本事業は平成21年度から取り組んでいるが、併せて平成23年度からは、地域の人材を活用する市長ローカルマニフェストである「人生伝承塾事業」[※]を全16小・中学校で実施している。

※地域の先達が各校で総合的学習の時間等を使い、知識や技能、経験を児童・生徒に伝承する。

■ 地域の宝を学校に！

■ 近江八幡市
■ 活動名
八幡小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
八幡小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	109 人
開 始 年 度	平成24年度

■ 活動の概要

学校と地域、家庭が連携して子どもたちの学びをより豊かなものにするとともに、地域の良さを知り郷土に誇りが持てる子どもの育成を目指し、「地域の宝を学校に！」をテーマに本事業を進めている。また、学校が抱えている課題を地域や家庭と共有し、「つながり」を意識しながら地域ぐるみで子どもを育成する仕組みを構築することをねらいにしている。取組の方針として、次の2点を大事にしている。

- ・無理をせずに行えることから、できる人に協力や支援を依頼すること。
- ・数年かけて、学校支援の視点で地域や家庭とつながり、事業の充実を図る。

■ 特徴的な活動内容

初年度51名であったボランティア登録が3年目は109名と倍増した。活動は大きく分けて次の6分野にわたっている。

- ①環境整備…花壇整備、花の植え替え、樹木剪定、生け花、図書事務、配膳台カバー作り、ゴキブリだんご作り、でかパン作りとテント設営および撤収（運動会）など
- ②絵本の読み語り…毎週火曜日朝学習の時間に1年～3年12学級で絵本の読み語り
- ③学習支援…水泳補助、合唱伴奏、校区の話、デイキャンプ指導補助、ヴォーリズ学習、組み体操補助（運動会）など
- ④児童引率補助…校区たんけん、水郷めぐり、八幡堀学習など
- ⑤クラブ活動支援…家庭科クラブ、日本伝統文化クラブ、卓球クラブなど
- ⑥栽培活動支援…夏野菜作り、ヒョウタン作り、大根作り、北之庄菜作りなど。

また、毎年3学期にはボランティア同士の交流の機会として、「ボランティアの集い」を開催している。活動への率直なご意見をいただいたり、こんなことならできるなど次年度につながる交流ができ、本校の事業実施の上で貴重な機会となっている。

■ 実施に当たっての工夫

活動内容を周知するために、保護者には学校だよりの裏面を使って、児童や保護者を含めた来校者には校内の掲示版を使って、地域の方にはコミュニティーセンターの掲示版を使ってボランティアの方々の活動の様子を紹介するなどして、情報を発信している。

また、ボランティアの方々と教職員には「ボランティア通信」を発行し、これが他学年の活動の様子を知ったり、ボランティアの輪を広げたりしている。

自治会へは、年度終わりに本事業の活動の報告とお礼を兼ねて文書回覧をしている。

■ 事業の成果

この事業に取り組み、それぞれの立場での成果が見られた。

- ①学 校…専門的なことを教えてもらえたり、ボランティアの方々に関わってもらう事で授業がはかどったり、手伝っていただいたことで子どもと向き合える時間が生まれるなど。
- ②子ども…わからないことがすぐに聞けたり、地域の名人のすごさに触れたり、地域の大人の方と知り合いになれて自然にあいさつができるようになったりするなど。
- ③ボランティア…自分の持っている得意なことを発揮できたり、関わることで子どもの上達が見られ達成感があったり、ボランティア同士のつきあいや情報交換ができたりするなど。

これらの成果の背景には、地域コーディネーターの果たす役割がたいへん大きいと感じている。担任との打ち合わせや活動の段取りをはじめ、情報発信や交流まで担っていただいている。三方よしの活動につなげていただいていることが、たいへんありがたい。

■ 事業実施上の課題

次年度以降の実施にあたり、今後課題となることは次の点であると考えている。

- ・今後ボランティアとともにどんな子どもを育てていくか、教職員とコーディネーターが共通の意識を持つ必要があるのではないかと。「地域は、学校の宝である」
- ・地域の子どもの育てているというボランティアの意識をさらに高めていきたい。「学校は地域の宝である」
- ・学校支援地域本部を学校に置くのか、コミュニティーセンターに置くのかどこに設置するのがよいか検討が必要である。
- ・ボランティアのさらなる確保と人材発掘を図る。

■ その他

- ・ボランティアの方々が、活動が無くてもふと学校に来てくださるようなスペースが作れると良いと考えている。



【2年大根栽培 手作りの紙芝居を使って】



【4年ヴォーリズ学習】

■ 地域とともに豊かな学びをめざして

■ 近江八幡市
■ 活動名
島小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
島小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	487 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

本校区は、転出入がほとんどなく、昔ながらのコミュニティの特徴を色濃く残す地域であり、学校に対して協力的であるとともに、学校に対する期待も大きい地域である。そこで、地域コーディネーターを中心に、コミュニティ・センターとも連携を図りながら、本校教育目標「ふるさとにほこりをもち、瞳輝く島の子」のもと、本事業を展開してきた。子どもたちの学びをより豊かなものにするための学習支援、学習を効果的に進めるための環境整備、安全な下校のための見守り活動の3つの柱で実施した。

■ 特徴的な活動内容

校区内には、琵琶湖、西の湖、ヨシ原、里山、水田、大規模干拓地等があり、自然環境と生活が深く結びついた地域である。また、由緒・歴史のある寺社仏閣もあり、校区内の恵まれた自然・歴史・文化等の環境を生かし、様々な学習を進めてきた。

その中から、4年生を中心に取り組んでいる「菜の花エコプロジェクト」の取組を紹介する。地域の祭で松明を作るときに菜種ガラが必要なため、学校周辺の田畑では菜の花が栽培されていて、その一角を学習のために提供していただいている。そこで、菜種の様々な活用を学んでいけるよう地域学習（生活と結びついた学習）と環境学習（エネルギー・資源の循環を学ぶ）を兼ねて取り組んでいる。地域学習においては地域の同じ方に年間を通して支援していただき、環境学習においては専門的な機関に支援をお願いした。

具体的には、前年度に植えた菜の花の刈り取り・菜種落とし→採れた菜種の搾油→絞った油を使った調理→廃油の利用（キャンドル・ポンポン船・回り灯籠作り、バイオ燃料でカートを動かす等）、絞りかすの利用（油かすとして畑の肥料として使用）→菜の花植え（次年度に向けて3年生が作業）、松明作り→春の地域の祭で燃やしていただくという一連のサイクルで学習を展開している。刈り取り、種落とし、菜の花植え、松明作り、祭については地域の方の支援を、油を使った料理は保護者の支援を、搾油・油かす、キャンドル作りは、菜の花館の方に、バイオ燃料作り、カートの操作は、八幡工業高等学校の皆さんに支援していただいた。また、今年度は、子どもたちのより身近なところに菜の花を植えられるようにと、島小サポート隊の方が校舎前に花壇を整備してくださった。



【菜の花を植える花壇の整備】

■ 実施に当たっての工夫

学習支援においては、授業者（担任）が学習のねらいや計画をしっかりコーディネーターやボランティアさんに伝えることを心がけた。今年度は担任の半数が本校1年目になる状況であったので、担任自らも積極的に地域に関わっていくようにした。

上記の「菜の花エコプロジェクト」の他、2年「権座（内湖に浮かぶ島）での栽培と収穫」、3年「ヨシと私たちの暮らし」、4年「ゆりかご水田」など地域の自然環境と深く結びついた学習を年間を通して実施し、できるだけ同じ方に繰り返し支援していただくようにした。その方を核にしてボランティアを募り支援していただくことで、学習のねらいに迫った活動が展開しやすく、子どもとの関係作りの上でも有効であった。また、「しが環境リーディング事業」の県指定を受けていることもあり、地域学習に環境教育の視点も入れて総合的に実施した。



【ヨシ編みの実演】

■ 事業の成果

実体験を基にした話や実物を見たり実際に経験したりすることや、人を通しての地域学習は、理解のみだけでなく、携わる人の思い、その思いが受け継がれていること（伝統や風習）を感じ取ることができ、子どもの豊かな学びにつながった。

また、本事業は3年目となるが、開始初年度からお世話になっているボランティアさんや、年間を通して支援いただいているボランティアさんは、子どもの様子を把握してくださっていて、短い打ち合わせで、授業のねらいや授業計画を理解してくださり、前回より良くなるようにという思いをもって関わってくださる。その思いが子どもに通じ、子どもがよい反応をしてくれることがボランティアさんのやりがいにもつながっている。

島小サポート隊は昨年度立ち上がったボランティア組織であるが、環境整備を中心に、多くの方が参加してくださるようになった。

■ 事業実施上の課題

本事業の支援体制が定着しつつあるが、安易な前年度の踏襲ではなく、教師が地域に愛着をもち、教材化に努めていかなくてはならない。コーディネーターと連携し情報の収集にあたることも必要であるが、そのための時間確保が課題である。また、ボランティアさん同士やボランティアさんとコーディネーター、教員とが学校で気楽に打ち合わせなどができるスペースを確保したいと考えている。

■ 地域の自然や人と共存した教育の充実をめざす（沖島の人と自然を学ぼう）

■ 近江八幡市
■ 活動名
沖島小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
沖島小学校・幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	約20人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

本校では、めざす子ども像として、「**おもいやりのある子**」「**きたえあう子**」「**しまを愛する子**」「**まなび合う子**」を掲げている。沖島の自然や伝統にふれたり地域の人々とふれあったりすることで、郷土を愛する心情を育み、また、交流やたてわり活動を通して、学び合いの経験を積み重ねていきたいと考えている。

その活動の一つとして、地域の方に教えていただいて、沖島の自然を生かした昔ながらの食べ物を作るという取組を行っている。地域の方から児童へ、高学年から次の学年へと、伝統的な食べ物やその作り方が受け継がれている。

また、石切りや漁業（島民の7割の方が漁業組合に関わっている）といった地域の産業についても、地域の方に協力していただいて、計画的に学習している。他にも、年間を通して野菜作りに関わっていただいている。

沖島小学校においては、地域の方の協力が必要不可欠であり、地域と家庭、教師ならびに児童が密接に関わり合いながら、学習活動を行っている。

■ 特徴的な活動内容

○食育に関する学習活動

- ・イバラの葉団子作り… 学校の裏手にあるケンケン山に自生するサルトリイバラの葉を採集し、柏餅のようにして食べる。沖島には柏が自生していないため、その代わりとしてサルトリイバラの葉を用いたことに始まる。島内でもお年寄りの方しか作り方が分からなかったため、お招きして教えていただいた。それ以降、毎年自分たちで作っている。他にも、冬イチゴジャムやサクラの塩漬けなども作っている。

○産業に関する学習活動

- ・沖島の漁について…… 漁についてインタビューをしたり、実際に漁船に乗せていただいたりして、学習を深めている。
- ・エビタツベ作り…… 沖島の伝統的な漁法・漁具について学ぶとともに、その作り方を経験させていただいた。
- ・フナ寿司作り…… 総合的な学習の時間に、沖島の漁や漁師について学習したことをきっかけに、その発展として3年前から始めた。地元の漁師の方にニゴロブナを調達していただき、4月にうろこをふくなどして塩切りをし、2月に出荷している。漬けたフナ寿司は学校で保管し、児童が交代で水替えを行っている。

鱈を落とし、エラを取り除く作業を手際よく行っていた。



【フナ寿司作り】

作り方にも、様々な工夫がされていることを知ることができた。



【エビタツベ作り】

○感謝の気持ちを表す学習活動

- ・なかよし会…… 自分たちで育てた野菜を使って、全児童が協力をしてカレーなどを作り、お世話になった方にふるまう。低学年の児童も、野菜を洗ったり食器を拭いたりするなど、できる仕事を積極的にしている。
- ・ふるさと集会…… 地域の方をお招きして、学習発表会を行う。その際に、地域のお年寄りの方と一緒に、おやつを作って食べるなどして、交流を深めている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・前年度に引き続き、地域への発信に力を入れた。学校便りは、地域に配布するだけでなく、通船の中や漁港の掲示板、待合室などにも掲示して、地域の方以外の目にもふれるようにしている。また、児童が書いた「おしま新聞」も掲示している。

■ 事業の成果

- ・学習に意欲的に取り組むことができた。例えば、エビタツベの作り方を教わった際には、飽きることなく黙々と作業を続けたり、休み時間に自作のもんどり等を使ってエビ獲りをしたりするなど、関心が高かった。
- ・島外から通う児童にとって、地域の方とふれあったり、沖島の良さを知ったりする良い機会になっている。

■ 事業実施上の課題

- ・地域の方の高齢化が進んでいるため、人材の確保が難しくなる可能性がある。

■ 地域とともに学びの充実をめざして

■ 近江八幡市
■ 活動名
岡山小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
岡山小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	約180名（※登録制はとっていない）
開始年度	平成22年度

■ 活動の概要

本校では、H22 年度より本事業に取り組んでいるが、この事業が始まる以前から地域が学校に対しいへん協力的であり、ボランティアや外部講師の方が、多くの学習に関わっていただいている。こうした地域の特性から、ボランティアの登録制はとらなくても、学校が要する人材等を地域コーディネーターに依頼することで、環境整備や学習支援など学校と地域が連携したさまざまな学習を展開している。

■ 特徴的な活動内容

①「田んぼの学校」、野菜づくり支援

本校では「田んぼの学校」の活動を、2年生と5年生の異年齢交流として、農業委員さんをはじめ、地域の人の支援・協力を得ながら取り組んでいる。田植えや稲刈りでは、2年生が初めて体験する子どもが多いが、5年生が気にかけて体験している。1・2年生は、米作りの他に野菜づくりにも取り組んでいる。野菜づくり名人に来ていただき、土作りから世話の仕方などを教えてもらい、夏野菜・冬野菜を育て収穫する。その取組の一環として、地域コーディネーターの企画で、2年生の校区探検のコースの一つに、地域の方に呼びかけ、野菜畑で作業をしてもらった。見学やお話、イチゴを食べさせてもらったりしながら、交流を深めることができた。また11月には、米作りや野菜づくりでお世話になった方を招待して収穫祭を開き、五平餅をいっしょに作って食べながら、地域の人や自然、食に感謝する活動を行った。

②福祉学習

中学年を中心に取り組んでいる障がい者理解の学習では、視覚障がい者の方や車椅子生活をされている方に来ていただいて、生活や思いなどを聞くとともに、その前向きな生き方を学んだ。また、たくさんの車椅子を準備いただき、実際に車椅子を体験する学習をした。4年生では、学校の前にある共同作業所の所長さんに来ていただいて、作業所の仕事内容や仕事をされている人について話を聞いたり、後日作業所に出かけ、その様子を見学したりした。

③その他

6年生では、陶芸の森の方の協力をいただき、茶碗の焼き物作りを体験した。その作品は、学区の文化祭に展示するとともに、3学期には、その手作りの茶碗で茶道教室を体験する。

また、2月には、4年生が「琵琶湖一周鉄道の旅」を実施する。本校では、湖西・湖北の地域から、班ごとに調べたい場所や見学場所、下車する駅等を決め、見学依頼の交渉も子どもたちがしていくため、引率者がたくさん必要である。そのため地域のボランティアさんの協力を得て実施している。

■ 実施に当たっての工夫

地域コーディネーターの人脈を生かし、地域の方や講師の協力依頼や連絡調整に動いていただいた。ただ地域コーディネーターに任せっきりになるのではなく、教員も昨年度までの取組等を活かし、主体的に計画していくことも重要である。そのため、学校と地域コーディネーターのそれぞれのよさを活かせるようある程度分けている。地域コーディネーターは、主に地域のボランティアさんとのコーディネートをしていただいている。2年生の校区探検の一つである牧町の野菜づくりは、コーディネーターが地域の方に呼びかけ、子どもの活動時間に合わせて畑作業に集まっていた。

■ 事業の成果

- ・地域コーディネーターが学習支援に関わる人材の連絡・調整・準備をしていただけることで、ずいぶん教員の負担軽減ができた。
- ・教員とボランティアさんのつながりができることで、その後の学習支援の依頼をしやすくなった。またボランティアさんの指導や助言が、子どもたちだけでなく教員にとっても学ぶことが多かった。
- ・地域の方やゲストティーチャーさんと出会い、交流することは、顔見知りとなってつながりができることで、朝出会った時に挨拶をする子どもたちもいる。またゲストティーチャーさんの話から、思いや前向きな生き方を感じる子どもたちもあり、豊かな心の育成につながっている。

■ 事業実施上の課題

- ・学校の環境整備や子どもの見守り、学習支援などさまざまな場で支援してくださる地域の方に、あいさつやお礼など感謝の気持ちを忘れないで自然と伝えられる子どもを育む必要がある。
- ・次年度学級増のため余裕教室がなくなり、活動が制限されるものもあり、工夫が必要である。
- ・学校支援等の教育活動の情報発信を充実させ、気軽に協力・支援してくださる人材を発掘したり、ボランティアの輪をひろげたりしていきたい。



■ 地域の力で教育活動の活性化

■ 近江八幡市
■ 活動名
金田小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
金田小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	50 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

本校の学校支援地域本部事業は、校区の方を委員として「金田学区地域教育協議会」を組織するとともに、学校支援地域コーディネーターを配置して昨年度からスタートした。本校では、以前から教育活動に地域の方々の力を得て教育の充実に努めてきたが、コーディネーターが「金田学区まちづくり協議会」や「金田コミュニティセンター」とのパイプ役、関係機関との調整役を担い、より一層学校・家庭・地域が連携協力し、授業等の学習補助や教員の業務補助などの学校支援を行うことを中心活動とした。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 1年「昔遊び・お正月遊び」
- ・ 2年「音楽鑑賞」「五色百人一首」
- ・ 3年「金田学区のいいところ」「福祉学習～盲導犬、車いす体験」
- ・ 4年「地域を守る消防団」「蛇砂川の話と現地見学」「紙すき体験～はがきづくり」
- ・ 5年「バケツ苗栽培」「田植え・稲刈り」「環境学習～ヨシ笛づくり」
- ・ 6年「国際理解～青年海外協力隊」「ナップザックづくり」「落語に親しもう」



■ 実施に当たっての工夫

実際に見たり、聞いたり、触れたり、話だけでなく体験を中心とした活動を多く取り入れていただいた。また、コーディネーターを中心に依頼や連絡調整をし、教員の業務補助をしていただいた。

■ 事業の成果

すばらしい知識や技術をもった方から直接指導を受けることにより、子どもにとって、地域、技術、人が身近なものに感じられるようになった。地域に親しみを感じ、自分が住んでいる地域や人に誇りをもつようになった。

また、ゲストティーチャーやボランティアの方々は、子どもたちに優しく接し丁寧にわかりやすく話したり、説明したりしてくださるので、子どもたちもその雰囲気や思いに影響され、学習内容の理解がより深く、印象に残るものになった。指導者一人ではできにくい対応やきめ細やかな対応によって、子どもたちは作業等に自信をもって取り組み、最後までしっかりやり遂げる姿が見られた。子どもたちの不安やあせりが解消され、安心して活動できるので、教室全体・場全体が落ち着きのあるものとなった。

■ 事業実施上の課題

大規模校ということもあり、ゲストティーチャーやボランティアの人数を確保し、日程調整することが難しい。また年度当初に計画はするが、子どもの様子や担任団の希望で急きょ活動がふえたりするので、縦のつながりを考えた活動計画が必要である。地域の方々は好意で快く引き受けていただいているが、できることならほんの少しでもお礼ができるとうい。

■ 地域の人に支えられ 価値ある体験を継続する

■ 近江八幡市
■ 活動名
桐原東小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
桐原東小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	203人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

3年目を迎え、「教科等への学習支援」「朝の時間や休み時間の充実のための支援」「学校環境を整える支援」を中心に活動を行ってきた。「教科等への学習支援」では、生活科、総合的な学習の時間、家庭科等において学習ボランティアを招き、授業の支援をしてきた。また、「朝の時間や休み時間の充実のための支援」では、月に2～4回、朝読書の時間における読み聞かせや昼休みの手作りおもちゃ広場等を実施した。「学校環境を整える支援」としては、継続的にボランティアの方に来ていただき、図書室の飾りつけや前庭の花の世話、剪定等行っていた。

■ 特徴的な活動内容（5年生の場合）

5年生では、「白鳥川の景観を良くする会（略称 景観隊）」の方々の支援をいただき、総合的な学習の時間において以下の日程で環境学習を実施した。

10月9日 白鳥川事前学習

（景観隊の方々と出会う。白鳥川の様子や特徴について知る。）

16日 現地学習（白鳥川に行き、景観隊の方々に説明を聞きながら、川に入り、自然や生き物などを観察する。白鳥川の様子や特徴をつかむ。）

17日～30日 体験したことをもとに白鳥川的环境についてまとめる。

30日 発表会（景観隊の方々を招き、自分たちがまとめたことを発表する。）

12月 景観隊が4月に実施する「白鳥川桜まつり」の桜ボンボリの絵を各自が描く。



■ 実施に当たっての工夫

- ・ボランティアの方々と事前に目標や内容について詳細に打ち合わせを行い、支援のポイントを明らかにした。
- ・ボランティアの方々が生き生きと活動していただけるように支援の場の設定を工夫した。
- ・実施したことの啓発のため、地域コーディネーターが校長室前のコーナーに掲示物を貼ったり、広報紙を発行したりしてきた。



■ 事業の成果

- ・ボランティアの方々に教えていただいたり、説明していただいたり、製作の補助をしてもらったりすることで、子どもたちの活動の場が広がった。
- ・子どもたちは、より多くの地域の大人の人と触れ合うことで、地域の人や地域が好きになっていった。
- ・ボランティアの方が「子どもたちに元気もらいました。」と言って帰っていかれる場面があり、充実感を味わっていただいているようであった。

■ 事業実施上の課題

- ・支援をするのに必要な人数について、学年や活動に応じて適切に決め出していくことが大切である。
- ・地域コーディネーターと担任が日常から支援の時期や内容について協議しておくことが大事で、そうすることによって学校全体としての活動のバランス（時期・内容）がとれることになる。
- ・1年生や5年生のように他学年でも活動に連続性を持たせることにより、ボランティアの方々と接する機会が増え、学習内容だけでなく、様々な側面から学ぶことができる。

■ その他

- ・今年度より、桐原東小学校区だけでなく、桐原学区全体にボランティアを呼びかけてくださったことにより、来ていただく人数が増えた。
- ・学校ホームページのブログ集で、学校支援の様子を紹介しています。

参考URL（桐原東小学校）<http://www.city.omihachiman.shiga.jp/~kirihiha/>

■ 地域でともに育てる馬淵っ子

■ 近江八幡市
■ 活動名
馬淵小学校支援地域本部(従来型)
■ 関係する学校
馬淵小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	80 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

本校では、「まごころのある子、ふかく考える子、ちからいっぱいがんばる子」をめざす子ども像として、地域と協働で取り組んで3年目となる。以前から地域の方々の力を借りて教育活動の充実に努めてきたこともあり、今年度はボランティアさん同士の横の繋がりを広めることを意識して取り組んだ。その繋がりにから新しい人材を発掘し、支援内容の広がりと充実が深まることをめざした。

■ 特徴的な活動内容

(1) 年間を通した図書室支援とクラブ活動支援

図書室支援では、「居心地の良い図書室作り」をめざして、本を読む・調べる・ほっとする場という3点を基本にボランティアさんが、月二回、読み聞かせ・工作教室・整理・廃棄作業などに取り組んだ。

読み聞かせなどのボランティアさんの活動日には、図書委員の子どもたちと一緒にカードにハンコを押して取り組んだ。また、工作教室では、高学年の子どもたちが作り方を自分で考えて、ボランティアさんと一緒に低学年の子どもたちに教える姿がみられた。さらに、廃棄作業では委員会の子どもたちも廃棄基準を参考に本を選出して、教職員が選別し、ボランティアさんが廃棄作業を行うという分担と連携で取り組んだ。その結果、棚がすっきりして新しい本の置き場所を確保することができた。

クラブ活動支援の「家庭科クラブ」では、夏休みにボランティアさんが教師と一緒に作品の試作をして、子どもたちが取り組みやすい作品を決めたり、手順を検討する時間を作った。



(2) 各種団体や個人など幅広い人たちの連携によるヘチマ学習の支援

4年生のヘチマ学習では、植えるための花壇作りから、土作り、支柱立て、ネット張り、収穫、タワシ作りなどの一連の作業を実施した。この支援には、老人会・民生委員さんや地域のブロック積み職人さんを始めとする様々な方々が連携して取り組んだ。

(3) 地域と連携した茶道お点前の披露支援

1学期に6年生の茶道体験学習を支援していただいた後、秋の学区文化祭でそのお点前を披露する支援をしていただいた。新築のコミュニティセンターの茶室での学習は、本格的な茶道の場を体験することができた。そして、文化祭では、有志の子どもたちが150名の地域の方を接待する支援をしていただき、学んだことを実践することで子どもたちは自信を持つことができた。また、地域に還元する機会となって大変好評であった。



(4) その他の支援

水泳、書道、田んぼ、家庭科、ハザードマップ作り、ビニールハウス学習、しめ縄作り、獣医師会出前授業など

■ 実施に当たっての工夫

高齢化を理由に活動を辞退されるボランティアさんが数名おられたので、新しいボランティアさんの発掘のため横の繋がりを広めた。また、ボランティアさんの活動日には掲示ボードでお知らせして、校内でも認識してもらえるように配慮した。

■ 事業の成果

事業も3年目となり、校内でも地域でも周知されてきたのでスムーズに取り組みが進められるようになった。その結果、自宅で教室を開いておられる方が時間を工面してくださったり、退職後の時間をボランティア活動に充ててくださる方が新しく加わり、専門的な内容を取り入れることができた。教師は専門的な内容に自ら知識を深めることができ、子どもたちは顔馴染みのボランティアさんの来校を楽しみにするようになってきた。また、ボランティアさんは、継続することにやりがいと楽しみを感じてもらえるようになってきて、それぞれに充実したものとなってきた。

■ 事業実施上の課題

- ・本校は、ほぼ単級なので新年度担任が変わると前年度の引継ぎが十分なされない場合がある。
- ・顔馴染みのボランティアさんができると子どもたちが頼りすぎる場面がでてくる。
- ・専門知識のあるボランティアさんが増えすぎると一般の方が遠慮される場合がある。

■ 学校と地域が一体となった『地域循環型』の活動に

■ 近江八幡市
■ 活動名
北里小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
北里小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	400人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

○ 地域ごとのボランティア活動

地域を挙げて、実にたくさんの方がボランティアとして支援いただいているので、これまで同様、本年度も北里商業協同組合のご協力を得て、小学校・保育園・幼稚園などへボランティアに来てくださった方々に、北里商店街の買い物補助券をお渡ししている。学校へ来ていただいた方へのお礼と共に地域商店街の活性化につながる取り組みとしてかなり定着してきたように感じている。

○ コーディネーターを核として広がるボランティアの輪

北里小学校区を基盤としながら、ボランティア登録はしていないが、本年度約300名を超える方にお世話になった。

本校児童の一部が自転車通学をしており、地域の自転車屋さんを中心に無料点検を実施して下さったり、昼休みに手作りおもちゃを運び込んでのおもちゃランドを毎週開いたりして子どもたちのために活動してくださっている。

また、地域探検では、故郷の歴史や史跡の説明など、たくさんの方にガイドしていただいている。

教科の学習支援としても、家庭科のミシン補助や調理実習補助、福祉体験教育のための講師など、これもまた多くの方に来校いただいている。

■ 特徴的な活動内容

○ ボランティアグループ「ほんわか」による読み語り

落ち着いた朝のスタートと学力向上を目指して、全校で朝10分間読書に取り組んでいる。また、木曜日には読書ボランティアグループ「ほんわか」さんによる「読み語り」を継続している。

12月の人権週間には学校からの要望で、人権に関する内容の読み語りを、学年に応じた本の選定も含めて実施していただいた。読書ボランティアは在校生の保護者が中心となって活動してもらっているが、読み語り終了後、図書室の整備をしてくださる方もおられる。また、地域には現役時代図書館に勤務されていた専門家もおられ、多いときには週3回、図書室の整備をしてくださっている。

新刊本の登録作業や、データの定期的なバックアップも担当して下さり、図書館主任と連携しながら、子どもたちを暖かく支えてくださっている。その方の姿を見てか、徐々にできる範囲で図書室の整備をしてくださる方の輪が広がってきている。



■ 実施に当たっての工夫

- ・ 地域商店街（商業協同組合）との連携をはかるなかで、ボランティアポイントカードを発行し、地域商店街の活性化に繋がる事業展開を実施していること。
- ・ 地域を基盤とした豊富で多方面にわたる人材を確保することができたこと。
- ・ 実績記録は確実に残すが、人材バンク的なものにとらわれず、適宜必要なボランティアさんに依頼していること。
- ・ 保護者のみならず、学区全体に情報発信していること。

■ 事業の成果

○ 地域との連携

教育活動に協力いただいた方々に、お礼の手紙や成果物、ボランティアポイントを渡した。中には学校にお招きして感謝状や試食会を催した学年もあった。

ボランティアポイントについては、現保護者は対象外とし、それ以外のボランティアの方々に渡した。このポイントは北里商店街のみに有効ではあるが、大変好評であった。地域の活性化にも貢献している。

○ まちづくり協議会との連携

まちづくり協議会の組織の中に、学区の子どもたちに多様な体験活動を仕組んでくださる方々がおられる。もちろん、ここにもたくさんの地域の方々が関わってくださっている。この「子体験活動部」と学校の支援事業が今年度から連携を始めることとなった。

■ 事業実施上の課題

- ・ 今後まちづくり協議会との連携が、より結びつきの強く深くなるよう、組織の面からも連動することが必要であると考えている。

■ ボランティアさんの特徴を生かし、学校のニーズに合わせてつなぐ武佐学区支援地域本部事業

■ 近江八幡市町
■ 活動名
武佐学区支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
武佐小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	79 人
開始年度	平成21年度

■ 活動の概要

- ・小学校区内の地域の方にボランティア登録をお願いし、学校の授業や行事に必要な時に来ていただく。
- ・ボランティアさんの特徴は登録時に確認し、学校のニーズに合わせてコーディネーターがつないでいく。

■ 特徴的な活動内容

- ・プールやクラブ活動、家庭科等、よりきめ細かな指導が求められる授業に定期的に参加してもらう。
- ・体験的学習で、華道や茶道等文化的で専門的な指導を行ってもらう。
- ・地域の文化遺産の紹介や歴史等について、現地での説明を行ってもらう。
- ・警察や郵便局等、官公庁や企業で学校に協力をしていただける所を探し学習に活用する。

■ 実施に当たっての工夫

- ・学年や学級の実態に合った支援になるように、先生の思いをじっくりと聞き取る。
- ・ボランティアさんの思いや意欲を理解するために、できるだけ直接出会うようにし、自宅を訪問して打合せを行ったり、学校に来られたときには顔を合わせるようにしている。
- ・ボランティアさんどうしもお互いに話ができるように、ボランティア室を設けて打合せや休憩に使ってもらっている。
- ・ボランティア便りを作成し、活動の様子を伝え理解が得られるように、ボランティアさんに送っている。

■ 事業の成果

- ・ボランティアの方に学校に来ていただいたり、地域で児童の支援を行っていただいたりすることで、学校や児童の様子をよく知っていただくことにつながった。
- ・地域のボランティアの方と児童が顔見知りや仲良くなることで、地域であいさつしたり声を掛け合ったり、また、地域行事に参加しやすくなるなど関わりが増えた。
- ・授業や行事で教員の力だけではできない専門的な支援を行ってもらえる。また、担任以外にボランティアの方が支援に入っていたので、児童一人一人によりきめ細やかな支援ができた。
- ・教室内の教科書を中心とした授業だけでなく、実際に見たり触れたりできる体験的な学習を多く取り入れられた。

■ 事業実施上の課題

- ・企業やボランティアさんのできることと学校の要望が合わずに、たくさんの方に登録いただいていた良い特徴を持っておられるにもかかわらず、うまく活用し切れていないことがある。
- ・コーディネーターさんの勤務時間に限りがあるので、ボランティアさんや先生との打合せや聞き取りが不十分になることがある。



【 お話会 】



【 家庭科裁縫 】

■ 地域で育てる老蘇っ子

■ 近江八幡市
■ 活動名
老蘇小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
老蘇小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	19 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

地域の方の支援による水田学習や図書の読み聞かせをはじめ、保護者や地域の方々に来校いただいてオープンスクールを開催している。本校では、地域の方の支援を受け、学校・家庭・地域が一同に会して様々な交流活動を行なっている。また、老蘇まちづくり協議会としての支援をうけた取り組みも行っている。

ボランティアの登録数も十分とはいかないが、本年度も募集を行ない、ボランティアの確保に取り組んでいる。

■ 特徴的な活動内容

- ・ 4月 ②年 たけのこ掘り（三橋さん）
- ・ 4月 ④年 はちみつ体験（安土大好きみんなの会・養蜂園）
- ・ 4月 ⑥年 安土考古博物館見学
- ・ 4月 ⑤年 もみまき（大林正夫さん）
- ・ 5月 ⑤年 田植え（大林正夫さん）
- ・ 5月 ②年 野菜の苗植え指導（井上富美子さん・井上ミツ子さん）
- ・ 5月 ③年 奥石神社訪問（神職 井上さん）
- ・ 5月 ③年 石寺蓮池の話（土田庄之助さん）
- ・ 5月 ④年 菜の花の刈り取り（大林正夫さん）
- ・ 5月 ④年 いちご狩り（大林正夫さん）
- ・ 5月 ④年 へちま棚製作（大林正夫さん）
- ・ 5月 ⑤年 びわこ揚水機場見学
- ・ 6月 全校 交通安全教室
- ・ 6月 ④年 パッカー車によるゴミ学習（日吉 南さん）
- ・ 6月 ②年 石寺まち探検（川村妙子さん）
- ・ 6月 ⑤年 アイヌ文化講話（人生伝承塾 居壁太さん）
- ・ 6月 ④年 日野町クリーンわたむき見学
- ・ 6月 ④年 西の湖学習（人生伝承塾 奥田修三さん）
- ・ 6月 ⑥年 茶碗製作（陶芸の森）
- ・ 6月 ⑤年 コゴロナ子魚養流と水生生物観察（ホデジャゴトラスト）
- ・ 6月 ③年 図書館見学
- ・ 7月 ⑤年 コゴロナ稚魚の轟川放流
- ・ 7月 ⑥年 茶道教室（人生伝承塾 木俣唱子さん）
- ・ 9月 ④年 ひょうたん作り（水音治郎さん）
- ・ 9月 ⑤年 稲刈り（大林正夫さん）
- ・ 9月 ④年 ヨシ灯り作り（棚橋さん）
- ・ 10月 ④年 菜の花の刈り取り脱穀（大林正夫さん）
- ・ 10月 ③年 森本養豚場見学
- ・ 10月 ⑤年 家庭科ミシンがけ支援
- ・ 10月 ⑤年 山梶製作所見学
- ・ 10月 ③年 フレンドマート見学
- ・ 11月 全校 オープンスクールデー（営農組合・老人クラブ・婦人会・まちづくり協議会）
- ・ 11月 ③年 菜の花の植え付け（安田惣左右衛門さん）
- ・ 11月 ③年 石寺れんこん栽培見学
- ・ 12月 ⑥年 戦争体験講話（村地習作さん）
- ・ 12月 ③年 盲導犬の話（人生伝承塾 原田勇さん）

・ 毎週水曜日 くすくすさんお話し会（図書ボランティア）



■ 実施に当たっての工夫

学校支援の取組みの情報発信として、昨年に引き続き『ボランティア通信』を年に数回発行し、地域に配布・回覧することでボランティア活動の様子をわかりやすく紹介している。

■ 事業の成果

地域の方の支援を受け、学校・家庭・地域が一同に会して様々な交流活動を行なっているので、より密接に関係が深まっている。

■ 事業実施上の課題

土日に活動があり、職員の負担になっていることが懸念される。

■ 地域と共に子どもを育てる

■ 近江八幡市
■ 活動名
八幡西中学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
八幡西中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	10 人
開 始 年 度	平成21年度

■ 活動の概要

本校は「美しく生きる」を教訓にして、思いやりのある生徒、たくましさのある生徒、きびしさのある生徒の育成をめざした教育活動に取り組んでいます。その実現のために地域の人々に協力を願った結果、学校支援コーディネーターを中心にいろいろな分野での学校支援活動の輪が広がっている。

■ 特徴的な活動内容

（1）部活動支援活動の実施

部活動については、毎年、大きな支援をいただいている。現在、ソフトボール部・テニス部でほぼ1年をとおして、軟式野球部は数回だがお世話になっている。これらの部活動の支援員さんは練習試合、公式試合にも時間が許せばベンチに入り、指導をしていただいている。

また、技術指導だけでなく、マナーや試合に臨む心構えなど、学校教育方針に沿って指導していただいている。

（2）学校行事の支援

今年度も、記録用として、入学式をはじめとした各種行事のビデオ撮影や写真撮影を支援員さんをお願いしている。ホームページの更新作業も、支援員さんにより定期的をお願いしている。行事等があった場合は時間をおかず、その日のうちに情報を提供していただいている。今年は、修学旅行での情報提供をホームページ上に構築し、保護者が利用しやすいように変更していただいた。

（3）環境整備支援

支援員さんとPTAによる環境整備事業を計画的に取り組んでいただいた。夏休みの一斉除草作業や卒業式の花道に使うビオラとパンジーのプランターへの花植えなどの活動などである。

また、プランターへの花植え活動は桐原学区コミュニティセンターの事業である「地域花いっぱい運動」と協同でおこない、幼稚園や小学校、子どもセンターなど地域施設へのお裾分けをおこなった。

■ 実施に当たっての工夫

- ・事業内容が地域にも分かるようビラを作成したり、子どもたちにもどのような人が関わっているのかが分かるよう図書室などに掲示した。
- ・部活動指導については、コーディネーターや部活顧問との連絡調整を緊密に持ち、学校教育方針に沿った指導をお願いした。



【ホームページの製作】

■ 事業の成果

○「事業で子どもがどのように変わったか」

- ・部活動の指導においては、学校では教えられない事柄について子どもたちは学ぶことができ教師の指導を素直に受け入れることができるようになった生徒もいる。
- ・部活動では、社会に必要な礼儀やあいさつなど人として基本的で大切なことがらを指導していただき、随分あいさつができるようになった。
- ・部活動の技術指導においては、教師ができない専門的な指導をしていただいた。そのため、技術の飛躍的な向上が見られた。
- ・環境整備事業で中庭の校長室に面した花壇にチューリップ、ストック、桜草等を植えてもらい、卒業式や入学式を含め、校長室を訪れたお客様はもちろん生徒、教師の心を豊かにしてもらっている。

○「主な子どもの声」

- ・支援員さんは忙しいのに土曜、日曜など休みの日に指導してくださいました。ありがとうございます。これからもご指導よろしくお願ひします。
- ・支援員さんは、指導だけでなくボールに空気を入れたりしてくれます。怒るときもしっかり言ってくださいます。とてもがんばって指導してくれます。いつもありがとうございます。

■ 事業実施上の課題

- ・学校支援地域本部事業を立ち上げ6年目になるが、地域の方が、中学生や中学校を支援していただくことの難しさを痛感する。今年も支援員募集の案内を行っているが、予想以上に中学校の敷居は高いようで、思ったように人を集められない現実がある。「学校の考えるニーズと地域の支援者の一致」が事業発足当時からうまく進展しないという点にあると思われる。また、支援員さんの高齢化が進み、新たな人材の確保が急務である。
- ・別室登校の生徒や怠学傾向の生徒の数が増加しているが、学習の補助をお願いするこの分野の人材の発掘ができていない。教職経験者や本校卒業の大学生や保護者の協力、さらには、候補者の新規掘り起こしなどを行いたいと考えている。

■ ふるさとを知る・学ぶ～地域で学びの応援団～

■ 近江八幡市
■ 活動名
八幡東中学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
八幡東中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	20人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

出会いと体験を通して、実感することにより、学びが単なる知識理解で終わることなく、自らの生き方を考える機会となるように、また、実践的態度として現れるように、総合的な学習の時間を中心に、講演会や聴き取り学習、体験学習を行った。

■ 特徴的な活動内容

①地域調べ学習（1年）

・身近でありながら知らないことがたくさんある近江八幡市について、6つのカテゴリ（歴史・人物・食物・環境・文化・産業）に別れて、班ごとに調べ学習を行った。まず、本やインターネットで調べ、さらに現地に出かけ、聴き取り学習を行った。学習のまとめとして、パンフレットを作成して、班ごとに発表した。学年全体の発表会を親子フォーラムとして開催し、市のボランティア協会による観光紙芝居を親子で鑑賞した。

②人権学習、福祉学習（各学年）

・読み物資料やビデオといった教材での学習に加えて、近くで生活している方々を講師に迎え、直接話を聴く人権学習や福祉学習を行った。



【地域調べ（聴き取り学習の様子）】

■ 実施に当たっての工夫

・生徒の発達段階や状況に合わせて、学年単位で実施したり、学級単位、班単位で実施したりして学習を行った。生徒が、講師をできるだけ、身近に感じることができるよう、学習形態を工夫した。

■ 事業の成果

○生徒の感想

- ・今まで、何も気にしないで自転車を止めていたけど、今日話を聞いて、目の不自由な人や車いすの人が困らないように、歩道や点字ブロックの上には自転車を止めないように気をつけようと思った。
- ・みんなに笑顔であいさつして、地域の人とコミュニケーションをとっていきたいと思います。そして、薬物、たばこなどの危険な物についてこれからいろいろと自分なりに考えていけたら良いなと思っています。
- ・今日は、胸骨圧迫のやり方やAEDの使い方を実際にすることができて、とても勉強になりました。普段の生活で倒れている人がいたら、学んだことを活かしたいと思います。3時間の授業があつという間で、とても楽しく学習することができました。

○上記の感想のように、盲導犬との生活や車いすの生活が、関係のない社会ではなく、自分自身の生活と関わっていることに気づくことができ、日常生活への気配りや実践へとつながった。

○薬物・性・命について身近な問題として考える機会ができ、友だちとのつきあい方、異性とのコミュニケーションの取り方を学習することができた。

○その他、郷土近江八幡に興味を持ち、文化や伝統、産業などに触れる機会ができた。

○授業の中で、学校関係者ではない多くの方々と出会い関わることもできたことが、最も有意義であった。

■ 事業実施上の課題

- ・教育課程から、特設の授業を行うには、内容や時間に制限がある。現在は、総合的な学習の時間で実施しているが、各教科学習内容を深めたり、活用したりする時間として実施できればよい。
- ・外部講師や、ボランティアを活用するためには、事前打合せ等が必要で、そのため時間の確保が必要である。



【人権学習（盲導犬との生活から）】

■ 地域の力を学校に！！ 学校支援ボランティア

■ 近江八幡市
■ 活動名
安土中学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
安土中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	56 人
開 始 年 度	平成23年度

■ 活動の概要

本校は学校教育目標として「自律・鍛錬」を掲げ、その実現のための1つとして「家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校づくり」を進めている。以前から本校では、「安土の子は安土で」をスローガンに、さまざまな教育活動の中で地域の方々の協力をお願いしてきた。本事業でも学校支援コーディネーターを核として多くの学校支援ボランティアの方々の協力を得て、地域の特色を生かした教育活動を展開している。茶道体験活動、読書活動、環境整備活動等、地域の方々の協力を得て多くの体験活動を実施する中で、生徒たちはいろいろなことを学んでいる。

このように、この事業を通じて地域の方々の目を学校に向け、地域の人材を学校支援ボランティアとして活用することで、家庭・地域と共生し信頼と連携が図れる学校づくりが更に進むことを期待する。

■ 特徴的な活動内容

①茶道体験活動

安土町は織田信長ゆかりの地として知られ、その信長が茶道をこよなく愛したと言われている。また、信長が茶を点てるのに使ったといわれる湧き水が現在も残っている。そこで、本校では地域学習を兼ねた特色ある教育活動の一つとして、茶道体験を行っている。今年度も1年生全員を対象とした茶道体験教室や希望する生徒を対象とした茶道体験クラブを実施した。また、文化祭「天正祭」には、保護者や地域の方々向けの茶道教室を実施している。



②読書活動

本校では朝に10分間の「こつこつタイム」があり、1、2年生は朝読書に取り組んでいる。校区の2小学校でも読書活動が盛んで、小学校からの積み上げの効果もあり、ほとんどの生徒が10分間の読書活動に静かに取り組んでいる。そのような中、月に一度の読みきかせを読書ボランティアに依頼して全学年で実施している。



③環境整備活動

本校には、植栽豊富な中庭があり、またその中には県下唯一の茶室「天正庵」がある。また、校舎周辺には6月頃に見頃を迎える1300本もの紫陽花が植えられている。これらの植栽の剪定・除草作業の支援をいただいている。さらに、必要に応じて他の学校環境整備に関わる支援活動もお願いしている。

■ 実施に当たっての工夫

- ・事業が長続きするためにも各活動の企画・運営すべてを学校支援コーディネーターをお願いするとともに、学校支援ボランティアの手配等もすべて担当していただいている。
- ・各活動で、学校支援ボランティアの方に準備から後始末までお願いできることはすべてお願いし、ボランティアの方のできる範囲内で活動を実施しているため、学校の負担は多くはない。
- ・各活動をしっかりマニュアル化することで、毎年同じことがスムーズに実施できるようにしている。

■ 事業の成果

- ・茶道体験教室等は、地域の特色を生かした活動で、生徒の関心を地域に向けることによって地域の良さ等を再発見する機会となっている。
- ・多くの地域の方と触れ合うことで、人との関わりやコミュニケーションを通して、人と関わる礼節などの社会性を身に付けていく。
- ・多くの貴重な体験を通して、教科等では学べない多くのことを学んでいる。

■ 事業実施上の課題

- ・今後、事業が継続し、各活動が充実するためにも学校支援コーディネーター、学校支援ボランティアの更なる発掘が大きな課題である。

■ 地域の子どもは地域みんなで育てる

■ 近江八幡市
■ 活動名
岡山幼稚園支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
岡山幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	34 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

- ・「地域の子どもは地域みんなで育てる」という岡山区民の思いを大事にしながら、幼稚園・家庭・地域が一体となって地域ぐるみで子どもを育てていく。

■ 特徴的な活動内容

○幼児教育の充実のために、地域の方々の力が発揮できるような活動を中心に計画を立て取り組んだ。

- ①保育支援・・・毎日の遊びや生活の支援・給食時の見守り・保育参加
- ②環境整備・・・プランターの花植え、植え方の指導支援・除草・樹木の剪定
- ③託児支援・・・保育参観や保護者が参加する園の行事の時の託児

■ 実施に当たっての工夫

- ・地域の会議での活動の周知
- ・コミュニティだより、園だより、クラスだより等での活動の報告

■ 事業の成果

- ・「地域の子どもは地域みんなで育てる」という岡山区民の思いを受けながら、幼稚園教育の充実のために、昨年度の活動の反省と課題を考慮しながら、地域コーディネーターと共に事業を進めてきた。
- ・今年度より、いろいろな特技を持っておられる地域の方々に保育に入ってもらい、ていねいに関わっていただくことで、子ども達もあこがれたり、活動への意欲をもったりしてきた。
- ・地域の方々に幼稚園に来ていただくことで、子どもの姿を知っていただくことができた。また、地域の方々の協力や子どもを育てることへの思いを感じた。
- ・子どもにとって、先生以外の地域の人たちにかかわることによって、一緒に遊んだり優しい声かけをしてもらったりして安心して幼稚園生活を過ごすことができた。

■事業実施上の課題

- ・今年度より、いろいろな特技を持っておられる地域の方々に保育に参加していただいた。来年度は、保育への参加を計画的に進められるようにしながら、さらに子ども達のあそびへの興味関心を高めていけるようにしていきたい。



【4歳児・折り紙でサンタクロースを折ろう。】
「どう折るの教えて・・・。」「じょうずに折れたね。」



【5歳児・こままわし教室】
「はじめてまわせた!」「もう一回、まわしてみたい。」

■ 地域とともに・・・子どもたちに豊かな体験を

■ 近江八幡市
■ 活動名
桐原幼稚園支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
桐原幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	35 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

本事業を広く知ってもらえるように、月に1度のペースで活動内容などをおたよりにし、配布している。主な活動としては、畑を耕す・畝を作る・マルチをかけるなど畑の下準備や花壇の花苗植えなどの環境整備、子どもたちのボタン留めやリボン結びの練習になるような布おもちゃを作る手芸、そして2年目である今年度よりスタートしたものは4・5歳児への絵本の読み聞かせ、講演会や運動会の前日準備の際の未就園児の託児、園外保育時の安全指導がある。

■ 特徴的な活動内容

今年度から4・5歳児へ絵本の読み聞かせをしていただいている。季節にそった絵本や子どもたちの興味をそそる絵本、科学の絵本などを選んで読んでくださり、ボランティアの方々も子どもたちの喜ぶ姿や読み聞かせをしている時の子どもたちとのやりとりを楽しみに、読みに来てくださっている。絵本だけでなく子どもたちの聞く力が育つように、素話（すばなし）も取り入れてくださり、子どもたちにとって楽しみな時間でもあり、先生や保護者以外の方に絵本を読んでもらうという良い時間をもてているのではないと思う。（3歳児への絵本の読み聞かせは3学期より始める予定）



■ 実施に当たっての工夫

- ・園外保育時の安全指導は、小学校に入学した時のことを考えて、スクールガードで活動して下さっている方にボランティアをお願いした。
- ・保護者ボランティアが参加しやすいように、子どもを送った後からなど時間をはっきり決めないようにした。
- ・その日の活動を園内に掲示し、参加したことのない保護者にも興味をもってもらえるようにした。
- ・ボランティアの活動状況を保護者におたよりで知らせ、興味のあることから参加してもらえるようにした。

■ 事業の成果

- ・桐原幼稚園は今年で2年目だが、少しずつ地域の方にも本事業が浸透してきたようで直接幼稚園にボランティアでお手伝いしたいという連絡をいただくことがあった。
- ・子どもたちにとって、保護者や祖父母以外の地域の方と関わるのが良い経験になっていると思う。小学校に入学してからでもスクールガードや小学校のボランティアとして子どもたちと関わってくださる方も多いため、通学時など見知った人がいることで、子どもたちの安心材料になっている。ボランティアの方にとっても、園以外で子どもたちに声を掛けることができない今、子どもたちと関わることが楽しく思っているようだ。
- ・講演会や運動会の前日準備の際の未就園児の託児では、普段ゆっくりお話を聴けなかった保護者も集中して聴くことができたと言っていた。ボランティアの方々も子どもたちと折り紙や工作をしながら遊ぶことができて楽しかったと言ってくれた。
- ・園外保育時の安全指導では、交差点での横断歩道を渡る際の見守りや、子どもたちのペースに合わせ先導して歩いてくださり、小学校での集団登校の良い予行練習になったのではないと思う。
- ・特に環境整備の畑の下準備など、地域ボランティアの方を中心に作業のやり方などを教えてもらうだけでなく、保護者と地域の方の異世代交流にもつながったようだ。



■ 事業実施上の課題

- ・同じボランティアの方に偏ってしまいがちなので、保護者を含め支援ボランティアをどうやって増やしていくか。今活動して下さっているボランティアの方を大事にしながら、より地域と密着して活動を知ってもらい、協力していただけたらと思う。

■ 地域の豊かな人材を保育活動のなかに・・・

■ 近江八幡市
■ 活動名
金田幼稚園支援地域本部事業（従来型）
■ 関係する学校
金田幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	29 人
開 始 年 度	平成23年度

■ 活動の概要

金田幼稚園創立 50 周年記念のリーフレットの表紙を手作りしよう！！

■ 特徴的な活動内容

- ・平成7～10年頃、金田幼稚園では、環境学習の一つとして、ケナフを育て和紙づくりをしていました。また、コミュニティーセンターでもケナフを使って、環境問題に取り組んでおられ、当時から、地域と幼稚園が連携を密にした教育がなされていて、今日まで続けられていたことを、今回の取組を期に改めて感じることができると思い、取り組むことにした。その時のケナフを乾燥させたものが保存されていることが分かり、今回、それを使って子どもたちが紙すきに挑戦した。

■ 実施に当たっての工夫

- ・紙すきを楽しく体験できるよう、和紙で「50」の数字は、ちぎり紙で教師が作成し、事前に用意しておく。
- ・紙すきに協力する保護者に、ボランティアさんによる事前の紙すき講習会をする。
- ・園児たちは水着に着替えて用意した紙すきの上に「50」を置き、その上からもう一度紙をすいて数字がはがれないようにする。

■ 事業の成果

- ・他にはないたった一つの手作りパンフレットができた。
- ・50周年に向けて園児達も祝う気持ちが高まり、環境学習ができるとともに地域の方々とふれあひもできた。

■ 事業実施上の課題

- ・園児数が多いため難しいが、保護者や地域ボランティアさんの数をもう少し呼びかけることによって環境学習や地域の方とのふれあひがもっとできたと思う。
- ・紙すきをするだけではなく、今年度の50周年を機に、ケナフの栽培から地域の方とともに取り組むと更に環境への学習や興味も深まると共に、地域の方々と触れ合いもできたのではないかな。

■ その他

- ・本園は、園児数が多く個性豊かな趣味や才能を持つ保護者の方も多く、経験して来られたことなどいろいろな事に挑戦もでき壁にぶつかった時でもすぐに対処でき、想像以上の作品が仕上がる。また、金田学区は、昔から金田に住んでおられる方と、全国いろいろな所から引っ越してこられた方も多く、それぞれの地域の特色や、経験して来られたことなど幅広く、教えていただく人材も多い。今後も手伝って頂ける地域ボランティアさんをたくさん発掘できるよう力を入れたい。



【 50 周年記念式典 リーフレット 】



【 紙すきの様子 】

「ボランティアさん、ありがとう！また、来てね！」「また、来るよ！」

■ 近江八幡市
■ 活動名
北里幼稚園支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
北里幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	15 人
開 始 年 度	平成25年度

■ 活動の概要

① ボランティアポイントの取組

- ・ 地域子ども達を育てる上で、多くのボランティアの方々に支えていただいている。北里商業協同組合のご協力をいただき、保育園・幼稚園・小学校にボランティアの提供をいただいた方に買い物補助券を渡し、お礼の1つとしている。

② 地域・ボランティアとのパイプ役

- ・ 昨年度に参加していただいたボランティアに加えて、今年度は、今まで食育支援の一員として活躍されていた方や保護者サークルにも参加していただき、幅広い人材となった。

③ 年間計画立案や事業の実施

- ・ どの行事や事業にボランティアに来ていただくといいのか、保育展開の中にどのように活かしていけるのか等、考えあわせて活動を展開した。



■ 特徴的な活動内容

① 絵本の読み聞かせ・紙芝居上演

- ・ 毎月1回年間計画に位置付け実施した。行事の中に組み入れたり、季節に合わせた内容にしていいただいたりしている。事前に打ち合わせ、年齢や発達に応じた絵本選び、読み方等についても各自で工夫していただくことができた。

② 食育サポート（カレー作り、焼き芋、おでんパーティー等）

- ・ 栽培活動を活かしての様々な食育推進を実施する中、子ども達がクッキングし収穫の喜びやみんなで食べることの楽しさを味わっている。包丁の持ち方を教えてもらったり、見守ってもらったりして、一人ひとりの子ども達が安心して自信を持ってクッキングできるようになってきた。

③ その他（環境整備、お茶会サポート、昔遊び、英語で遊ぼう、腹話術）

- ・ 環境整備、お茶会の手伝い、昔遊びへの参加等があり、年間を通しての見通しを持ち、その都度詳細について検討し、事業展開に努めた。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 年度当初にボランティアに来ていただく内容検討を図り、募集チラシを全戸配布しボランティアを募った。
- ・ 学期毎に、掲示物を作成し、子ども達、保護者、来園者に見ていただけるように展示した。多くの方々に活動を理解していただき、身近なところに掲示することで、子どもも保護者も関心をもって見る事ができた。
- ・ 幼稚園から発行している情報誌に記事を掲載し、月1回の情報発信に努めた。
- ・ 活動毎に実施記録を作成し、実施内容や参加者、感想、反省、課題等を記録に残し、次の活動展開につなげた。

■ 事業の成果

- ・ カレー・お茶会・おでんサポート、昔遊び、花壇整備、月1回の紙芝居や絵本の読み聞かせ、英語で遊ぼう等のボランティアに来ていただくことができた。一緒にクッキングをしたり、紙芝居や絵本を読んだりしていただくことで、子ども達は、自然に親しみをもち、笑顔でかかわることができた。来てくださったボランティアの方々も大変喜んでくださり、「また来てね！」「いつでも来るよ！また、言ってね。」と気軽に言うてくださる光景も多く見ることができた。
- ・ 子ども達が、栽培・収穫した野菜を使って、お世話になった方々を招いて、「ありがとうの会」（おでんパーティー）を開催した。子ども達の感謝の気持ちでおもてなしができ、楽しい会となった。
- ・ ボランティアに来ていただいた後、反省会を持つことで、「～もどうだろう・・・」「この内容なら、子ども達も喜ぶのでは・・・」とボランティアしていただく内容の広がりが見られ、年間計画のみならず、ボランティア内容の幅が広がった。
- ・ 園の行事が豊かになり、参加した方々からは、「子ども達からパワーをもらったわ！」「楽しかった！」と言う声が聞かれたりした。昨年度より参加者数も増えつつある。



■ 事業実施上の課題

- ・ より健やかな子どもの育成につながるよう、地域にどんな人材があるのか、園内にどう活かしていけるのか等を考え今後も実施内容を検討していきたい。

■ つながる、広がる、ボランティアの輪！

■ 近江八幡市
■ 活動名
安土幼稚園援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
安土幼稚園

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	50人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

本園でのボランティア活動は3年目を迎え、保護者の中にもかなり浸透してきた。今年度も、環境・託児・図書との3つのボランティアを募り、事業を進めていった。ボランティアは地域ボランティア、保護者ボランティアで構成されており、今年度は、保護者同士の口コミもあって、誘い合って登録する人もおり、保護者のボランティア登録者が昨年より増加した。

《環境》 木々の剪定や落葉拾いなど時期を見て実施し、子どもたちが安全で過ごしやすいように環境を整えていった。また、園庭で気持ちよく活動ができるように、なつまつりや運動会前に園庭の除草作業を実施。このときは、登録している人だけでなく、保護者全員に知らせて、ボランティアを募っていった。参加してもらいやすいように、8時30分から9時30分までの1時間を3日間というように設定し、気軽に参加してもらえるようにしたことによって多くの保護者に参加してもらえ、その様子を見た子どもたちも一緒に作業をするようになっていった。

年に2回、花壇の花植えの企画（花の種類や配置などのデザイン）をして、子ども達と一緒に花を植えた。専門的な知識を持ったボランティアが子どもたちに植え方や世話の仕方などの話をし、大切に植えて花がいっぱいになるのを楽しみに植えていった。

《託児》 保護者がゆったりと子どもの参観に行けるように、参観のたびに託児を設けている。申し込みの人数に合わせて、ボランティアに声をかけ、参観の間、未就園の子ども達を預かった。3学年が同じ日に実施する保育参観の時には、地域ボランティアが託児を、各学年ごとの参観日には他学年の保護者ボランティアが託児を担当するようにし、互いに見合う体制にしていった。

《図書》 毎月1回絵本のよみきかせをしている。よみきかせの経験のある人もいれば、ない人もいるので、経験のある人とペアを組み、よみきかせの様子を見せてもらうことをしながら、どういうふうに読んだらいいのか、どんな本を選んだらいいのかなど工夫しながら進めている。また、毎週水曜日は、絵本の修理日として位置づけ、参加できる人が参加できる時間に絵本の修理や整理をする日にしている。

ボランティアが少しでも楽しく自信をもって読み聞かせができるように安土図書館司書を講師に招いて研修会を行い、よみきかせの悩みも出し合いながら、絵本の読み方や持ち方などアドバイスをしていただいた。



■ 特徴的な活動内容



園庭の木々が大きくなりすぎて困っていたところ、レイカディア大学を卒業された方が中心となって活動されているボランティアに、木々の剪定をしてもらうことになった。コーディネーターを中心に、園のボランティア、職員も一緒に作業をし、2日間にわたる大がかりな作業だったが、協力し合って気持ちよくできた活動となった。

園での困りごとをコーディネーターがしっかりと受け止め、色々な人に声をかけていく中で、ボランティアの活動の場を求めている方にうまくつながったという結果になった。

■ 実施に当たっての工夫

コーディネーターを中心に、気軽に楽しく活動できる雰囲気づくりを心がけ、やって楽しかった、やりがいを感じたと思ってもらえるようにしている。職員間でボランティアの活動の様子を共通理解し、してもらっていることを子どもたちに知らせて、感謝の気持ちをもてるよう、互いに気持ちよさを感じられるよう進めている。また、ボランティアが負担に感じないように、活動によっては、時間や日程に幅をもたせて「いける時に行く」体制にしていった。

■ 事業の成果

ボランティアだよりや、保護者の口コミで活動の内容や楽しさなどが伝わってきている。参加したボランティアからも、「ドキドキするけど、読み聞かせを聞いてもらえるのが楽しい」「家にいるより、体を動かしたり、人と関わったりしている方がいい」という声もあり、やりがいを感じて参加する人が増えてきた。また、新たなボランティアの参加もあり、人とつながって広がっているボランティア活動を実感できた。

■ 事業実施上の課題

今のボランティアの範囲でできることもあるが、今回のように木の剪定など専門にされている方とつながっていけるよう、このことならここへ聞いてみたらいいという体制づくりが必要と感じた。

■ 地域の方と共につなげる園教育を！

■ 近江八幡市
■ 活動名
老蘇幼稚園支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
老蘇幼稚園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	24 人
開 始 年 度	平成25年度

■ 活動の概要

昨年度より学校支援地域本部事業に取り組み、①子どもたちが気持ちよく過ごせる環境づくり（栽培活動・除草作業・木々の剪定作業など）②絵本の読み聞かせ（月2回～4回）③託児支援（保育参観・学級懇談会・PTA研修会など園の行事の間）④水遊び支援（3歳児の水遊び時の着替え支援）を中心に教育活動を支援する。今年度も支援ボランティアを募集し、できる方ができる時に活動に参加して下さるよう、コーディネーターの連携のもと事業を進める。

■ 特徴的な活動内容

- ・栽培活動
畑作りからサツマイモの苗植え指導をする。（4・5歳児と一緒に）
夏の花苗植えをする。（5歳児と一緒に）
- ・園庭整備
園庭の除草作業をする。
- ・絵本の読み聞かせ
給食後・・・絵本室で子どもたちの選んだ好きな本を読む。
降園前・・・保育室で3・4・5歳児それぞれのクラスで、ボランティアさんが選んだ本を子どもたちに読み聞かせをする。
- ・水遊び支援
3歳児の水遊びの時に、水着への着替えや衣服の着脱支援をする。
- ・託児支援
保育参観・学級懇談会・給食試食会・PTA研修会など園の行事に、託児をする。



■ 実施に当たっての工夫

- ・昨年より継続した活動に水遊び支援を加え、更に事業が充実できるよう進めていった。保護者や地域の方に昨年の成果や事業内容を知ってもらえるよう手紙を配布し、昨年度より参加されている方は継続してそして更に人数が増えるようボランティアを募った。
- ・絵本の読み聞かせにおいては、時間帯や場所を検討し、クラス全員のこどもたちに読み聞かせをする機会をつくる。

■ 事業の成果

- ・運動会前に園庭の除草作業の手伝いを募ったところ保護者も多数参加し、ボランティアの方と一緒に作業を進めることができた。きれいになった園庭で、子どもたちは気持ちよく活動し、運動会も安全に楽しく開催することができた。
- ・絵本の読み聞かせは、給食後の時間を利用、木曜日を原則に絵本室で子どもが選んだ本を読んでもらいほっとする一時となった。また、その後は保育室で降園前に絵本の読み聞かせをする。読み聞かせだけに終わらず、CDに合わせた歌を取り入れたり、動いたり子どもたちが絵本の世界を楽しむ機会がもてた。
- ・栽培活動では、畑作りから苗植え収穫まで指導していただき子どもたちと一緒に作業をしていただいた。子どもたちも水やりなど頑張っし、収穫の喜びを一緒に味わうことができた。
- ・保育参観や学級懇談会・PTA研修会など園の行事に、託児をしていただいたことで、下の子を気にせず、保護者は安心して我が子の様子を見たり関わったり研修に参加することができた。
- ・支援ボランティアの方も子どもたちの名前を覚えて親しみをもって関わってくださったり「一緒に遊んで楽しかった。」「元気をもらった。」と関わりを楽しみ、喜んで参加して下さる姿が見られた。
- ・事業内容を理解して、園の活動に進んで支援をしたり、協力したりする姿が見られ、継続事業のよさが感じられた。

■ 事業実施上の課題

- ・できる人ができる時にということで、事業を進めているが、保護者ボランティアにおいても、仕事に出られる方も増え、なかなか事業を進めるにあたって、ボランティア人数が少なくなっている。充実した事業を進めるためには、豊かな人材の発掘が必要であり、より多くの方に地域ボランティアとして気軽に参加していただけるよう努めていきたい。園教育の理解をしていただきながら、園と地域がともに子どもたちを育てていけるようにしていきたい。



■ 栗東市における学校支援地域本部の取組

■ めざす姿

地域の方々の理解、協力を得ながら、とりわけ学校での活動における健全な青少年育成を進めたいと考えている。本市は9小学校、3中学校を有しているが、そのうち1中学校において、学校支援地域本部を設置している。もとより、地域のボランティアの方々により生徒指導面における学校支援を目的として組織された団体が基幹となって活動を進められており、地域ぐるみで青少年の健全育成に取り組み、学校や家庭での教育活動支援を進めている。

当該校における活動が青少年の育成に良い影響をもたらし、他校へと広まっていくことによって、市全体の青少年育成の推進、地域教育力の向上、学校との連携を深め、広げていくことをめざしている。

■ 本年度の活動

1校において学校地域支援本部を設置している。サポーター会議において年間の行事予定や、サポーターを増やす試みについての取り組みについて協議を行った。

■ 本年度の成果

1校のみではあるが、その中で美化活動や見守りをはじめ、サポーターの協力を得ながら多くの活動を実施できた。校内の活動だけではなく、育てた作物の販売等、他団体（JA）の協力も得られ、サポーター活動について、多くの人に広報ができたと感じている。

■ 今後の課題

他校にどのように広めていくかが課題である。一番の問題となるのはスタッフの確保である。企業の人材不足により、高齢者の再雇用や女性の社会進出が進んでいることで、ボランティアとしてスタッフを募集しても、人が集まりにくい。「学校関係の活動に対する協力」となると構えてしまう人が多いとも考えられる。まず、コーディネーターとなる人材の安定的な雇用を確立し、常に地域に対して学校支援への協力を呼びかけられるような体制づくりが求められる。

学校運営について協力する団体としてはPTAもあり、活動が重複する組織の設立、活動の実施については行政側から強く推進しても「負担の押し付け」ととらえられる恐れもあることから、地道な啓発活動により、地域から自発的に活動が起こるよう期待している。

現在実施している1校の活動内容や実績を広く広報することにより、他校での実施の気運を盛り上げていく必要がある。

「おらが学校！」 地域と学校を結ぶ栗東中学校支援地域本部「栗中サポーターズクラブ」

■ 栗東市
■ 活動名 「栗中サポーターズクラブ」
栗東中学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校 栗東市立栗東中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	28 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

本校の学校支援地域本部「栗中サポーターズクラブ」は、平成19年度、生徒指導面を支援する地域住民団体が基盤となり「栗中改革サポーター」として発足された。

発足当初は、日々の学校教育活動における生徒指導面での支援を中心に、授業や清掃の見守りなど、生徒の学校生活の中に大人の目を校内に増やす取組からスタートした。

現在28名の地域住民、保護者から編成されるボランティア「登録栗中サポーター」と45社の学校支援地域本部をサポートする地域事業所「栗中ブースターズ」が「栗中サポーターズクラブ」として組織し、幅広く学校教育支援活動を実施している。

■ 特徴的な活動内容

- ①学習環境支援・・・美化活動を兼ねて学習の様子を参観
- ②図書室支援・・・新着図書のデータ登録や書籍整理など図書室運営全般を支援
- ③環境整備支援・・・破損箇所修理や植栽伐採など、校舎内外の学校生活環境向上全般における支援
- ④通学マナーアップ・・・登下校時の危険箇所での立番活動
- ⑤学校行事支援・・・学校行事、校外学習、生徒会活動などへの支援
- ⑥栗中コミュニティガーデン・・・学校と地域との協働運営菜園で野菜等の栽培

■ 実施に当たっての工夫

- ・「栗中サポーター」の来校を職員へ周知・・・来校時には専用のユニホームを着用していただき、職員にサポーターの来校が一目で分かるようにする。また、来校される方の名前と活動内容を職員黒板に記し、全職員への周知に努める。
- ・職員の確実な対応・・・「栗中サポーター」の活動時には、必ずコーディネーター、または管理職等が対応。「栗中サポーター」任せにならないように、毎回学校との交流を欠かさないようにする。また、活動前後には、直接「栗中サポーター」から話を聞き、「栗中サポーター」の想いやアイデアを大切にするように心がける。そして活動後には、可能な限り報告書に活動内容や感想等を記入していただき、活動を形として残す。
- ・校内に「栗中サポーター」専用スペースを確保・・・「栗中サポーター」専用の部屋を設け、活動の前後の時間を過ごしていただく。この部屋は、「栗中サポーター」と職員が活動の打合せをしたり、「栗中サポーター」同士の交流の場として活用している。このような専用の空間を設けることで、用具や備品の区別化だけでなく、校内での「栗中サポーター」の位置づけを明確にし、よりスムーズな活動へとつなげるようにする。
- ・目に見える活動報告・・・幅広く地域住民に支援活動を報告するため月報の「栗中サポーター通信」を保護者、地域自治会長、民生委員、主任児童委員、補導員、保護司あてに毎月900部配布。また、校内には校長室前壁面に活動の様子を、写真を交えて紹介し、外部からの来校者の目にも留まるよう掲示する。

■ 事業の成果

校内巡回による授業時の見守り、通学時の危険箇所の見守り、図書室整備、美化環境作業支援など、発足当時から継続してきた校内中心での支援活動に加え、近年では学校行事支援や協働菜園運営など、新しい取組も発展、定着させてきた。このことにより、「栗中サポーター」活動の幅が広がり、また同時に活動の場も地域へと広がりを見せている。具体例としては、協働菜園での収穫野菜をJAや2年生勤労体験学習の一環である起業体験店舗で販売したり、生徒会や部活動との協働実施の地域美化活動を行ったりするなどである。このため、学校関係者だけでなく、広く一般の方々に、地域住民で組織する学校教育支援団体「栗中サポーターズクラブ」について認知していただく機会となった。そして今年度はこれまで継続してきた「栗中サポーター」活動が認められる場が多い1年でもあった。「栗東市青少年育成功労者」への表彰、滋賀県教育会「心の教育推進事業」への表彰、そして、文部科学省「優れた『地域による学校支援活動』推進にかかる文部科学大臣表彰」受賞といった場で、「栗中サポーター」活動の功績が認められた。これらの受賞は、「栗中サポーター」にとっても、今後の活動への大きな原動力にもなっていると実感している。

■ 事業実施上の課題

本校の学校支援地域本部活動も7年になり、校内のみならず、地域へも活動がひろがってきたが、登録いただけるサポーター数が増えない状況にある。地域の様々な場で広報活動を実施し、多くの方々に興味を示していただけるが、なかなか「栗中サポーター」としての登録までいかないのが現状である。学校支援地域本部「栗中サポーターズクラブ」を今後も継続させていくためにも、この事業の成果と必要性をより多くの方々に知っていただき、息の長い安定した支援活動にしていくことが課題といえる。



【生徒と共に地域清掃】



【学校と地域の協働運営菜園で収穫した野菜を地域に販売】

■ 湖南省における学校支援地域本部の取組（従来型）

■ めざす姿

本市においては、「学校支援地域本部事業」の取組を開始して7年が経過し、「小学校はコミュニティ・スクールへ、中学校は学校支援地域本部の設置を」を湖南省ビジョンとして掲げ、地域による学校支援活動を推進している。すでに岩根小学校は平成19年にコミュニティ・スクールの指定を受け、地域と学校が一体となって子どもたちを支えていく新たな学校の形を推進しているが、他の学校も、それぞれの地域や子どもの課題について実行委員会や学校運営協議会制度導入に向けた「C・S推進委員会」で熟議を重ね、地域の力を生かした支援活動のあり方や地域とつながる学校経営マネジメントのあり方について研究を進めている。

■ 本年度の活動

学校支援地域本部事業運営委員会 6月6日(金)

- 1) 講話「学校支援地域本部の財政的自立を構想する」

講師 文部科学省 CSマイスター 高木 和久氏

- 2) 中学校区別分散会

学校評議員・学校運営協議会理事・学校支援地域本部委員等合同研修会 1月27日(火)

- 1) 実践発表

- 2) 講演「第三中学校ピア・サポートの取組」

講師 三原市立第三中学校教頭 原 克幸氏

市内全地域コーディネーター交流研修会

第1回 4月24日(木) 第2回 10月6日(月)

- ・地域コーディネーターの資質向上、情報ネットワークの構築に向けた研修

中学校区別地域コーディネーター交流研修会 各学期1回開催

- ・小中連携、小小連携を意識した学校応援団の取組の企画立案
- ・学校と地域が連携していじめをなくす取組の情報交換

■ 本年度の成果

- ・地域コーディネーターを中心に小中校区間の情報交換が積極的に行われ、学校や地域の特性・実情を生かしながら、持続する取組の充実が図られた。
- ・中学校に支援本部が設置されたことにより、小中連携、多世代交流の事業、体験講座の実施など今後につながる新たな活動が創出された。
- ・従来からの「環境整備」「登下校安全指導」「学校行事」「クラブ活動支援」「授業の補助」に加え、今年度から「土曜の教育支援事業」により、「学力補充のための学習支援」や「体験教室」の取組が積極的に実施され、地域をあげての子どもの学力向上への気運が高まりつつある。

■ 今後の課題

- ・まちづくり協議会の組織に学校と地域を結ぶコーディネーター力が育つことで事業がさらに円滑に実施できると考えられる。研修の機会を持ち、事業の周知と地域人材の育成を図る必要がある。
- ・経済的自立に向け、地元自治会やまちづくり協議会、企業（事業所）等との連携のあり方を探る。

■ ひとりだちできる子どもの育成を支援します～みくもっ子支援委員会 この1年～

■ 湖南市
■ 活動名 三雲学校支援地域本部（従来型） ＜みくもっ子支援委員会＞
■ 関係する学校 三雲小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	283人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

前年度展開していた事業を継続し活動している。今年度は、環境支援、見守り支援を主に工夫をし、活動した。

環境支援では、子どもたちの情緒の安定を願った学校の内外の整備を行った。（詳しくは、次項「特徴的な活動内容」参照）

見守り支援では、子どもたちへの寄り添いという思いで続けている掃除のサポート、子どもたちの安全・安心を支援する登下校の通学ボランティアや図書室での見守りボランティアに重点を置いた。

また、家庭教育支援員さんとも連携をとって、不登校傾向の児童の支援についても一緒に相談している。

■ 特徴的な活動内容

環境の整備においては、前庭の植木の剪定、「三雲サクラ花壇」の手入れ、花壇に季節の花植え、防災井戸の囲い作り等を行った。

玄関前では、平成3年3月創立120周年記念を記念してつくられた湖南市在住の彫刻家深田充夫さんの「心の鑑」のシンボルを中心に季節の花が彩りを添えている。

この2年間で、前庭が見違えるほど整備された。休み時間には子どもたちも前庭にあるびわ湖池の周りで歓談する姿も見られ、憩いの場として復活した。



【環境ボランティアで整備した「心の鑑」】

■ 実施に当たっての工夫

花の苗については、前年度の花から種を取り、苗作りを環境ボランティア中心に植栽、草引き、水やりなどの作業は、生き物がかり委員会の児童を中心に、1年中季節の花が咲いているように花壇づくりを進めている。

活動の中で5・6年生の委員会の児童とも交流が深まっている。また、理科や総合学習等で前庭の草花が活用される場面もあり、学習の場としても使用されている。

■ 事業の成果

掃除サポートについては、すぐには成果として表れないものの、去年指導していただいた手洗い場の掃除は、今年度になって、どの学年もスポンジ片手に一生懸命磨いている姿を見ることができた。

登下校の安全を見守る通学ボランティア、図書室での見守りボランティアとして地域の方々に関わってもらうおかげで、子どもたちの聞く姿勢が向上し、一定の成果が見られた。

毎学期末に子どもたちが手紙を書いて通学ボランティアのみなさんに渡す活動も定着してきた。

- ・いつも 見まもってくれて ありがとう。車を とめてくれて ありがとう。あめのときも たってくれて ありがとう。（1年生）
- ・いつもありがとうございます。あいさつをしてくれたら わたしたちもいいきもちになります。これからも みまもってください。（1年生）
- ・スクールガードさんのおかげで、いつもみんなが安全に登校・下校できています。これからも体に気をつけて、わたしたちを守ってください。（4年生）
- ・いつも見守ってください、ありがとうございます。2学期ががんばったことは、しっかりと交通ルールを守ったことです。これからも交通ルール守っていきます。（4年生）
- ・見守ってくださってありがとうございます。寒くなってくるので、体に気をつけてください。（4年生）



【休み時間 図書室の見守りボランティア】

■ 事業実施上の課題

保護者の皆さんの間での本事業の浸透度がまだまだ低いように思える。引き続き広報などで活動発信して、保護者の方々と顔つなぎをもしていくことが必要である。成果がすぐに出なくても長い目で見て積み上げていくことが大切ではないかと考えている。また、新しいボランティアさんの発掘にも力を入れ、定着させていきたい。

何よりも地域や保護者の皆さんに子どもたちの良さを知ってもらえるよう努めたい。

■ 支援の広がりと充実をめざした「東っ子応援団」の取り組み

■ 湖南市
■ 活動名
三雲東小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
三雲東小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	150 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

学校と家庭そして地域が、子どもの課題を共有し、課題解決に向け、一体となって連携の方向を探るとともに、地域の大人との様々なふれあい活動を通して、子どもの安全と学習活動の充実を図る。そのために大きく次の3点を中心に取組をすすめている。

- ①学習活動を支援する。
- ②安心・安全を確保する。
- ③学習環境を整備する。

■ 特徴的な活動内容

○「菜種の栽培」（農園ボランティアとの定例事業）

- その年に採れた菜種を種蒔き・育苗（秋）
 - 育った種を3年生が畑に移植（冬）
 - 新年度に満開（春）
 - 花が終わった菜種を4年生が収穫・乾燥（初夏）
 - 乾燥した菜種を4年生が脱穀（夏）
 - 採れた種の製油作業を業者に依頼・種の一部を次の3年生に送る（夏）
 - 菜種油・油粕をPTAバザーで販売（秋）

※ 継続した活動と自主財源の創出、活動への認知を高める広報活動



■ 実施に当たっての工夫

○新しいボランティアメンバーの募集で活性化を図る

- ・在籍児童の親・祖父母等にも積極的に呼び掛けることで、ボランティア参加者が増加。
- ・コーディネーターが新規参加者へ活動についての説明を実施。
- ・コーディネーターが参加者と積極的に関わることで人間関係を構築し、円滑なボランティア活動を実現。
- ・学年の行事や学校行事にもボランティアの参加を意図的に募ることで、参加者の学校理解・児童理解を促進。

■ 事業の成果

○学校支援地域本部事業の可能性の拡大

- ・従来からある「農園ボランティア」のメンバーも新旧の入れ替わりを経て活性化された。
- ・新規事業が増え、地域の人材の様々な個性が、ボランティア活動に活かされる場面が増えた。
- ・単発のボランティア参加者が、それを契機に継続して様々な活動に参加してもらえることが増えた。



■ 事業実施上の課題

○計画的な学習支援について

これまでの経過から、学習支援ボランティア募集の一覧等を作成し、年度初めに提示することで、計画的なボランティアの采配を可能にする。

○学習支援の在り方について

活動に対する児童の満足感を大切にすあまり、「失敗はさせたくない。」「うまく効率よく進めてやりたい。」との大人の思いが前面に出過ぎ、準備や手出しをしすぎるきらいがある。「児童につけたい力」「めざす子ども像」を学校とボランティア参加者が共有するシステムの構築が急がれる。

○事業の今後の方向性について

地域から児童に向けての支援が活発になってきたが、一方で地域の行事等に児童が参加し「役割」を担うことも推進していきたい。こうした双方向の支援の実現を通して、学校支援地域本部事業がより確かな学社連携を推進していく一助になればと考える。

■ その他

○関わってくださっている地域のボランティア参加者に対する児童の感謝を表す場はあるが、保護者にはまだまだそういった活動に対する認知が低い面があることから、広報活動のさらなる工夫を要する。

■ 図書ボランティア“こっとな・トン♪”の取り組み 【下田っ子応援隊 なすびいず】

■ 湖南市
■ 活動名 下田小学校支援地域本部（従来型） ＜下田っ子応援隊 なすびいず＞
■ 関係する学校 下田小学校

コーディネーター数	2人
ボランティア登録数	13人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

下田小学校では、学校支援地域本部が設置される以前から、図書ボランティアグループの活動がされており、活動内容は子どもたちへの「読み聞かせ」が中心だった。学校支援地域本部が設置されてからも以前と同じように活動が続けていたが、グループの名称がなかったため平成24年度に「こっとな・トン♪」という名前をつけた。そして、活動の幅を広げるために昨年度より、読み聞かせグループを「チームY」とし、新しく図書室の環境整備のグループも立ち上げ「チームB」として活動をはじめ、今年度はより活動を活発にした。

■ 特徴的な活動内容

～「チームY」の活動内容～

- ・ 下小タイムでの読み聞かせ
(火曜日／8時20分～8時40分)
- ・ 1年生への読み聞かせ
(金曜日／5校時目)

《活動の目的》

- ① 読み聞かせによって様々な本にふれることで、本に親しんでもらう。
- ② 好きなジャンル以外の本を知る機会を増やす。

～「チームB」の活動内容～

- ・ 季節ごとの図書室の飾りの制作、飾りつけ
- ・ 本の整理、修理

《活動の目的》

- ① 図書室を飾ることで、興味を持ってもらい、足を運んでもらうきっかけにする。
- ② 季節ごとの飾りつけで、季節の移り変わりや、季節の行事ごとを感じてもらう。
- ③ 本の修理をおこない、整理をすることで、本を大切に扱う心を育てる。

■ 実施に当たっての工夫

- ① 以前は、読み聞かせのたびに、使用する絵本などを市の図書館に借りに行く等の手間がかかっていたので、昨年度より小学校の図書室の本を借りることができるように、貸出用バーコードを作成してもらった。
- ② 「チームY」・「チームB」どちらにも気軽に参加してもらえるように様々な方に声掛けをした。
(例)・「チームB」の集まりの前に登録メンバー以外のボランティアや地域の方にも告知をするようにした。
・「チームY」が読み聞かせをしているときに興味のある方には見学に来てもらえるようにした。
- ④ 図書協力員と地域コーディネーターで、図書室の整理や飾りについて話し合う機会をふやした。

■ 事業の成果

- ① ボランティアが図書室の本を借りられるようになり、読み聞かせ用の絵本などを用意することが簡単になった。
- ② 子どもたちに図書室にある本を紹介できるようになった。
- ③ 1年生の教室に毎週のようにボランティアがいくことで、子どもたちの他の活動時にもボランティアがかかわりやすくなった。
- ④ 図書室を季節ごとに飾ることで、子どもたちはもちろん、ボランティア自身も季節ごとの行事などに関心を持つようになり、飾りつけも外から見たときに美しく見えるように工夫したことで、地域の方にも楽しんでもらえるようになった。
- ⑤ 活動に参加しやすくなったことで、いろいろな方が来てくださり、交流や情報交換の場としての役割も担うようになってきた。



■ 事業実施上の課題

- ① 「チームY」（読み聞かせ）は難しく考えられてしまい、新しいメンバーが集まりにくい。
- ② 低学年への読み聞かせ用の絵本を選ぶときも悩むことは多いが、学年が上がるにつけ、本を選ぶときの基準が難しい。
- ③ 図書室の整理をする時に、ボランティアだけではやりにくいことがある。
- ④ 図書室の環境整備について、小学校の図書委員会と一緒に何か考えることができるのではないかと。
- ⑤ 中休みや昼休みに子どもたちと一緒に本を選ぶなど、図書委員の補助をするようなボランティアがいてもいいのではないかと。

■ 地域と共に子どもを育てる ～地域の方は学校へ、子どもは地域へ～

■ 湖南省
■ 活動名
日枝中学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
日枝中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	15 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

自分の持っている力を地域活動に活かすことを通して、感動や達成感を感じてもらえることを目指して活動している。また地域の方々には生徒の自主性、自発性を尊重しながらその時その子が必要とするサポートをしていただいている。

■ 特徴的な活動内容

○「お弁当教室」…地域の健康推進員の方にお手伝い頂き、お弁当教室に取り組んだ。「簡単お弁当を作ろう～食べることは生きること 食べさせることは愛すること～」をキャッチフレーズに、誰でも失敗なく作れるように献立を工夫した。

学校給食のない日にお弁当を持たせてもらえない子どもが数名いる。近くのコンビニで調達したり、部活動の最中に空腹で倒れ保健室で栄養ドリンクをもらう子どももいる。親に作ってもらった弁当はカッコ悪い、コンビニ弁当の方が良いと思っている子もいる。また、高校へ進学すると給食がなくなり、毎日お弁当を持って登校することになり、親からも毎日のお弁当作りに不安や面倒さを感じるという声も聞かれる。調理に不慣れな子どもや忙しく時間のとりにくい親に、下ごしらえに手間や時間をかけなくても、複雑な作業や味付けがなくても、バランスの良い食事を作ることはできるということを知ってもらえるきっかけになればという目的で実施した。



○「公民ゼミナール」…社会科の先生にお願いをし、中学校の図書館で月に一度夜間に、大人の学びなおしのための公民講座を開講。親や祖父母世代にも苦手意識を持ったまま大人になったという声も多く、学びなおすことで中学生と家での会話のきっかけになることを目指す取り組み。参加者の年齢層も広く、毎回好評で、週末の夜間であるにも関わらず参加人数の減少は見られないうえ、要望により当初より開講日が増えている。

○「湖南工業団地製品の校内展示」…自分の育つ街は素敵な所なんだと誇ってもらえるよう地元の特色を紹介する取り組みの一環。中学校から眼下に広がる湖南工業団地だが、一体どんなモノを作っているのか知る人は少ない。そこで学校へ工業製品を貸し出して展示させていただけるよう依頼した。生徒たちに知ってもらうことを工業団地の企業の方々も大変喜んでいただき世界や日本を支える技術の数々に、生徒達だけでなく先生方や来校された地域の方にも驚きや深い興味をもって展示を見ていただけた。

○その他の取組：キャリア教育、サマースクールでの宿題サポート、図書室開館支援、中学生の夏休み学習会、家庭科実習の補助、お弁当教室、水戸まちづくりフェスタ、水戸オータムカーニバル（多文化共生）、下田ふれあいまつり、下田ふれあい餅つき大会

■ 実施に当たっての工夫

お弁当教室については、レシピや手順には書いていない裏技や注意点、コツなどを細かく生徒に伝えて頂けるように、本番前にリハーサルを行い、教えてやって頂きたい内容を記した用紙を準備、ひとつひとつの工程でのポイントを全員で共有した。本番にはテーブルに1～2名ずつ指導に入って頂き細かく指導をしていただいた。

そのほかの行事においても、ボランティアの方々に月ごとの学校の行事表をお渡しすることで中学校への継続的な関わりへの声掛けに役立っている。

■ 事業の成果

健康推進員さん達をはじめ多くの方々としっかりと関わったことにより、生徒たちは自分たちの地域にはこんなにも沢山の方が健康づくりや安心して活動できる環境づくりのために気を配ってくださっているということに気づくことができた。

地域の方からは難しい、敷居が高いと言われていた中学校への支援が、心配していたとは逆で子どもたちの素直さ、できた時にみせる満足な笑顔に魅了され、中学生とかかわれたことを感謝して頂くこととなった。この取組みの後の応援にも積極的に協力頂けることとなった。様々な取り組みの中で自分の住む近くにいろんな仕事で極めていらっしゃる方がいることに気づききっかけとなった。

「自分は地域の大人達に歓迎・信頼されている」「地域の子ども達の力になれている」という気持ちから、地域の子ども会などから離れても地域の一員だということを実感してもらうことができたように思う。

先生方からは地域の方に入っていただくことで生徒達のマナーが向上し落ち着いてきたという感想をいただいている。

■ 事業実施上の課題

ボランティア活動における生徒の自主的な参加の難しさが大きな課題である。地元のイベントではお客としての扱いではなく生徒の自主性が活かされる活動にシフトしていきたい。子ども達が身近で豊かな知見を得るきっかけになるよう、より幅広い人材確保に繋がるよう活動を深めたい。また、広報紙が生徒から親へ渡っていないことや保護者の方々においても仕事の都合などによる関心の薄さも感じられることから、地域に向けての広報を積極的にしたいと考えている。あわせて、傍に工業団地や商店街があるという地域の特性を活かして、各企業様にもご協力いただきながら中学生と共に、新たな地域活動の取り組みへの提案に挑戦し、目に見える形で地域一体の姿を推進していきたい。

■ その他

・参考URL（日枝中学校）<http://www.edu-konan.jp/hie-jh/pindex.htm>

■ 学校を拠点とした地域づくり、人づくりをめざして

■ 湖南市
■ 活動名
石部中学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
石部中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	50 人
開始年度	平成26年度

■ 活動の概要

今年度から支援地域本部の活動を開始。2小学校区からそれぞれ1名ずつ、計2名のコーディネーターが連携を取りながら週に4日、一日3時間の活動となっている。学校行事で保護者や地域の方が来校される日（体育祭や文化祭、さらには学校公開日など）は、受付をはじめ、来校者に関わる役目を受け持つ。勤務の日には可能な限り学校職員（主に学校長）との懇談を行い、今年度は学校の意向のもとに進める活動を心がけている。また、CS推進委員会などの会議にも事務局の立場で出席をするなど、来年度に向けて学校と地域をつなぐパイプ役としての効果的な動きを探っているところである。

■ 特徴的な活動概要

①地域の方による学校支援活動

○中学校1年生と2年生を対象とした「本の読み聞かせ」活動

小学校で「本の読み聞かせ」を経験した生徒に、引き続き読み聞かせの良さを味わってもらうことと同時に、地域の方が読み聞かせを通して中学生に関わっていただき、地域みんなが応援していると感じてもらうために実施している。4名の方が週に1回ずつ、朝の読書の時間（10分間）に来校し、学級を順番に回ってくださる。一人年間24回（8回×3学期）。

○3年生の面接練習支援活動

3年生が来春の進路選択を本格的に考えていく10月、希望者に対して放課後を利用した面接練習を実施。面接官は地域の方にお願ひし、1対1の面接を一人15～20分、行っていた。今年度の希望者は100人中18名。（昨年15名）

②生徒による地域づくり貢献活動

・今年度、試験的に実施したのが「中学生の夏祭りスタッフ」。あらかじめ各自治会の区長さんに趣旨を説明し、学校で希望者を募って、各生徒が自分の住む自治会の夏祭りにボランティアスタッフとして参加。区によっては、事前の話し合いにも中学生が参画し、企画段階から地域の方とともに催しを盛り上げることができた。生徒は「地域の方と顔見知りになった」、地域の方は「中学生のイメージが変わった」との弁。

■ 実施にあたっての工夫

- ・地域の方がボランティアとして学校で生徒と関わっていただくときは、必ず事前に集まっていたり、教科の場合は担当教師はもちろんのこと、学校とボランティアさんの共通理解を図る機会を設定している。ボランティアと言えども、生徒に関わっていただく場合、生徒にとっては地域の先生としての認識を培っていききたいものである。
- ・地域コーディネーターが2名体制なので、月に一度は2名そろっての打ち合わせ会を実施。学校長、教員の担当、コーディネーターが顔を合わせて、翌月の計画等も含めた懇談を実施している。

■ 事業の成果

- ・地域の方が常時（午前中だけでも）学校にいて、学校職員にとっても、来校される地域の方にとっても、「コーディネーターが学校と地域をつなぐ役目」という見方が定着してきた。
- ・地域のボランティアさんが学校にきてくださり、中学生が地域で活躍する場面をつくることで、地域の大人の「中学生への理解、中学生への期待、中学生への関心、さらには学校への親しみ」が生まれてきた。
- ・地域代表の推進委員会を開催する中で、「地域の課題」「中学校の課題」「地域の強み」などの議論がなされ、表面的な論議ではなく、実行隊としての論議の深まりが見られるようになってきた。

■ 事業実施上の課題

- ・取り組む内容として、様々な意見や考えが交流される中で、しっかりと整理をし、どう優先順位をつけて取り組んでいくかの判断、決断が求められ、あせらずに着実に前進していくことの実践が求められている。
- ・「地域の方による学校支援」も「中学生による地域貢献」もあくまでも『中学生を含めた地域づくり』の手段であり、ボランティアを増やすことが目的ではないので、そのねらいをしっかりとふまえた共通理解と実践を積み上げていくことが求められている。

■ その他

○平成28年度より「学校支援地域本部」と「学校運営協議会」を併せた活動を推進していくための準備を進めている。



■ 地域の力を学校へ 中学生の力を地域へ

■ 湖南省
■ 活動名
甲西北中学校支援本部（従来型）
■ 関係する学校
甲西北中学校

コーディネーター数	2 人
ボランティア登録数	14 人
開始年度	平成26年度

■ 活動の概要

今年度から学校支援地域本部事業の活動を開始した。2つの小学校区からそれぞれ1名ずつ、計2名のコーディネーターが絶えず連携を図りながら様々な活動に取り組んできた。学校と様々なボランティア活動をつなぐ役割を担うコーディネーターとは、定期的に打合せ会議をもち、活動そのものの進捗状況の確認やボランティアの新規開拓に努めるよう心がけた。今年度は学校の意向のもとに進める活動を心がけている。来年度に向けて学校と地域をつなぐパイプ役としての効果的な動きを探っているところでもあり、学校としての方針やねらいをより明確化させながら継続的な取組につなげていきたい。

■ 特徴的な活動内容

○ファイルカバー制作における生徒への支援

1年生の家庭科授業において、ファイルカバーを布地で制作する上で、「まつり縫い」と「刺し子」をボランティアさんに支援していただきながら授業を進めた。具体的な内容としては、長方形の布の製図、刺し子、手縫い、ミシンを使用してファイルカバーを仕上げるための支援活動である。

1回の授業におけるボランティアさんの数は平均4～5名で、1グループに1名の割合でボランティアさんの支援を受けることができ、裁縫を苦手とする生徒にとっても心強い存在となった。10月から12月までのべ30回裁縫ボランティアさんに来校を願い、多いときには9名のボランティアさんが来校してくださる日もあった。継続的に来校していただくことで子どもとの関係も築け、よりスムーズな支援につながった。そのことが最終的には、生徒一人ひとりの興味や関心、意欲向上にもつながっている。

■ 実施に当たっての工夫

家庭科における裁縫授業のボランティア支援では、担当教師とボランティアさんによる事前打合せを可能な限り実施した。具体的な打ち合わせ内容としては、生徒の現状把握と制作工程の確認をした。また、担当教師とボランティアさんの打合せが日程の都合上実施できない場合については、地域コーディネーターを通して行うようにした。このように細かな事前の打合せを可能な限り実施することで、スムーズに授業を進めることができた。また、生徒を個別に支援する際、ボランティアさんが仕上げていくのではなく、生徒の力を引き出し、生徒自身が完成させることができるような支援をボランティアさんをお願いした。

■ 事業の成果

教師の説明だけでは理解が難しく、実技が上手くできない生徒に対して、教師の補助としてボランティアが丁寧に教え、また側で励ましてくれた。そのことにより、ファイルカバーの制作を途中であきらめてしまうことなく、最後までやりきろうとする生徒が一人でも増えたのではないかなと思う。その結果、生徒の達成感や満足感を高める援助につながったと思う。また、担当教師からは、裁縫という機会そのものが少なくなってきた中で、作業そのものが大変スムーズに進んだという感想があった。

1グループに1名の割合でボランティアさんに支援を受けることができたことは、裁縫を苦手とする生徒にとっても心強い存在となっているだけでなく、裁縫そのものに対する苦手意識を少しでも払拭することにつながったように感じる。

■ 事業実施上の課題

この取り組みが始まった当初は、裁縫ボランティアさんを探すのに苦労したが、授業が始まり子どもとの関わり合いや、授業担当者との事前の打合せや確認作業を重ねていく中で、スムーズな支援につなげることができた。

ボランティアさんの中にはご高齢の方も多く、学校までの移動手段に市のバスを使用されている方もおられ、授業時間の変更が生じた際にボランティアさんに伝えることができず迷惑をかけた。

■ その他

初めての家庭科支援の事業で最高齢86歳の方から裁縫授業による支援を受けることができた。また様々な地域から多くのボランティアさんにお手伝いをお願いしたため、ボランティアさん同士のつながりがあまりないままにスタートしたが、回を重ねるにつれて互いに打ち解け交流することにより、ボランティア間に仲間としての輪が広がっていくことが実感できた。



■ 東近江市における学校支援地域本部の取組

■めざすすがた

東近江市では、地域住民及び保護者、関係諸団体などが協力し、地域全体で学校を支援することにより、児童・生徒の健やかな成長を育むことを目的として当事業を推進する。

■本年度の活動

研修会・協議会の開催について

- ・第1回 平成26年5月28日（水）19：30～21：00

学校・家庭・地域における今年度の事業等について説明
各事業に対する質疑応答と情報・意見交換
各事業の交流と子どもたちの現状把握

- ・第2回 平成26年11月18日（火）19：00～21：00

「東近江市学校支援地域本部（東近江市地域教育協議会）

研修会開催」

講演「学校・家庭・地域連携のこれからを考える」

滋賀大学社会連携研究センター長・教授

滋賀県「学校・家庭・地域連携協力事業」推進協議会座長

神部 純一 氏

- ・第3回 平成27年2月～3月に開催

次年度の学校・家庭・地域の連携による教育について

【PTAに配布やコミュニティセンター館内の書棚等に配置による啓発活動】

- ・東近江市学校支援地域本部報告集配布
- ・東近江市学校支援地域本部リーフレット配布

■本年度の成果

- ・第1回協議会での現状と課題をふまえ、滋賀大学社会連携研究センター長・教授 神部純一先生を迎え、地域コーディネーター、各地区地域教育協議会関係者、小中学校の教職員、まちづくり協議会関係者、コミュニティセンター職員、青少年団体関係者等を対象に研修会を開催したこと。
- ・各本部の地域コーディネーターが自身の資質向上を目的に県教育委員会主催の研修に毎回多数参加したこと。また、文部科学省主催の教育フォーラムにも研修のために派遣できたこと。
- ・4月より毎月地域コーディネーター連絡会議を開催し、研修の伝達や報告、各本部の情報交換等実施したこと。
- ・上記のことにより、地域の団体や施設等に学校支援地域本部事業について、より周知することができ、まちづくり協議会やコミュニティセンターとの新たな連携協働の機運が高まった。連絡会議では、情報の交換だけでなく当事業に対する意見が活発に交わされる。また、研修に参加したコーディネーターは積極的に他の市町や府県のコーディネーターとのコミュニケーションを図られ、他地域の具体的な実践についての情報伝達もあり、新しい視野に立った実践も提案された。

■今後の課題

- ・今年度、新規に1学校支援地域本部を設置した。さらに次年度も新規に支援本部設置を進めている。今後、東近江市では市内小学校全てに地域コーディネーター設置をめざす。そのために、当事業を広く啓発し、学校・家庭・地域全体に周知徹底され、その効果が十分に理解される手立てと工夫が重要である。



■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう（蒲生西小学校・蒲生北小学校・朝桜中学校）

■ 東近江市
■ 活動名
蒲生地区学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
蒲生西小学校・蒲生北小学校・朝桜中学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	150人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

- ・ 小学校での読み聞かせと図書ボランティア
- ・ 登校旗の修理や環境整備
- ・ 田んぼの学校
- ・ 日野川での環境学習
- ・ 3年生のまち探検
- ・ 「あかね通学合宿」

■ 特徴的な活動内容

- ・ 「蒲生の子は蒲生で守り育てよう」というキャッチフレーズのもと、児童生徒は地域の一員であることを念頭に学校からの要請を受けて活動している。
- ・ 「あかね通学合宿」については、地区内の6年生を対象に実施している。自治会の公民館等で宿泊し、児童は自治会のみなさんの見守りの中、自立した生活を目指している。地域のなかからゲストティチャーを招き、これまでの体験と知識を伝えて頂く「世界にひとつの授業」を実施し、児童には「ふるさと蒲生」を意識する機会にし、地域の教育力を高めることも大きな目的としている。
- ・ 朝桜中学校へは、「下校見守り」を継続的に実施。生徒の下校時に校門であいさつ運動を展開している。この活動は民生委員、児童委員との協力のうえ民生委員、児童委員を中心に保護者と一緒に活動している。

■ 実施に当たっての工夫

- ・ 支援の内容に適したボランティアをお願いすることを心がけている。
- ・ 「あかね通学合宿」は、児童には学校や家庭では体験出来ないことをこの通学合宿で経験する場とする。また、地域住民と子どもあるいは、学校と地域が繋がる機会となるように、ゲストティチャーをはじめ自治会の中から広くボランティアをお願いしている。
- ・ 地域の一員である児童生徒が、地域のイベントや行事に参加出来る機会がないか常に情報を収集する。

■ 事業の成果

- ・ 「あかね通学合宿」は、参加児童の家庭から合宿参加後、生活に自主性が見られるとの意見が多く聞かれる。地域内で児童とボランティアの繋がりが広がり、地域で当事業が認識されてきた。
- ・ 中学校の下校見守りでは地域のなかで「みんなが見ているよ」というメッセージが生徒に伝わっていると思われる。
- ・ 地域の大きな行事、イベントに児童生徒が参加することは地域の一員である事の意識づけになっている。

■ 事業実施上の課題

- ・ 年間を通じてのボランティアをいただく方は固定化しつつある。また、年齢が高くなってきている。
- ・ 「あかね通学合宿」については、自治会に大きな負担をお願いすることとなり、事業が理解されるまで時間がかかりすぎる。
- ・ 学校内においても、当事業への理解度は様々である。

■ その他

- ・ 参考URL（蒲生西小学校）<http://www2.higashiomi.ed.jp/ganishisho/>
（蒲生北小学校）<http://www2.higashiomi.ed.jp/gakitasho/>
（朝桜中学校）<http://www2.higashiomi.ed.jp/chouchu/>



【 通学合宿 地域の方の案内 】



【 登校旗修理 】

■ 蒲生の子は蒲生で守り育てよう（蒲生東小学校）

■ 東近江市
■ 活動名
蒲生地区学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
蒲生東小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	24 人
開始年度	平成19年度

■ 活動の概要

- ・本校の学校支援地域本部事業の開始は平成19年度からであるが、平成13年度より学校ボランティア会が組織され、地域が学校教育に参画していく土壌が熟成していた。
- ・学校のような学習活動や行事の支援活動は、ボランティアの特技を活かして多岐にわたる。
教育課程においては、
①校外学習での講師や引率
②朝読書での本の読み聞かせおよび図書館整備
③スキー教室指導
④田んぼの学校の指導補助および田んぼの管理
⑤マラソンの試走及び大会での立哨
⑥家庭科実習の補助
⑦福祉教育の支援
- ・地域の取り組みにおいては、
①通学合宿の企画および運営（3泊4日）
②登下校の子ども安全見守り隊の活動を実施している。

■ 特徴的な活動内容

- ・地域学習を中心にあらゆる学習活動の支援ボランティア活動を行っていること。
- ・子どもが地域に出て活動する「通学合宿」を企画・運営してもらっていること。

■ 実施に当たっての工夫

- ・月一回のボランティア会議を開催し、ボランティアが参加しやすい情報を提供している。
- ・ボランティアの特技を活かしてもらえる内容で依頼している。

■ 事業の成果

- ・児童がより体験的・実践的で安全な活動を実施している。
- ・児童の郷土愛を育成している。

■ 事業実施上の課題

- ・学校の教育目標とボランティアが支援したい内容のすりあわせ。
- ・新しいボランティアの募集。

■ その他

- ・年二回の学校職員との懇親会を企画し親睦をはかっている。
- ・参考URL（蒲生東小学校）<http://www2.higashiomi.ed.jp/gahigashisho/>



【 通学合宿にて「夢工作」】



【 田んぼの学校にて「昔の除草作業体験」 】

■ ふるさとのひと・自然・文化のよさを学ぶ

■ 東近江市
■ 活動名
湖東第一小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
湖東第一小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	95 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

本校の「三方よしの子ども像」の一つに「ふるさとに学ぶ子ども」がある。その具現化に向けて、学校支援ボランティアの方と協力しながら、実践を進めてきた。

本年度は、昨年度の実践をもとに、地域の「人・自然・文化」に学ぶ学習を継承・発展させてきた。保護者・地域ボランティア方の繋がりが町づくり協議会の方などから情報を得、多くの方の協力を得て子どもたちの学習を進めていくことができた。

■ 特徴的な活動内容

児童の登下校の見守りは日常的に、読み聞かせ活動は定期的に行っていた。周囲が田んぼや畑に囲まれていることもあり、「たんぼのこ」での田植えや稲刈り、今年は学校の畑で3年生が大豆の栽培、収穫に取組んだので、その支援もしていただいた。

また、地域探検もいつもと違う地域にもでかけ、地域の歴史や史跡などの話を聞くことができ、「ふるさとに学ぶ」を実践することができた。6年生の総合的な学習の時間にも、60年に一度行われる「ドケ祭り」の保存会の方に来ていただき、祭りのいわれや伝承されてきた踊りなどを教えていただいた。

■ 実施に当たっての工夫

地域の方々が自分から積極的に出てこられることは少ないが、情報を得てお願いに行くと快く引き受けてくださる。「おらが学校」という意識は強く、様々な児童に対しても粘り強く丁寧に支援をしてくださる。今年は、昨年度からの実績もあり、子どもたちに出会うのを楽しみにしていただいている地域の方も増えてきた。

実施に当たっては、担当教諭との学習内容の打ち合わせをしっかりと行い、そのことをもとに下調べやお願い、打ち合わせなどを行うようにした。学習したい内容をしっかりと伝えておくことや質問内容なども事前に伝えておくように心掛けた。それでも、予想外の質問が出たりしたが、「このことを学びたい」というねらいがはっきりしていたため、うまく対応していただいたことが多かった。

■ 事業の成果

学 年	内 容
全 校	読書ボランティア・登下校ボランティア・除草作業ボランティア・絵本の広場（3学期）
1 年 生	昔遊び（3学期）
2 年 生	郵便局の見学（3学期）
3 年 生	地域探検（ハナノキの見学・豆腐屋・半鐘場・工務店・神社） 福祉体験（アイマスク体験）・視覚障害のある方のお話 たんぼのこ・大豆、小豆の植え付け、収穫
4 年 生	福祉体験（車いす体験：3学期）・たんぼのこ・地区消防団、派出所の仕事
5 年 生	家庭科（裁縫実習支援）、たんぼのこ、米感謝祭・スキー教室ボランティア
6 年 生	ドケ祭りについて、地層学習、戦争体験について・スキー教室ボランティア（3学期）
委員会活動	菊水園・ほっこりさん（福祉施設）訪問

活動が少しずつ定着してきたので、一度来ていただいた方や見学に行かせていただいた事業所の方からは、「協力するので、いつでも声をかけてね。」と言ってくることが多い。子どもたちも、地域の知った方に話を聞いたり、体験をさせていただいたりすることで、学習がより深まっているように感じる。

■ 事業実施上の課題

どの学習にどのような人材が必要か、どこに行けばよいのかなど、教員とも情報を共有していくことが大切であると感じている。

また、学習内容とも関わって、今年度実践してきたことをもとに来年度さらに発展していけるよう各担任教諭とも十分に打ち合わせを行ったうえで進めていきたい。



【 ドケ祭りの踊りを学ぶ 】



【 半鐘について説明を聞く 】

■ その他

・参考URL（湖東第一小学校）<http://www2.higashiomi.ed.jp/kot1sho/>

■ 育てよう湖二っ子！（学校、家庭、地域が一体となって）

■ 東近江市
■ 活動名
湖東第二小学校支援本部（従来型）
■ 関係する学校
湖東第二小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	25 人
開始年度	平成23年度

■ 活動の概要

- ①学習支援ボランティア：読み聞かせ・家庭科指導補助・水泳指導・ピアノ伴奏・スキー指導補助など
- ②ゲストティーチャー：農業見学（菊栽培・トマト、きゅうり栽培）・働く人調べ（料理店さん・大工さん）・地域見学（お寺・石材店・史跡など）
- ③その他：バスケットボールチーム依頼・掃除に学友会依頼など

■ 特徴的な活動内容

①読み聞かせボランティア（ポンぽんの会）

年間を通して数回、朝学習の時間に絵本の読み聞かせに来ていただいている。自分の子どもが卒業してからも継続して来ていただいている方も多く、子どもたちはたいへん楽しみにしている。

②家庭科ボランティア

玉留めやなみ縫いなどの裁縫の基本からミシンなどの指導補助をお願いしている。数名の保護者が無理なく都合のつく日に来ていただいている。

教師一人では手が回らなくて困っている児童への支援やミシンのトラブル、安全面などの支援をしていただき、たいへん教育効果が上がっている。

③水泳指導ボランティア

保護者に水泳の堪能な方がおられ、高学年の水泳指導に数回来ていただいた。泳ぎの手本など技能面やメンタル面の指導をしていただいた。

④農業見学

3年生社会科の学習で、農家の方（子どもの祖父母）をゲストティーチャーとしてお願いしている。現地へ出かけていき、栽培の仕方や工夫、苦労などのお話や質問に答えていただいている。「少しでもお役に立てば」と喜んでくださっている。また、子どもたちもたいへん親しみを感じている。

⑤働く人調べ

3年生総合的な学習で、子どもたちの要望をもとにゲストティーチャーを探す。仕事場に出かけていき、仕事の内容ややりがいなどのお話を聞いたり、実際に見学したりすることを通してゲストティーチャーの仕事に対する熱い思いが子どもたちに伝わり、たいへんよかった。また、ゲストティーチャーの方も、「よい機会を持ていただいた」と喜んでいただけた。



【 ミシンの学習 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・学校支援の年間見通しと支援実績記録の活用
- ・保護者からの人材情報及び地域コーディネーター交流会での情報活用

■ 事業の成果

①学習支援ボランティア

- ・保護者、地域の学校理解が深まり、開かれた学校づくりにつながっている。
- ・困り感のある子どもを支援していただき、子どもの学習意欲の高まりにつながっている。
- ・子どもたちの様子が分かり、つながりが持てることを喜んでくださっている。

②ゲストティーチャー

- ・専門的知識や技能で教育効果が高められた。
- ・地域で学ぶ、地域を学ぶ「ふるさと学習」が推進され、地域との結びつきが強くなり、子どもたちに郷土愛が培われている。
- ・地域の方からは「子どもたちに分かる説明が難しい」という声も聞かすが、自分の知識や経験を活かせる機会として、やりがいを持ていただいている。

■ 事業実施上の課題

- ・地域の方にも学校支援ボランティアをお願いしているが、人材情報が乏しい。
- ・環境ボランティア（花壇の定植・グラウンドの除草作業・松の剪定など）を求めているが難しい。
- ・急なボランティア要請に対応できない。

■ その他

- ・参考URL（湖東第二小学校）<http://www2.higashiomori.ed.jp/kot2sho/>



【 社会見学学習 】

■ 「保護者ボランティア」から「地域ボランティア」への質的転換の年

■ 東近江市
■ 活動名
湖東第三小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
湖東第三小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	18 人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

本校は、地域教材や地域の人材を生かし、学習内容や行事の充実を図っている。本年度は、本事業も二年目に入り、家庭や地域との連携を深め、より効果的な取り組みとなるように努めてきた。

■ 特徴的な活動内容

- ①本校では豊かな心や表現力、確かな学力をはぐくむ一環として、読書活動の推進に努めている。朝読書の他、「ふれあいタイム」に読書ボランティアが定期的に活動している。特に本年度から「読み語りボランティア『あめんぼ』」として、メンバーが定期的に図書室に集まり、パネルシアターや紙芝居の制作、次の発表の稽古・打合せを実施するなど、倶楽部として大変な熱心な取り組み状況である。
- ②3年生まち探検において、地域の伝統産業である梵鐘工場を訪問。工場見学から体験的要素を取り入れた学習ができた。
- ③3・4年生の「総合的な学習」（福祉学習）では、アイマスク体験や盲導犬の実物にふれる学習、手話サークルの方々との交流の機会が持てる学習が出来た。その成果は『わくわく祭り』において、ポスターセッションとなって発表もできた。
- ④6年生の滋賀県立平和祈念館での平和学習においては、地域の郷土史家の方の体験談とパワーポイントを駆使しての説明で、より学習が深まった。
- ⑤PTA等の行事時における託児ボランティアを募集した結果、各種行事に保護者が安心して参加できるようになった。新たなボランティアが生まれる兆しが出てきた。
- ⑥昨年より、「地域を知る」というねらいの職員フィールド学習（「池庄町を知ろう」）を実施している。そのことで、地域学習の視点も「湖東地区・豊稂地区の歴史と文化」に焦点を当てて組み立てる方向性が生まれてきた。



【ボランティア『あめんぼ』による
ふれあいタイムでのハロウィン読み語り】

■ 実施に当たっての工夫

- ①地域の教材や人材を発掘し、学習内容の充実に努めた。
- ②従来からの地域学習や、総合的な学習の実施において、コーディネーターが関わる中で、『湖東地区まちづくり協議会』や『湖東地区福祉協議会』など関係機関との連携をより密にして学習内容の質的向上を図ろうとした。
- ③コーディネーター自らが「昔遊びボランティア」や「まち探検」の引率、ゲストティーチャーとなることで、担任や児童とのつながりを深めた。



【3年生 まち探検『金寿堂』での釣鐘撞き】

■ 事業の成果

昨年度から始まった本事業によって、地域学習やボランティアの活動の幅が広がってきた。多くはボランティアが加わることで取り組みが充実し、創造的な取り組みへと質的变化を遂げつつある。また、地域の子どもを家庭や地域が協力して育てていこうとする気運も徐々に高まってきている。

■ 事業実施上の課題

- ①地域に出て、地域ボランティアを活かしての学習は、幅も広まり内容も深まる有意義なものであるが、どうしても時間が必要となる。限られた時間内で、効果的な学習となるような検討がさらに必要である。
- ②学校便りや地域の広報で、ボランティアを募集しているがさらに登録人数を増やすことが必要である。

■ その他

- ・本年度、ホームページがリニューアルされて学校の様子を効果的かつ効率的に保護者などに知らせることができるようになった。

参考URL（湖東第三小学校）<http://www2.higashiomi.ed.jp/kot3sho/>

■ 地域とともに歩む学校

■ 東近江市
■ 活動名
箕作小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
箕作小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	130 人
開 始 年 度	平成22年度

■ 活動の概要

箕作小学校支援地域本部は、地域の歴史、自然、文化を生かした教育環境の構築とその充実に努めてきた。小学校区全域で「清水小脇街づくり協議会」「太郎坊応援団」「中野地区まちづくり協議会」が組織され支援活動が成されている。今年度は、“箕作山環境調査隊”はじめ各学年の様々な教育活動やグラウンドの芝生化に対して箕作小学校応援隊として力強い支援の輪の広がりが見られている。

■ 特徴的な活動内容

- ・テーマ「地域とともに歩む学校」の実践には、教職員とともに“地域に学ぶことが大切”であると考え、全教職員が箕作山に登り、地域の自然に触れ地域の人たちとともに町の歴史、現状、箕作山の保全などについて研修する機会を持った。
- ・全校マラソン大会で保護者とともに地域の人たちが子どもたちの健やかな成長を願い声援を送った。
- ・6年生児童が八日市の伝統文化の大風を東近江大風保存会の協力を得て作成した。大風に判じもんで、子どもたちが選んだ文字を入れ、保存会の支援のもと2畳敷大風をグラウンドで大空高く揚げる事ができた。
- ・6年生児童が地元工芸の布引焼きを地元陶芸家の方たちに指導してもらい、茶碗作りを体験した。卒業を前に保護者を招き、自分で作った茶碗を使って「感謝の会お茶会」を開催する計画である。
- ・“グラウンドの芝生化”が全児童、箕作小学校の応援団、環境ボランティア、PTA、市教委によって実施された。
- ・環境調査隊（5年生）が箕作山に登り、清水小脇街づくりのメンバーから山の歴史、自然の様子、生息する動植物、山の保全について学んだ。
- ・ボランティアによる読み語りを全学年対象に実施した。今年度は保護者の有志とともに地域に伝わる民話をもとに紙芝居を手作りによって製作した。全学年児童が従来からの名作の本とともに地域に伝わる昔話に親しむことができた。
- ・1年生は昔からの遊び（けん玉、羽根つき、竹とんぼ、カラム、お手玉）を箕作小応援隊の方と一緒に遊び体験をする計画である。
- ・3年生は箕作応援団に七輪を使って火のおこし方を教えてもらったり、餅を焼いたりする計画である。

■ 実施に当たっての工夫

- ・各学年の学習のねらいや学習の取り組みのテーマ“見て 聞いて やってみる”をモットーにした学習活動の理解のもと支援活動が適切になされるよう地域と適時連携をとっている。
- ・支援内容に適したボランティアが依頼できるように各所、各団体、個々の方にも幅広く連携を図るように努めている。
- ・これまでの取り組みを継続し、学校、地域、ボランティア三者がともに安心感、親しみ感、信頼感が持てるようにできる限りお互いの思い、考えが伝わるように日ごろから連携に努めた。

■ 事業の成果

- ・活動団体が組織されてきたことにより活動内容が整理された形で支援ができるようになった。
- ・広範囲な学区であり、広くボランティアの人材を募ることに難しさもあるが、中野・八日市両コミュニティセンター、八日市ボランティア協会などと細やかに連携を図ることにより、適材適所のボランティアを依頼することができるようになった。
- ・箕作山探検隊、米作り等の体験の積み重ねの継続は、児童、ボランティアともに成就感、親しみ感が持て打ち合わせや実践においても効率的に実施できていた。
- ・地元農家の野菜栽培の見学を通して、安心安全な食物栽培を知り、農家の人々に感謝の思いを育んだ。子どもたちの質問や礼状に心温まり、栽培意欲が湧いてくるという感想もいただいた。
- ・自分たちの住むまちを見て歩き町の人々に多くのことを教えてもらい学習に対する関心意欲が高まった。子どもたちの地域の一員としての自覚につながった。

■ 事業実施上の課題

- ・「地域とともに歩む」学校として地域の絆が深まり、子どもたち、地域、学校にとって充実したものにするには、打ち合わせ、相談、必要により計画立案に参画、実践の際の支援、反省、評価、問題提起、解決方法の追求など循環していくことが課題である。
- ・学校と地域の思いやねらいが通じ合い、さらに充実した継続と支援の輪の広がりがみられるようにコーディネーターの役割を果たしていくことが必要である

■ その他

- ・参考URL（箕作小学校）<http://www2.higashiomi.ed.jp/mitsusho/>



【 みんなで植えた芝生、
緑いっぱいグラウンド 】



【 箕作山から見たわたしたちのまち 】

■ ～花と図書で地域とつながろう～

■ 東近江市
■ 活動名
市原小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
市原小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	30人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

- ①「いつも身近に本を置こうプロジェクト」
- ②「花いっぱいの地域にしようプロジェクト」

■ 特徴的な活動内容

- ①ミニ図書館設置（地域の公民館・集会所等に設置）
- ②子どもたちとボランティアの皆さんで育てた花の苗を地域に配布

■ 実施に当たっての工夫

- ①ぬくもり（手づくり感等）を大事にする。
- ②児童と地域の方々とのつながりを大切にする。

■ 事業の成果

- ①保護者や地域の方々の来校者数が倍増した。
- ②絆が深まる：「街で出会ったときに子どもから『おっちゃん、こんにちは』と挨拶してくれ、うれしかった。」

■ 事業実施上の課題

- ①学校や保護者、地域の方々、それぞれが互いに理解すること。（さらに情報の共有化を進める。）
- ②もっと保護者や地域の方々に本事業の活動を知ってもらうこと。（ホームページや広報誌等うまく組み合わせて周知の徹底をさらに図っていく。）

■ その他

○学習支援ボランティアによって実施された内容等

- ・ 5、6年家庭科の学習支援（ミシン）
- ・ 5年田んぼの学校（しめ縄づくり、稲刈り体験、餅つき等）
- ・ 全校マラソン大会の安全等見守りのための立ち番
- ・ 読み語り活動（毎週木曜日の朝に実施）
- ・ 4年消防団の活動（社会科） など

■ その他

- ・ 参考URL（市原小学校）<http://www2.higashiomi.ed.jp/ichisho/>



【 ボランティアの方による苗づくり 】



【 ミニ図書館を利用する児童 】

■ 地域とのつながりを大切にしながら、地域の方々に感謝して…

■ 東近江市
■ 活動名
五個荘小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
五個荘小学校

コーディネーター数	1人
ボランティア登録数	40人
開始年度	平成25年度

■ 活動の概要

社会の急激な変化とともに、子どもたちを取り巻く環境が複雑多様化し、先行き不透明な今日、学校教育への大きな期待が寄せられている。しかし、学校だけで子どもを育てていくのには限界があり、教育の基盤である家庭や地域での教育と連携をはかっていく必要がある。

このような状況の中で、今まで以上に学校と家庭、地域が手を取り、子どものよりよい成長を願い、「地域の子どもたちは、地域で育てる」という視点に立って連携を深めていく必要がある。

こうしたことから、本地域本部ではコーディネーターを窓口として、学校や各学年で必要な支援要請をコーディネーターに依頼し、コーディネーターの地域の人脈を足がかりとして、学校に協力していただける方を探していただき、協力をお願いしている。

■ 特徴的な活動内容

- ・茶道、生け花、太鼓などクラブ活動における学習アシスタント型の支援
- ・家庭科でのミシンを使った学習での学習アシスタント型の支援
- ・学校まわりの植木剪定作業など施設メンテナー型の支援
- ・本の読み聞かせを行う学習アシスタント型の支援
- ・校外学習の引率補助を行う学習アシスタント型の支援
- ・総合的な学習の時間「ふるさと学習」での地域の歴史について専門知識を講義するゲストティーチャー型の支援
- ・スキー教室における学習アシスタント型の支援



【 6年生 家庭科ミシン学習 】

■ 実施に当たっての工夫

- ・多くの方々が、地域の学校を支えてくださっていることを伝えるため「学校だより」やホームページでボランティア活動の紹介を行い、また来校者にむけて昇降口玄関に写真を掲示し、ボランティア協力の紹介を行っている。
- ・協力いただいた方々に、地域本部事業会計より学校目標を印刷したプリントをクリアファイルにはさみ配布することで、次の活動の協力につながるようにしている。



【 2年生 校外学習 】

■ 事業の成果

- ・コーディネーターの積極的な働きかけにより、昨年度に比べてより充実した事業となってきた。
- ・専門的な知識と技能をもった方に直接、そして具体的に教えていただけるので、子どもたちにとって満足のいく活動となった。
- ・子ども一人ひとりに寄り添いながら、細やかな支援ができるようになった。
- ・子どもが地域の方々と顔見知りになることができ、地域の方々と親密になることができた。
- ・地域の方が、学校の様子を知ることができるよい機会となり、学校理解につながった。

■ 事業実施上の課題

- ・地域には、まだまだ「地域の学校のために、何か自分に役立てることはないか。」と感じている方は、たくさんおられるように感じる。こうした学校をサポートして下さる方々を、今後も発掘して支援や協力を求めていきたい。

■ その他

- ・参考URL（五個荘小学校）<http://www2.higashiomi.ed.jp/gokasho/>

■ 地域につくられた学校・子ども応援団

■ 東近江市
■ 活動名
玉緒小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
玉緒小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	38 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

この事業は、子どもと地域の方々、学校と地域のつながりを深める「地域につくられた学校・子どもの応援団」と言える。玉緒小学校ではこれまでも下校の見守りや朝読書で読み語りの支援を進めてきたが、一昨年度から社会科の地域学習や総合的な学習の時間、家庭科の実技指導補助など教科等の学習支援を行っている。

今年度も、学習効果が上がることをめざし地域のボランティアが子どもの学習活動に積極的に関わり応援団の役割を果たした。

■ 特徴的な活動内容

当事業3年目となり、学習活動の支援に対して見通しを持つことができ先生方の要望を早めに知ることができる、計画が立てやすい等今までの積み重ねの効果が現れる。また、地域ボランティアの方々の数が増え多くの方々に多様に学習活動に関わっていただくことができた。

■ 実施に当たっての工夫

・1年生活科「あそびのひろば」

昨年度と同じボランティアの方々とあり、事前の打ち合わせは短時間で済み、実際の支援も見通しがありスムーズに活動できた。



【1年生活科「あそびのひろば」】

・3年社会科「校区探検」

校区内の自動車整備工場やきゅうりハウス、牛舎などを昨年に引き続き見学させていただいた。説明や子どもの質問の応答など、慣れてきていただきわかりやすく参考になった。

・4年社会科「蛇砂川の歴史や役割」

校区に流れている蛇砂川について、氾濫を防ぐ改修工事やホテルの観察や保護に関わってこられた方々に直接お話を聞いた。ふるさとの川の歴史や環境について地域の方々に学ぶことで身近に感じることができた。

・4年総合的な学習「玉緒の宝！里山探検隊」

地域のまちづくり協議会が立ち上げられた「大森の里山」で自分のテーマを決めて課題解決をする自然体験学習を進めるにあたり、たくさんのボランティアの方々にお世話になった。協議会の立ち上げの苦労やその願いの話を聞いて学ぶこと、実際にのこぎりで木を切って遊び道具や基地を作ることなど、学校の中ではできない貴重な体験学習ができた。



【1年生活科「あそびのひろば」】

ボランティアの方々は、子どもと何度も交流するうちに親しくなり会話を重ね、喜びをもって対応してくださるのがわかった。

特に今年度は、地域の方々の協力のおかげで事前や途中で相談を重ね、内容をさらに充実させたことで、今後の本校4年総合的な学習の時間の中心となるのではないかと考える。

・5・6年家庭科「ミシンを使って」

家庭科は、子どもたちが実際にミシンを使う学習がある。この学習において、ミシンの点検や指導補助のボランティアに延べ12名の方々にお世話になった。これにより個々の児童にきめ細かな助言ができた。

■ 事業の成果

どの学年も数年にわたり同じ地域の方々にお世話になっている学習が増えている。これにより、関わっている方々の見通しが効き子どもと接することに慣れ、新たなアイデアや安全対応などさらなる充実が見られた。

■ 事業実施上の課題

地域の方々に、これらの事業を伝えるため広報活動を進める必要がある。これにより、地域の方々のおかげで地域に学ぶ子どもの姿やその良さを伝えたい。

■ その他

・参考URL（玉緒小学校）<http://www2.higashiomori.ed.jp/tamasho/>

■ みなみっこ地域応援団

■ 東近江市
■ 活動名
八日市南小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
八日市南小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	30人
開 始 年 度	平成24年度

■ 活動の概要

本校では平成24年度より本事業をスタートさせ、学校・家庭・地域の連携協力のもと、子どもたちの学習、活動の補助に多くのボランティアに協力いただき事業を進めている。

学習活動を効率よく進めるために、5年生、6年生の家庭科調理実習やミシン補助、滋賀学園の生徒による市陸の指導などにおいて教師の指導の補助をしていただいたり、5年生田植えや稲刈りの補助、なかよし学級のさつまいも植え、3年生の校外学習引率補助、1年生の秋みつけ引率補助、2年生のポップコーン作りやスイートポテト作り、干し柿作りの補助など、安全できめ細かな学習環境を整える支援をしていただいたりしている。

また、学期ごとの図書室の壁面かざり、はちまき補修、音楽会看板作りなどの施設や設備の維持管理の支援も行っていたりしている。その他、4年生の地域の歴史、3年生の昔のくらし、1年生の昔あそびなどで、ゲストティーチャーとして来校いただき、理解を深めるために直接指導もしていた。南部コミュニティセンターの畑で3年生のじゃがいも掘り、アフタースクールのさつまいも掘りなど地域と連携した取り組みも進めている。

■ 特徴的な活動内容

- ・学期ごとの図書室の壁面かざり
- ・5年生田植え、稲刈りの補助
- ・5年生、6年生の家庭科調理実習、ミシン補助
- ・南部コミセンの畑で3年生のじゃがいも掘り
- ・なかよしさつまいも植え
- ・はちまき補修
- ・3年生校外学習引率補助
- ・6年生滋賀学園の生徒による陸上運動指導
- ・音楽会看板作り
- ・アフタースクールのさつまいも掘り
- ・1年生秋みつけ引率補助
- ・2年生ポップコーン作り補助、スイートポテト作り補助、干し柿作り補助
- ・1年生昔あそび、3年生昔のくらし、4年生地域の歴史

■ 実施に当たっての工夫

南部地区まちづくり協議会、南部コミュニティセンターの方にご協力をお願いし、チラシを掲示していただき、地域の方に広く知ってもらうようにした。

ボランティア募集のお知らせも毎回掲示をお願いし、地域の窓口になってもらえるようにした。

まずは活動する学年の保護者ボランティアを募り、そのあと登録ボランティア、地域ボランティアを募集するようにした。学期ごとにボランティアだよりの発行を行った。

■ 事業の成果

滋賀学園の陸上部指導による市陸上記録会の練習では、回を重ねるごとに高校生もどうすれば伝わるかを考えて指導するようになった。調理実習、ミシン授業の補助のようにたくさんの方の協力が必要な授業にも大勢の方に参加いただくことができた。なによりボランティアの方に「楽しかった」「お手伝いできることがあったら言ってね」と言っただけ、子ども達からは「次の時間もきてくれるの?」と言ってもらえたことが大きな成果である。

■ 事業実施上の課題

ボランティアの方の不安の解消、スムーズな取り組みができるように、支援に入っていただく授業の前に先生と打ち合わせをできるようにしていきたい。年に1度は学校と地域、保護者ボランティアの交流会などをして、少しでも学校に興味を持ってもらい、地域の方にボランティアへの理解を深めていただくよう努める。

地域に眠っておられるボランティアの発掘をし、生涯学習の場として楽しみながら学校に来ていただけるようになればと考えている。

■ その他

・冬休みから地域で学習支援を始め、将来的には「放課後こども支援」のように、こどもの学習支援、居場所作りを進めたいと考えている。それには、ますます地域とのつながりを強くし、支援の輪を広げていかなければならない。

・参考URL（八日市南小学校）URL <http://www2.higashiomi.ed.jp/yminamisho/>



【 6年生 市陸上記録会の練習 】



【 2年生 干し柿づくり 】

■ みんなで支える学校 みんなで育てる子ども

■ 東近江市
■ 活動名
船岡中学校区学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
八日市西小学校・船岡中学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	231 人
開始年度	平成24年度

■ 活動の概要

① 地域の子どもは地域で守る

- 「子ども見守り隊」による児童生徒の安全確保と事件・事故の未然防止

② 教育活動への支援

○学校行事

- ・ふるさと文化祭でのゲストティーチャーやボランティア（昔のおやつ・おもちゃ作り、餅つき・よもぎ餅作り、縄ない体験、戦争体験談など）
- ・校内マラソン大会での交通立ち番や応援垂れ幕の作成
- ・スキー教室での技術指導や活動支援

○日常的教育活動

- ・1、2年生生活科校外学習での見学地までの引率（安全指導）や活動支援
- ・学級の子ども達への読み語り
- ・5年総合的な学習の時間（たんぼの学校）での田植えや稲刈り体験の作業指導や活動支援
- ・5年家庭科実習での裁縫、ミシンの実習支援
- ・6年社会科や総合的な学習の時間での身近な地域の歴史を学ぶ
- ・部活動の技術指導や活動支援

③ 教育環境への支援

○校庭の樹木剪定

④ 教職員研修（校区現地研修講師）

○校区の歴史遺産等の紹介や解説

■ 特徴的な活動内容

○「子ども見守り隊」の活動

- ・下校時の子ども達の安全確保のために、11地区で「子ども見守り隊」を結成して、子ども達に付き添っていただいたり、交通量の多い危険な交差点などに立っていただいたりしている。
- ・登下校時の中学生にヘルメット着用や挨拶の声かけの活動の場になっている。
- ・「子ども見守り隊」の方を招待して交流・感謝の集いを開き、感謝の気持ちを表すとともに地区の取組事例報告や情報交換等を行った。

■ 実施に当たっての工夫

- ・学校だより等で取組を地域に発信する。
- ・地域の各種団体との連携を深める。
- ・人材データをファイリングする。

■ 事業の成果

- ・専門的な知識や技能を修得された方の支援により、学習内容や活動がより豊になり、質が高く、わかりやすいものになった。
- ・教員以外にも多くの支援者がいることで、人員的にもゆとりが生まれ、一人ひとりの子どもとより関わる事ができた。
- ・地域や保護者の方々が積極的に教育活動に関わる事により、地域に根ざした開かれた学校づくりに繋げることができた。
- ・子ども達は地域の方々と交わることを楽しみにしており、保護者の方にも好評であった。

■ 事業実施上の課題

- ・子ども達の学習や生活の充実（現場のニーズ）のため、地域の方々の多方面にわたる知恵や技術、地域の教育力等を有効に活用できるよう、教職員と地域コーディネーターとが連携を密にとり、効果的な支援を図りたい。
- ・教職員はもとより、ボランティアの方々の交流により、船岡校区の子どもを育てる小中連携を深めていく手立てを探り工夫したい。

■ その他

- ・参考URL（八日市西小学校）<http://www2.higashiomori.ed.jp/ynishisho/>
（船岡中学校）<http://www2.higashiomori.ed.jp/funachu/>



【 田んぼの学校 】



【 子ども見守り隊感謝のつどい 】

■ 地域の教育力を継続・発展させる学校

■ 東近江市
■ 活動名
愛東北小学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
愛東北小学校

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	32 人
開始年度	平成26年度

■ 活動の概要

本校区は豊かな自然に囲まれ、地域の特色を生かした教育活動が伝統的に行われている。そのため、学校支援地域本部は今年度立ち上がったが、以前から学校と地域との結びつきは強く、学校の教育活動に効果的な連携が図られてきた校区である。また、地域コーディネーターには校区を周知し、物的・人的にも幅広いつながりをもつ方に協力をお願いした。今後はコーディネーターを中心に、これまでの支援体制等の在り方を工夫・改善し、学校・家庭・地域が一体となって地域の子どもたちを育て、見守る体制を整えていきたいと考える。また、今後「地域創生」が加速する中、学校が地域の活性化の核になるよう本部事業を充実させたい。

■ 特徴的な活動内容

① 梨の栽培

果物栽培の盛んな愛東地区で、5年生は近くの梨園のご支援を得て、梨栽培に取り組んでいる。受粉や摘果の方法を教えていただき、梨づくりの工夫や苦労を体験している。収穫体験には地元の愛東北・南両幼稚園児を招待し、立派に実った梨は毎年運動会で販売している。

② ケナフで卒業証書作り

環境学習の一環として始まったケナフを使った卒業証書作りは今年17年目を迎える。毎年地域の方の支援の下、すでに伝統行事となった感があり、6年生の期待の取組である。ケナフの栽培から、刈り取り、粉碎、紙すきとその時々で支援者の方から色々なことを学びながら、世界で一枚の卒業証書を作成する。

③ もち米づくり

本校では2年生が行っている。2年生には荷が重い分、多くの方々の支援をいただく。田植え・刈り入れ・脱穀と普段出来ないことを経験し、お世話になった方には収穫したもち米でおはぎを作り、感謝の気持ちを伝えている。

④ 子ども自転車大会への参加

交通安全への重点的な取組は本校の特色の一つである。このうち「交通安全子ども自転車大会」へは平成25年度から参加し、大会に向けて練習を重ね東近江地区の大会で優勝し、県大会でも好成績を収めることができた。子どもたちの努力はもちろんであるが、支援者の方々の熱心な指導があった。

⑤ 職員も地域を知ろう

「子どもたちにも増して、私たち職員も地域のことを知ろう」職員のこんな思いでフィールドワークとして、学区内にある寺院や福祉施設を見学した。今後も地域の方々に地域を教えていただこうと考えている。

■ 実施に当たっての工夫

① 地域の広報誌や文献などを活用し、地域の歴史や史跡などを詳しく調べた。

② 地域の関係機関「愛東コミュニティーセンター」「愛東地区まちづくり協議会」「愛東地区社会福祉協議会」などと連携を図り、内容の充実にも努めた。

③ コーディネーター自らが、教室へ出向き「地元のまつりの様子」等を子どもたちに話したり、職員のフィールドワークではガイド役として、地域の特色を職員に伝えたりすることができた。

■ 事業の成果

① 今年度からスタートしたが、地域コーディネーターの方が地域についての理解と関係機関とのつながりが強く、支援者の方を比較的にスムーズに探すことができた。

② 愛東地区には各分野に精通されている「多彩なゲストティーチャー」がおられ、子どもたちは生の声を聞くことできる。

③ 活動（6年：ケナフで卒業証書作り）によっては、支援者と子どもたちだけでなく保護者の方もつながることができた。

■ 事業実施上の課題

① 1年目であるので地域コーディネーターは学校の様子を知るために、主な教育活動の理解やPTA役員会、等にも出席し、保護者や関係者には学校支援地域本部事業についての理解と周知をしている段階である。

② 多くの特徴的で伝統的な活動を支援者の理解を得ながら、授業時間数との関連で精選していく必要がある。

■ その他

・参考URL（愛東北小学校）<http://www2.higashiomi.ed.jp/aikitasho/>



【 梨の栽培 】



【 子ども自転車大会 】

■ 米原市における学校支援地域本部の取組

■ めざす姿

これまで築いてきたボランティアとの関係を大切に、各学校区で子どもたちの読書支援を含め、さまざまな形で地域ぐるみで学校を支援していける体制の確立とボランティアの確保・育成をめざす。

■ 本年度の活動

- ①運営委員会 5 回：年間計画、成果報告会の持ち方検討、「米原市子ども読書活動推進計画（第 2 次計画）」の検討、成果報告会開催、事業検証、次年度取組検討
- ②研修会等：おはなしの講習会 2 回、ボランティア交流会 3 回開催
- ③「地域連携による学校図書館活性化ワークショップ事業」に取り組み、学校図書館を大改造

■ 本年度の成果

事業 7 年目を迎え、市内の全小学校でボランティア（登録数 117 人）が子どもたちの読書活動を支援してくださっている。そのボランティアの力に支えられているところが大きく、ボランティアの交流・研修の場を設け、情報交換や活動を広く P R することができた。

①ボランティアの円滑な引継ぎと活動

巡回文庫（各小学校の全クラスに毎月、本とおはなしを届ける活動）は、保護者がしてくださることが多く、子どもが卒業されると同時にボランティアも卒業されることが多かったが、新 1 年生の保護者が巡回文庫ボランティアに入られると、前年度までのボランティアが初回と 2 回目の運搬に付き添われるなど、きめ細やかな引継ぎがなされた。また、子どもが卒業されても今度は学校図書館の壁面制作や本の修理、環境整備のボランティアとして残り、新メンバーに指導してくださる姿が見られた。



②学校図書館の大改造

「地域連携による学校図書館活性化ワークショップ事業」を活用し、学校、児童、保護者、地域が一体となって学校図書館を大改造し、読書センター、情報センター、学習センターとして機能する学校図書館を整備し、事業検証を行った（地域ぐるみで学校図書館の整備）。



③ボランティア活動の広がりと P R

成果報告会において、学校を支援してくださるボランティアの活動を広く紹介し、ボランティアへの参加を呼びかけた。また、ボランティア同士の交流が深まり、ボランティアグループ同士で読み聞かせの勉強会や情報交換が行われたり、ボランティアの企画事業に他のグループが賛同し協力するなど、横のつながりも広がってきている。

■ 今後の課題

- ①ボランティアの継続や引継ぎ、新しくメンバーを確保し育成していくことは、各学校の地域性や少子化の現状の中では、なかなか難しい課題である。
- ②今後は、読書に特化した学校支援ではなく、各小中学校区でいろいろな面において地域ぐるみで学校を支援していく体制を整えていく必要がある（読書活動支援はその一部として継続する。）。

■ その他

- ・学校図書館大改造の様子は、行政放送（伊吹山 T V 9/5 号）で放映、広報まいばら（9/15 号）に掲載。
- ・平成 26 年度成果報告会「本との出会いは宝物」は、12 月 13 日（土）近江公民館にて開催。

■ 全市的な取組による読書支援 “みんなで本を読もう”

■ 米原市		
■ 活動名	コーディネーター数	1 人
米原市読書活動学校支援（従来型）	ボランティア登録数	117 人
■ 関係する学校	開始年度	平成20年度
米原市内の全小学校（伊吹、春照、柏原、大原、山東、息長、河南、坂田、米原）		

■ 活動の概要

米原市では、平成20年度から読書に特化した学校支援地域本部事業の取組を始め、昨年度からは、「読書活動推進事業」として、学校・家庭・地域が連携・協力しながら全市的に子どもたちの読書活動を支援しており、昨年度からすべての学校でボランティアによる読書支援が行われている。今年度の主な取組は、①巡回文庫の継続実施、②おはなしの講習会の開催、③ボランティア交流会の開催、④学校図書館の大改造、⑤「米原市子ども読書活動推進計画（第2次計画）」の検討、⑥成果報告会の開催である。

■ 特徴的な活動内容

- ・巡回文庫…市内の全小学校の全クラス（特別支援学級を含む）に実施。学校間の運搬は各学校担当のボランティアで、本と一緒におはなしを届けていただいている（月1回）。
- ・おはなしの講習会…読み聞かせや子どもの読書活動についてのスキルアップ講座開催（年2回）。
- ・ボランティア交流会…ボランティアグループによるおはなし会の実演、情報交換、交流による学習会などを実施（年3回）。
- ・モデル校を設定…コーディネーターが集中的に関わるモデル校を設定（2校）。
- ・学校図書館の大改造…モデル校の坂田小学校で、滋賀県教育委員会生涯学習課の「地域連携による学校図書館活性化ワークショップ事業」を活用し、夏休みに教員、児童、保護者、ボランティア、地域が力を合わせて学校図書館をリニューアル。
- ・成果報告会…事業の報告会を全市民にPRし、ボランティアの活動を広く紹介した（12月に開催）。

■ 実施に当たっての工夫

- ・巡回文庫…子どもたちの手の届く所に本を置き、本に親しむ機会を増やすことを目的とし、毎月各学年に応じた40冊の本を入れた箱を巡回させ、子どもたちが常に新しい本に出会える機会を設けている。
- ・学校図書館の大改造…かつて児童数急増時に普通教室が不足し学校図書館を教室にし、その後、再び図書館に戻したものの学習スペースとして十分な机や椅子がなく、1クラスの授業実施に支障をきたす現状に課題のある坂田小学校で、教員、児童、ボランティア、地元企業の協力のもと、極力費用をかけずにいった。



■ 事業の成果

- ・巡回文庫のボランティアは、これまで子どもが卒業されると同時にボランティアも卒業されることが多かったが、新1年生の保護者が巡回文庫ボランティアに入られると、前年度までのボランティアと一緒に付き添われるなど、きめ細やかな引継ぎがなされた。また、学校図書館の本の整理や壁面製作などの環境整備においても新メンバーに指導してくださるなどの姿が見られた。
- ・学校図書館の大改造によって、学校図書館が読書センター、情報・学習センターとしての機能を兼ね備え、子どもたちの読書環境が整った。実際の作業は1日であったが、改造に当たっての事前準備において、ボランティアによる本の分類・整理、地元の事業所から足りない書架の材料提供、建築組合による室内補修など、地域ぐるみで学校図書館のリニューアルが実現できた。また、保護者も実際に関わることで達成感とともに今後のボランティア活動への意欲につながった。そして、この事後検証としての「学校図書館を活用した授業（6年生の国語の授業）」では、1クラス全員が座れる環境で、学校図書館の使い方・資料の集め方・引用の仕方・まとめ方などを学習でき、地域全体の力で学校図書館の大改造がもたらす効果が絶大であることが実感できた。
- ・おはなしの講習会やボランティア交流会において、読み聞かせの技術向上や情報交換をする中、ボランティア同士のつながりが広がり、成果報告会ではボランティアの活動を広く市民にPRし、活動への呼びかけが図れた。



■ 事業実施上の課題

- ・ボランティアの継続や引き継ぎ、新しくメンバーを確保し育成していくことは、今後も継続した課題である。
- ・今後は、各小学校区で読書活動支援を含め、さまざまな形で学校を支援していく体制を整えていく必要がある。

■ その他

- ・坂田小学校の学校図書館大改造の様子は、行政放送（「伊吹山テレビ」9月5日号）で放映、広報まいばら（9月15日号）に掲載。
- ・平成26年度米原市学校支援地域本部事業成果報告会「本との出会いは宝物」は、平成26年12月13日（土）開催。（参加者75人）

■ 竜王町における学校支援地域本部の取組

■ めざす姿

町内においても核家族化や価値観の多様化等、子どもを取り巻く環境が大きく変化する中で、家庭や地域の教育力の低下が懸念されている。

このような状況下、これからの子育てや教育は、学校（園）のみが役割と責任を負うのではなく、従来以上に学校・家庭・地域の連携を図りながら進めていくことが必要である。

そこで、公民館の学びや人材・情報等を活用しつつ、学校支援のために学校（園）と地域人材をコーディネートしながら、学校・家庭・地域による総ぐるみでの学校支援体制を整えることと併せ、地域や家庭の教育力向上を図る。

更に、一人ひとりの人生をより豊かにする公民館での生涯学習活動が、学校（子どもたち）支援に関わる中で子どもたち（学校）を中心に生まれる仲間づくりへと発展し、これを窓口に、地域へとその対象を広げ、互いに支え合うことを通して、一層のまちづくり活動の推進へと繋げることで、公民館を拠点とした学校・家庭・地域のネットワークはもとより、元気な地域づくり人づくりをめざす。

■ 運営委員会の設置

委員会名称	竜王町学校応援団			
委員名簿	氏 名	所属・役職等	氏 名	所属・役職等
	市田太芽男	中学校教頭	三寄住子	コーディネーター
	関谷典子	小学校教頭	杼木博子	コーディネーター
	新庄 証	西小学校教頭	尾川源太郎	コーディネーター
	寺嶋恭子	幼稚園教頭	関川雅之	公民館長
	富田綾子	西幼稚園教頭	松村知洋	係長
	長岡道子	総括マネージャー	竹山 壽	主査
	草崎 明	コーディネーター		

■ 本年度の活動

12月19日（金）学校応援団ボランティア情報交換会開催

3月 中旬 運営委員会開催。

※ 年3回（学期毎）学校応援団だよりの発行。

※ 通年 学校応援団（ボランティア）募集。

■ 本年度の成果

ボランティア情報交換会では、参加者は少なかったものの、普段支援いただいているボランティアさん同士の活発な情報交換ができた。

■ 今後の課題

- ・ボランティア情報交換会の参加者がまだまだ少ないので、周知の仕方や日程の調整など参加者の増加に向けた対策を検討する必要がある。
- ・支援内容によって、ボランティア登録者が多い支援と少ない支援との差があるので、新たな人材の確保に努めたい。

学校・家庭・地域総ぐるみによる学校支援

■ 竜王町
■ 活動名
竜王町学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校
竜王幼稚園、西幼稚園、竜王小学校、西小学校・竜王中学校

コーディネーター数	4 人
ボランティア登録数 （新規）	48 人
開始年度	平成22年度

活動の概要

核家族化や価値観の多様化等、子どもたちを取り巻く環境が大きく変化し、家庭や地域の教育力の低下が懸念される中、これからの子育てや教育は、学校（園）のみが役割と責任を負うのではなく、公民館の学びや人材・情報等を活用しつつ、学校支援のために学校（園）と地域人材をコーディネートしながら、学校・家庭・地域による総ぐるみでの学校支援体制を整えることと併せ、地域や家庭の教育力の向上を図る。

特徴的な活動内容

○託児支援

- ・竜王幼稚園では、保育参観時や懇談会時に託児支援を行った。お母さんから離れて、始めは泣いていた子どもたちも、しばらくすると遊びはじめ、お母さんのお迎えのときにはすっかり笑顔であった。
- ・竜王西幼稚園でも、PTA総会時や講演会時等に託児支援を行った。「小さい子どもがいるとなかなか参加できない行事もあるので大変助かります。」との保護者の声が多く聞かれた。

○学習支援

- ・竜王小学校で『町たんけん・地域のひとと仲よくならう』の支援を行った。11名のボランティアさんが、町内のお店等に出かけ、インタビューする子どもたちの安全の見守りをしながら引率や、困ったときのサポート等の支援をしてくださった。
- ・竜王西小学校で『たなばた飾り』の支援を行った。ボランティアの皆さんが多く竹を用意して学校へ届けてくださった。また、6名のボランティアさんが七夕飾りを一緒に作ったり、笹に紐で結んだりしてくださった。
- ・竜王小学校で『家庭科』の支援を行った。竜王小学校では、5年生は手縫い、6年生はミシンでの実習のある授業が行われ、16名のボランティアさんがグループ毎に1名ずつ補助として支援を行った。5年生の手縫いによる小物作りでは、完成まで時間がかかったが児童たちはとても喜んでいて、また、6年生からは、感謝の手紙をたくさんいただいた。

○行事支援

- ・竜王小学校・西小学校で田植え・稲刈りの支援を行った。田植え時では、一列に並び掛け声や太鼓の合図で植えていった。稲刈り時では、稲の刈り方や束ね方を熱心に教わっていた。

実施に当たっての工夫

- ・統括マネージャーとコーディネーターとが定期的に会議（定例会）を持つことにより、支援依頼内容を正確に伝えることができる。
- ・支援時には、統括マネージャーやコーディネーターが積極的に学校（園）へ行き、先生はもちろん、支援いただいたボランティアさんと話し合いをしながら、今後につながる情報交換を行う。

事業の成果

- ・1人では難しいことでも、ボランティアの皆さんに分かりやすく支援していただくことにより、できた（達成した）事が自信へとつながり、今後、子どもたちが成長する『きっかけ』になると思っている。

事業実施上の課題

- ・支援内容がいろんな分野であるため、今後、各支援分野においてリーダーを決めるなどして、よりきめ細かな支援ができるよう連携を図っていきたい。
- ・保護者ボランティアさんが子どもの卒園・卒業と同時に活動を終了される場合が多いため、今後継続した活動をしていただくため、何か有効な対策をとっていきたい。



■ 多賀町における学校支援地域本部の取組

■ めざす姿

地域の大人と子どもたちがふれあうことにより、お互いが顔見知りとなって、町全体が安全で安心な空間になるように努めていく。大人と子どもがともに活動することで、大人は、自分の持っている知識や経験を子どもたちへ伝え、子どもたちは大人と接することにより、地域の歴史や伝統を学び、次世代に受け継ぐことを目指す。

■ 本年度の活動

多賀町地域教育力推進協議会という運営委員会を毎月1回開催し、地域における行事案内や地域の課題などを各自が持ち寄り協議検討を行っている。特に子どもの体験活動に関する情報交換では、地域と学校が互いに連携できるように取り組みを進めている。また、地域の教育力の向上に関する事業（広報活動やボランティア研修）に力を入れており、今後の担い手の育成にも取り組んでいる。



【 会議の様子 】

■ 本年度の成果

学校支援地域ボランティアの参加登録者数が87人と昨年と比べて増えた。また、支援した先から喜ばれることが多くなった。地域ボランティアの方も子どもたちと接することにより、社会の役に立てている喜びや生きがいにもつながっている。

■ 今後の課題

学校が求めている支援員の方と実際に登録されている支援員の方の需要と供給が一致しないことが多々生じている。特に、学習活動支援で授業の補助および放課後の学習支援の要望にこたえられていない。大学生などのボランティア登録を考えているが、町内には大学もなく難しい。今後は、近隣の大学との連携を模索していく必要がある。



【 施設見学の様子 】

■ その他

多賀町地域教育力推進協議会 開催数：年10回 委員数：26名

団体	多賀町PTA連絡協議会	企業	多賀町商工会
	多賀町子ども会指導者連絡協議会		J A 東びわこ農業協同組合多賀支店
	多賀町青少年育成町民会議		キリンビール株式会社滋賀工場
	近江猿楽多賀座		中日本エクスス株式会社 EXPASA 多賀
	多賀町分館連絡協議会		株式会社ブリヂストン彦根工場
	子育て支援サークル「たんぽぽ」	学校	多賀中学校
	子育てサークル「パオパオ」		多賀小学校
	多賀幼稚園保護者サークル「ぶらんこ」		大滝小学校
	Dドラファミリー	行政	教育委員会学校教育課
	サークル「わかくさ」		多賀町中央公民館
	グループ「SKO」		あけぼのパーク多賀
	多賀クラブ		産業環境課
	特定非営利活動法人「多賀やまびこクラブ」		多賀町子ども・家庭応援センター

「みんなで支える学校」多賀町学校支援地域本部事業の取組

■ 多賀町
■ 活動名 多賀町学校支援地域本部（従来型）
■ 関係する学校 多賀小学校・大滝小学校・多賀中学校 多賀幼稚園・大滝幼稚園・多賀ささゆり保育園 たきのみや保育園

コーディネーター数	1 人
ボランティア登録数	87 人
開始年度	平成20年度

■ 活動の概要

町内の7つの小中学校、園を対象に、読み聞かせをはじめ環境整備や安全見守りなどを中心に支援している。
また、年に3回程度ボランティアさん向けの研修会を実施している。

■ 特徴的な活動内容

平成24年度より両小学校のプール授業時の監視ボランティアを実施している。
監視台の上からの安全見守りや、プールの虫拾いなど。また見学児童への声掛けなど。暑い時期だが、沢山の方に予定を組んで支援していただいている。今年度は保育園からの依頼も増え、遊具の補修作業などの整備依頼があった。

■ 実施に当たっての工夫

電話連絡に加えて、文書で依頼をお願いし、雨天の際の連絡など学校の判断が必要な場合は、直接ボランティアさんへ連絡していただき、スムーズに変更に対応できるようにしていただいている。また、登録しているだけにならないように、未経験の方にも依頼の声掛けをするようにしている。

■ 事業の成果

学校生活の中で日常的に地域の方が関わることで、子ども達が地域の方に会えるのを楽しみにしていることから、地域の力が活かされていると感じている。

	実施回数	のべ人数
図書関係(読み聞かせなど)	32	150
環境整備	14	43
校内・校外安全見守り	33	59
学習支援	3	9
その他(研修会など)	3	14

* 11月時点



■ 事業実施上の課題

- ・登録していただいているボランティアのみなさんが比較的高齢の方が多く、町に高校や大学がないため、依頼の内容によっては応えられないものもある。また、高齢でボランティア登録を取り消される方もおられる中、今後の課題として、保護者層へ積極的にPRしていくことや、町で開講している講座との連携を図る必要がある。
- ・決まった時期や曜日に学事が集中し依頼が重なるため、ボランティアさんの確保が難しいこともある。

■ その他

町の広報に学校支援ボランティアだよりというコーナーがあり、毎月学校支援の活動報告を掲載している。活動している自分の姿が広報に掲載されることで自信に繋がり、積極的な関わりを持つきっかけとなっている。